平成３０年度研究集録

一人一人の学びを支える
インクルーシブな学校づくり・２年次

～大笹生支援学校モデルカリキュラムの開発と授業実践Ⅱ～

福島県立大笹生支援学校

平成３１年３月２５日

目　次

はじめに

第１章　校内研究
　第１節　研究主題について
　第２節　研究の計画
　第３節「育みたい資質・能力」の明確化
　第４節「年間指導計画モデル」の作成
　第５節「学びの過程」を踏まえた授業実践
　第６節　研究のまとめ

第２章　大笹生支援学校の学校づくり
　第１節　カリキュラム・マネジメント
　第２節　地域支援センターささっこ
　第３節　ＯＪＬ（On the Job Learning）の取組
　第４節　公開研究会

編集後記

はじめに

平成２８年１２月に示された中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」においては、新しい時代に必要となる資質・能力の育成ということが言われました。これからの社会を生きる子どもたちに求められる資質・能力を明確にし、学校教育において「何を学ぶのか」「どのように学ぶのか」という共通理解を図ることが求められています。さらに、今回改定された学習指導要領においても、これらの事柄について、カリキュラム・マネージメントという視点での各学校の主体的な取組が期待されています。

一方、教員に求められる資質能力については、中央教育審議会から「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」（平成２４年８月２８日）及び「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」（平成２７年１２月２１日）などの答申が出されております。平成２４年８月の答申では、これからの教員に求められる資質能力として、①社会から尊敬・信頼される教員、②思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員、③困難な課題に同僚と協働し地域と連携して対応する教員、④探究心を持ち学び続ける存在としての教員などが示されました。さらに、平成２７年１２月の答申においても同様の内容が言われているとともに、学校におけるチーム力の向上を図り、保護者や地域の力を学校運営に生かし、組織的に諸課題に対応できる学校の姿が求められています。

本校では、障害者の権利に関する条約の理念に基づき「インクルーシブな学校づくり」を学校運営の柱に掲げ、学校全体で組織的な取組を推進してきました。本研究集録では、研修部が中心となって行った「校内研究」と、教務部及び地域支援部が取り組んだ「大笹生支援学校の学校づくり」を中心に報告させていただきます。本研究では、これら二つの取組について、お互いに密接な関連を持って展開したことが大きな特徴であります。特別支援学校における研究では、研修部が中心となった授業研究を中心とした校内研究が一般的に行われてきました。今回の取組においては、これまで行っていた授業研究を大切にしながら、学校組織全体としてのチームアプローチによって、大笹生支援学校が目指す学校の姿にせまれるように実践を進めました。

現在、学校を取り巻く課題は多種多様であります。これからの社会の変化に対応した教育を実践していくためには、教員一人一人の資質能力の向上は不可欠ですが、それを支える学校組織としての取組が特に重要であると考えます。本校が取り組んだ実践研究が皆様の参考にしていただければ幸いに存じます。最後に、実践研究を進めるにあたって御助言、御支援をいただきましたたくさんの方々に厚く御礼を申し上げます。

平成３１年３月

福島県立大笹生支援学校長　片寄　一

第１章　校内研究

第１節 研究主題

１　障害者の権利に関する条約
２　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築
３　インクルーシブな学校とは
４　大笹生支援学校が目指す学校の姿
５　インクルーシブな学校づくりとモデルカリキュラム

第１節　研究主題について

本節では、研究主題である「インクルーシブな学校づくり」について、本校における定義づけやその背景について明確にし、本研究内容である「大笹生支援学校モデルカリキュラム」についてのつながりを明らかにする。

１　障害者の権利に関する条約（Convention on the Rights of Persons with Disabilities）

２００６年１２月国連総会において、「障害者の権利に関する条約」が採択され、国際的に障がい者の権利と尊厳を保障する条約が締結された。日本においては、２０１３年１２月４日、障害者基本法や障害者差別解消法の成立に伴い、国内の法律が条約の求める水準に達したとして、条約の批准を承認した。日本国の批准は２０１４年１月２０日付けで国際連合事務局に承認されている。（※固有名詞については、国の表記に従い「障害者」としています。）

本条約の第２４条には、教育について示されており、障がいのある者を包容するあらゆる段階の教育制度（インクルーシブ教育システム）及び生涯学習を確保すること、障がいのある者が障がいに基づいて一般的な教育制度から排除されないこと、個人に必要な合理的配慮が提供されることなどが示されている。本条約及び関係する法令を背景に、我が国では「インクルーシブ教育システム」を構築する動きが高まっている。

障害者の権利に関する条約第24条の1
インクルーシブ教育システムの目的

（a）人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の**多様性の尊重**を強化すること。
（b）障害者が、その人格、才能及び創造力並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発達させること。
（c）障害者が、自由な社会に効果的に参加することを可能とすること。

特に（a）に着目
障がいのある子どもの発達や社会参加のためだけではなく、全ての子どもの多様性に対する認識等を育むもの

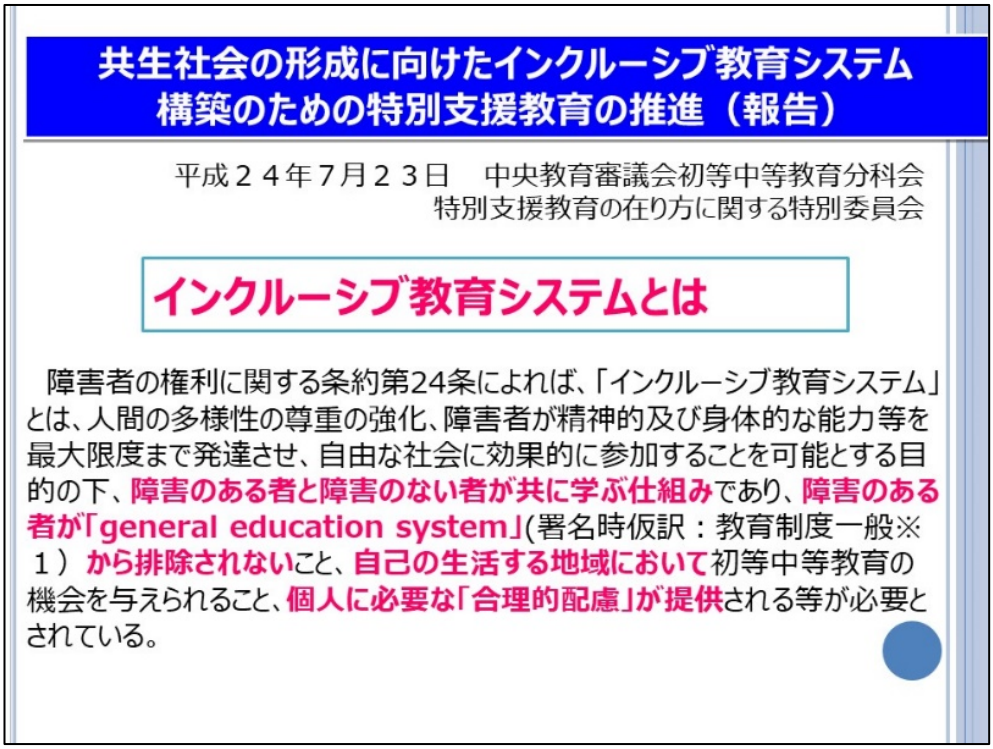
（引用・参考）平成２４年７月 23 日中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別員会資料会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（太字、下線、下部の枠内は筆者による。）

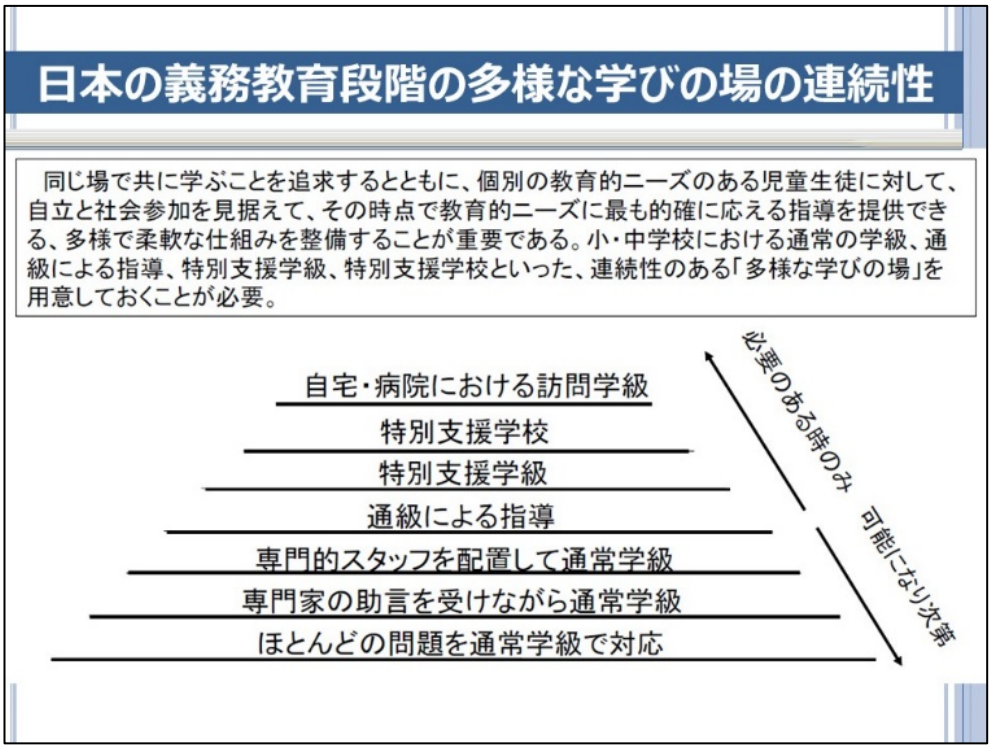
２　共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築

２０１２年７月、障害者の権利に関する条約の批准に先駆けて、中央教育審議会初等中等教育分科会により「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」がまとめられた。共生社会とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。共生社会の形成に向けては、障害者の権利に関する条約に基づくインクルーシブ教育システムの理念が重要であるとされている。

インクルーシブ教育システムとは、障がいのある者と障がいのないものが共に学ぶ仕組みであり、障がいのある者が一般的な教育制度から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられていること、個人に必要な合理的配慮が提供されること等が必要とされていることが示されている。

ただし、単に同じ場にいることを目指すのではなく、「授業の内容がわかり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身につけていけるかどうかが重要であり、そのために、教育的ニーズのある子供に対して、その時点で最も的確に指導を提供できる、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である」とされている。





（引用）平成２４年７月 23 日中央教育審議会初等中等教育分科会特別支援教育の在り方に関する特別員会資料会「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（太字は筆者による。）

３　インクルーシブな学校とは

障がい者の権利に関する条約、共生社会の理念、インクルーシブ教育システム等の我が国における教育的動向を踏まえ、本校では「インクルーシブな学校」を学校経営運営ビジョンに掲げ、インクルーシブ教育システムの理念を踏まえ、その一員として本校に求められる役割を果たしていくこととした。（図1）

本校は、知的障がい教育を基盤とする特別支援学校であり、知的障がいのある児童生徒に対する教育を専門的に行う教育の場である。本来、インクルーシブ教育システムでは、障がいのある者と障がいないものが共に学ぶことを追求するものであるが、「学びの場の連続性」の仕組みの一部として捉えると、本校の役割としては、本校に在籍する児童生徒に対する教育の充実と、地域の児童生徒や保護者を支えるための学校や関係機関との連携とに分けられる。前者は、自立と社会参加に向けた児童生徒一人一人の確かな学びに向けて、教育課程を中心に適切な指導・支援を追求し、教育効果の最大化を目指した取組である。後者は、交流及び共同学習など障がいのある者と障がいのない者のつながりを作ることや、特別支援教育のセンター的機能や学校間連携を高め、地域の児童生徒への支援を行う取組である。こうした取組を学校内にとどめず、共生社会の形成を目指したインクルーシブ教育システムの一員として地域社会と連携・協働することが重要であると考える。

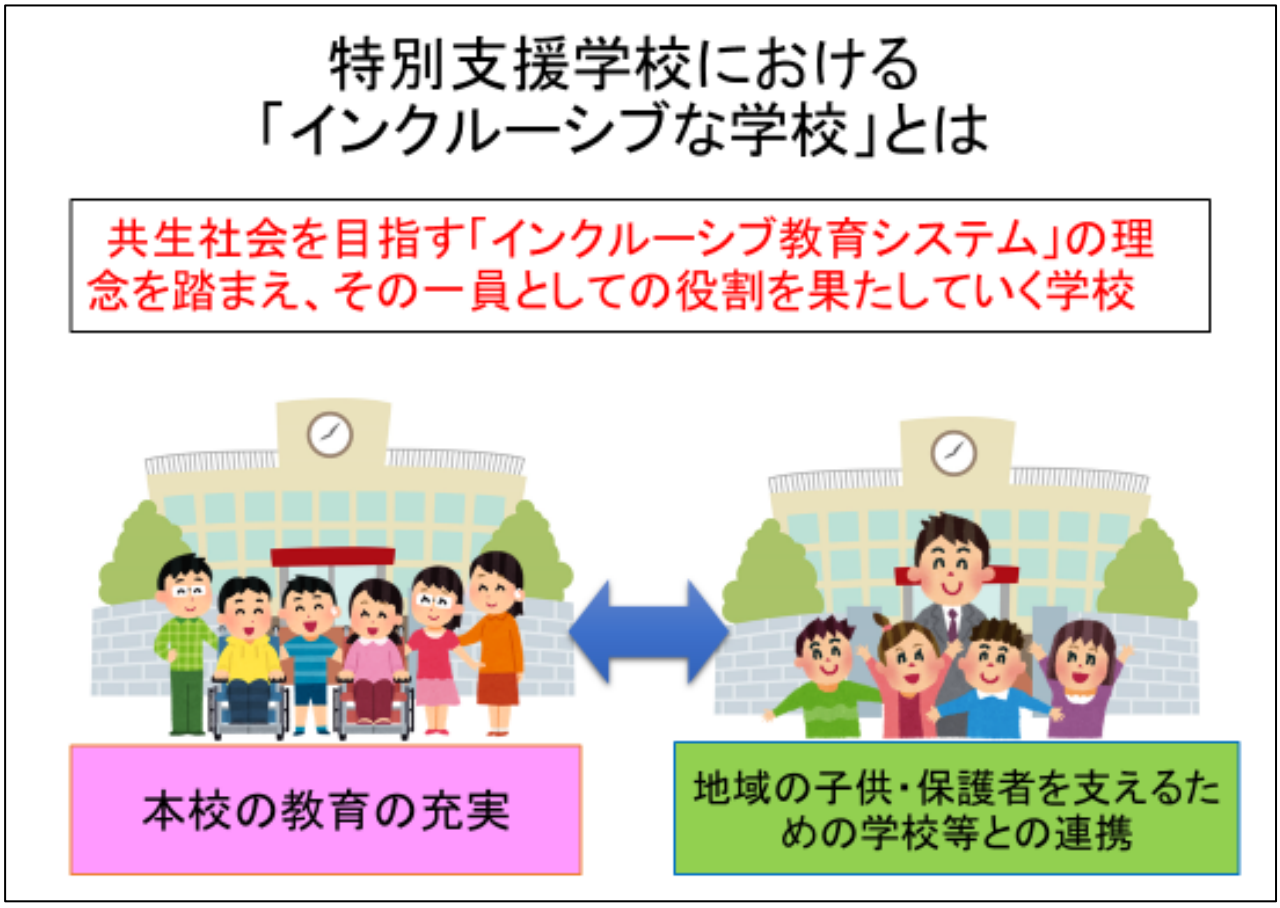


図１　特別支援学校におけるインクルーシブな学校のイメージ

（引用）２０１８年５月１８日大笹生支援学校外部専門家活用研修会①資料より

４　大笹生支援学校が目指す学校の姿

本校では、平成２９年度より「インクルーシブな学校」に向けた学校運営を柱に取組を進めてきたが、平成３０年度はさらにその方向性を具体化し、「共に学ぶ学校」を合わせて示すこととした。校内の児童生徒同士はもちろん、校内の教員同士、地域の子供たちや保護者、それを支える学校と教員、地域の関係機関、地域の人々など、本校に関わる全ての人がそれぞれに学びを深め、共に学び共に生きる社会に向かうことができる場でありたいとの願いを込め、本校の目指す学校の姿とした。

「障害者の権利に関する条約第２４条１」に示すインクルーシブ教育システムの目的として、「多様性の尊重の強化」「個々の能力を最大限度まで発達させること」「自由な社会に効果的に参加することを可能とすること」が示されている。この目的に沿った形で本校における学校づくりの基本的な考えを組み立てている。（図２）

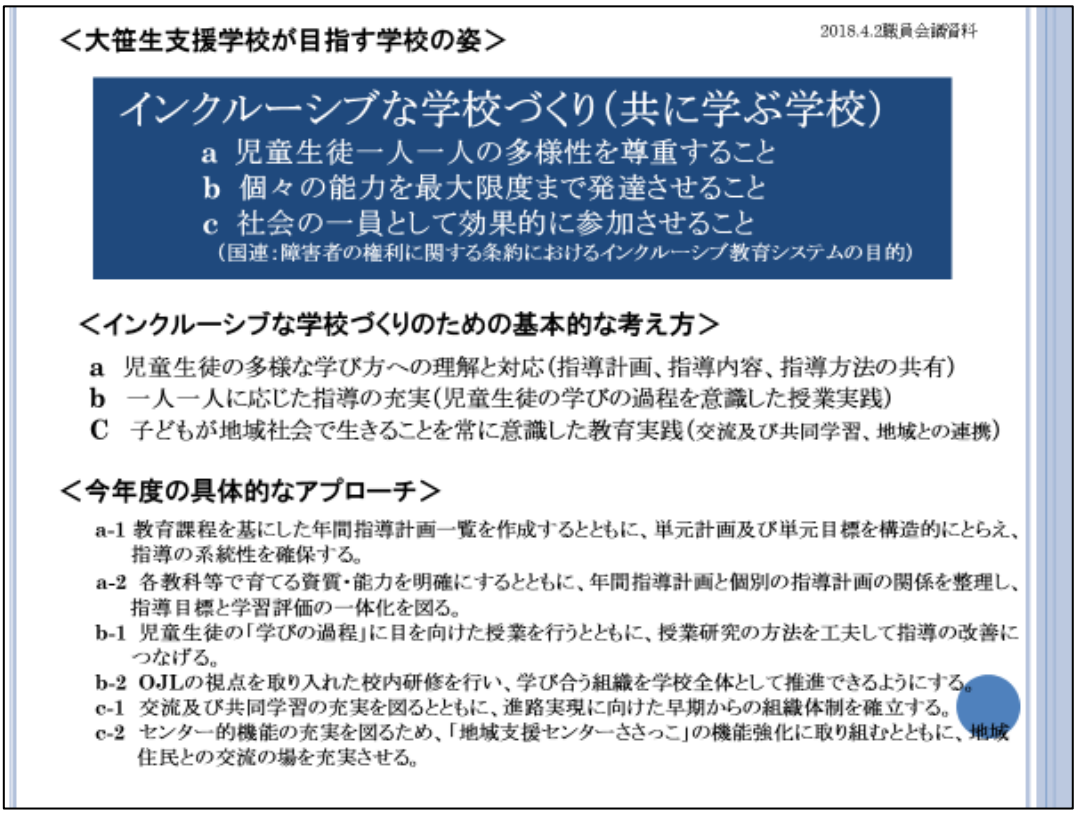


図２　大笹生支援学校が目指す学校の姿

（引用）片寄一校長２０１８年４月２日職員会議資料より

５　インクルーシブな学校づくりとモデルカリキュラム

本研究において、研究主題を「一人一人の学びを支えるインクルーシブな学校づくり」にした大きな理由が、上記に示した背景とそのつながりを教員一人一人が意識し、「学校づくり」という大きな視点から一人一人の児童生徒の指導・支援、学級の授業づくりについて検討していくことが重要であると考えたためである。教員一人一人がビジョンを共有することで、教育課程や授業実践が学校全体のものとして共有され、学校教育の質の向上につながると考えている。

本校には、知的障がいのある児童生徒が在籍するが、その実態は幅広く、知的障がいの程度、自立や社会適応の状態が様々であるだけでなく、肢体不自由や自閉症スペクトラム、情緒障が

い等、他の障がいを合わせ有する児童生徒や医療的ケア等個別の配慮が必要な児童生徒、訪問教育を必要とする児童生徒、隣接する学園に在籍する児童生徒など多様な実態が混在している。こうした状況の中でも、多様性を尊重し、最大限に能力を発達させ、社会参加することができるようにするための教育の提供を追求することが求められる。

そのためには、担任や教科担当など教員一人一人の力量の向上を目指すだけではなく、学校全体として多様な実態に対応できる教育課程と個別に対応できるシステムの確立が不可欠であると考える。教員自体も職務経験や得意分野等が多様化する中で、大量退職、大量採用、働き方改革など教員を取り巻く時代背景などを鑑みると、個々の力量の向上だけでは対応できないことも多くなり、学校全体として児童生徒の学びを保障する仕組みが必要である。その仕組みの中心となるのが教育課程である。教育課程を基盤とし、各教員が、学級別、個別に対応しながらも系統的段階的な力の育成を目指した授業づくりや授業改善に取り組む。そして、そのノウハウがまた教育課程に還元される。その循環の中で教員一人一人が学びを深め、力量を高めるとともに学校全体の教育の質の向上が図られるという仕組みづくりが必要であると考える。

平成２８年１２月に示された中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」及び平成２９年４月に公示された特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の中で、「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」が示された。（図３）これらの理念は本校の課題解決につながる大きな指針となるものであり、今回の学習指導要領の改訂を機に研究内容として取り上げることとした。特に「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」のつながりを明確にし、本校としての教育課程の見直しと授業の充実につなげていくことが重要であると考える。

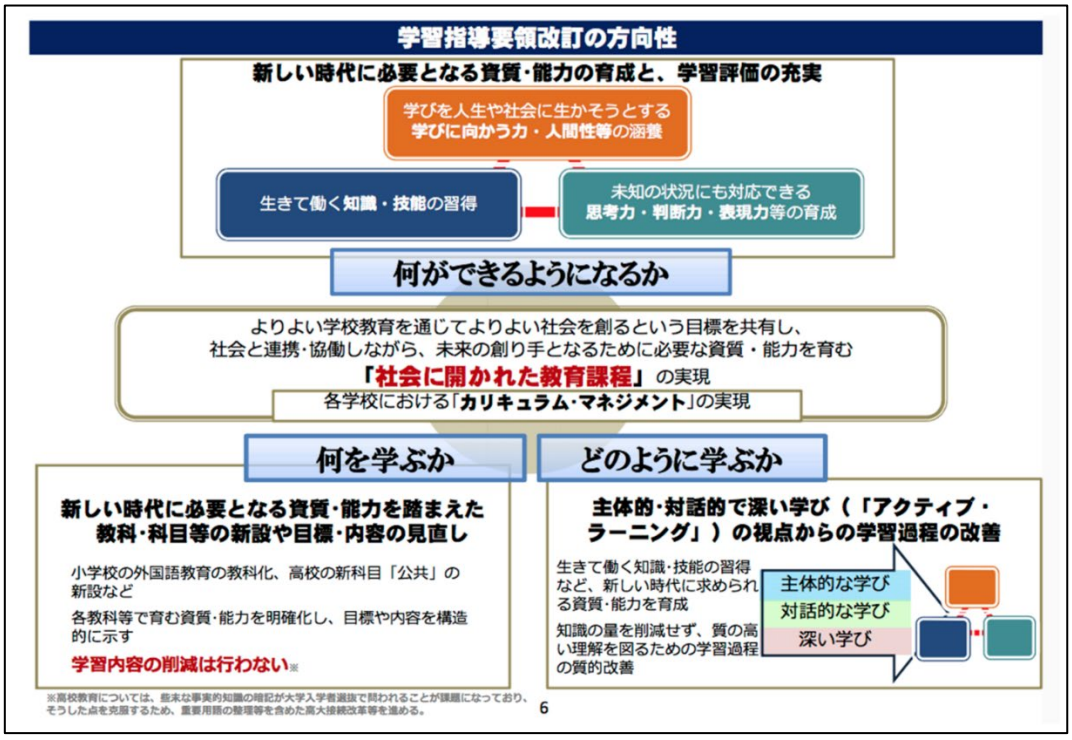


図３　学習指導要領改訂の方向性

（引用）文部科学省ＨＰ　中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）補足資料」

本校では、「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」３点のつながりを明確にしながら、重点として「育みたい資質・能力の明確化」「年間指導計画モデルの作成」「学びの過程を踏まえた授業実践」の３つの研究内容を取り上げることとした。これら３つを合わせて「大笹生支援学校モデルカリキュラム」（図4）とし、本校の教育課程の構造を可視化（見える化）する。可視化することを通じて、それぞれの教員が教育課程を理解し共有するとともに教育課程の改善・充実に向けて連携・協働することができるようになり、児童生徒の多様性に応えながらもつながりのある質の高い授業づくりの基盤を作ることができると考える。

また、このモデルカリキュラムを開発する過程そのものが、目の前の児童生徒の姿を踏まえながら学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」につながるとともに、教員一人一人が学習指導要領への理解を深め、授業力と組織力等の向上につながることが期待できる。

このような取組を通して、児童生徒一人一人の多様性を尊重し、自立と社会参加に向けた教育ニーズに応える「インクルーシブな学校」へと迫ることができるのではないかと期待し、本研究を進めている。

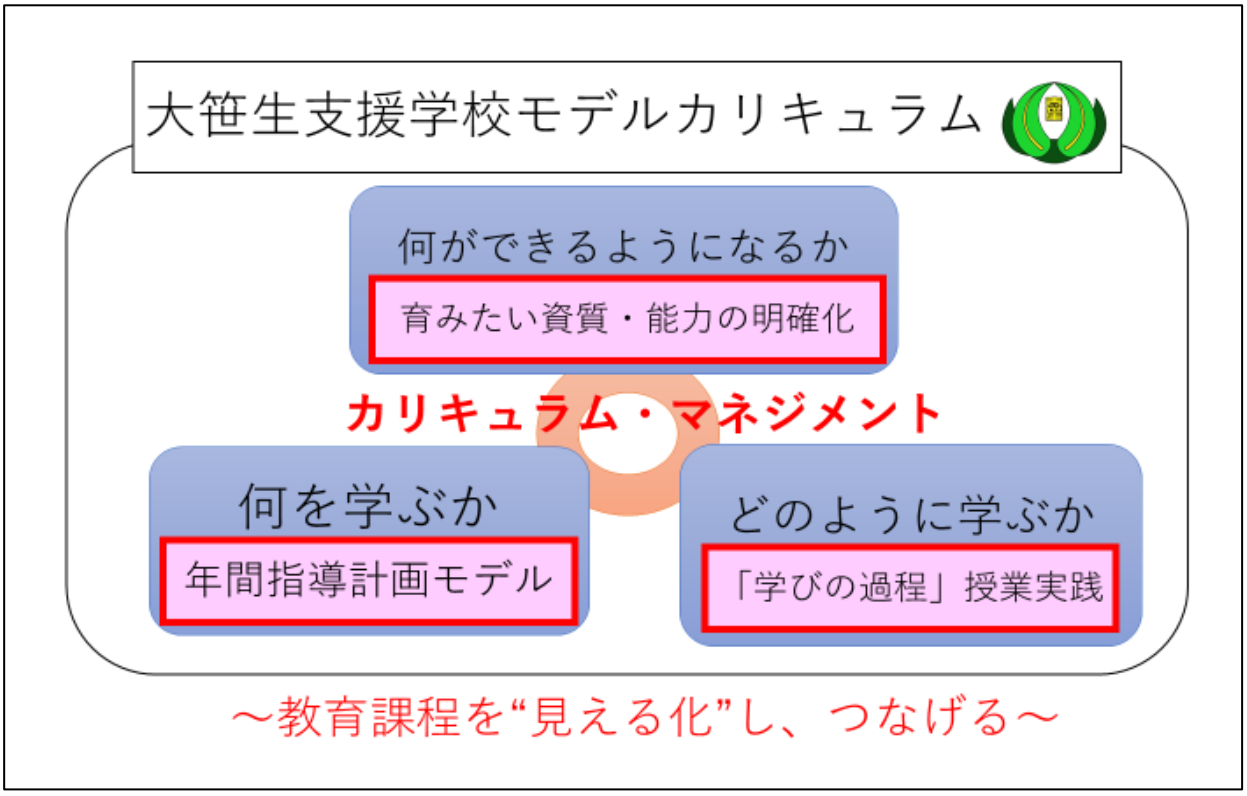


図４　大笹生支援学校モデルカリキュラム

（引用）２０１８年４月２４日大笹生支援学校研修全体会資料より

第２節　研究の計画

１　研究主題（平成２９～３１年度）
２　研究仮説
３　研究内容
４　研究方法
５　年次計画
６　２年次（平成３０年度）の取組
７　２年次（平成３０年度）年間予定
８　研究グループ

第２節　研究の計画

本節では、校内研究３年間の計画の概要と本年度の年間予定についての概要を示す。

１　研究主題（平成２９～３１年度）

一人一人の学びを支えるインクルーシブな学校づくり

２　研究仮説

「大笹生支援学校モデルカリキュラム」として、①「育みたい資質・能力」の明確化、②「年間指導計画モデル」の作成、③「学びの過程」を踏まえた授業実践の取組を通して、本校の教育課程の構造を可視化し、学校全体で連携・協働して改善・充実を図ることで、児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指し、多様な教育的ニーズに応える「インクルーシブな学校」の実現に迫ることができるのではないか。

３　研究内容

研究主題に迫るための方策として、学習指導要領の改訂の方向性として示されたカリキュラム・マネジメントの枠組みを使用し、「大笹生支援学校モデルカリキュラム」として教育課程の構造を可視化し、学校全体で連携・協働して改善・充実を図る取組を行う。主な内容としては、①「育みたい資質・能力」の明確化、②「年間指導計画モデル」の作成、③「学びの過程」を踏まえた授業実践に取り組んでいく。

「①『育みたい資質・能力』の明確化」は、教育目標の具現化のためにどのような資質・能力を育てるのかを明確にし、教職員が共通意識を持って指導を進めていくために必要なものである。また、その方向性を学校独自に留めず、一般社会や各学校間でのつながりを意識して、社会に開かれたものにする必要がある。そこで、中教審答申で示された育成を目指す資質・能力３つの柱「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」を踏まえつつ、本校の教育目標と育みたい資質・能力の整理を進める。本研究では、中教審答申で示された「育成を目指す資質・能力３つの柱」と区別するため、本校で具体化していく資質・能力を「育みたい資質・能力」と表記する。

「②『年間指導計画モデル』の作成」は、本校における教育内容の整理と共有化を目的としている。これまでに培ってきた各教育課程の単元や題材についての良さを改めて見直し、その配列や学年間、学部間の系統性を整理し改善を図るために作成していく。「モデル」としたのは、様々な学級の実態に応じて年間指導計画は柔軟に対応していく必要があり、計画に縛られすぎずに具体的な計画作成の基準になるようなものを想定しているためである。また、「モデル」があることによって、各教員が小学部、中学部、高等部の教育について共通理解を図ったり、保護者や地域の方々へ本校教育についての理解を図ったりすることにもつながると考える。

「③『学びの過程』を踏まえた授業実践」は、これまでの校内研究の成果を踏まえ、さらに充実した授業研究を進めることを目的としている。「学びの過程」は、児童生徒が学ぶことに意味や価値を感じながら主体的に学習に取組、物事に対する理解や思いなどを積み重ねる過程である。それを実現するためには、どのような流れや手立てが必要であるか、単元（題材）や各授業場面において検証し、研究グループごとに実践的知見をまとめたり、全体で共通する内容をモデル化しまとめたりする。その際、学習指導要領で示された「主体的・対話的で深い学び」について併せて検討する。

４　研究方法

「育みたい資質・能力」の明確化

（１）学習指導要領に関する研修会を実施し、改訂についての共通理解を図る。（１年次）
（２）「育みたい資質・能力」について素案を設定し、協議を行いながら検討する。（1～2年次）
（３）「育みたい資質・能力」に基づく評価方法について検討する。（３年次）

「年間指導計画モデル」の作成

（１）教育課程及び学年ごとに「年間指導計画モデル」を作成する。（１年次）
（２）教育課程及び学年ごとに「年間指導計画モデル」を検討・改善する。（２年次）
（３）教科間のつながりや系統性を踏まえ「年間指導計画モデル」を検討・改善する。（３年次）

「学びの過程」を踏まえた授業実践

（１）「年間指導計画モデル」から単元（題材）を抽出し、授業研究を行う。（１～３年次）
（２）「学びの過程」について検討し、まとめる。（１年次）
（３）「主体的・対話的で深い学び」について検討し、まとめる。（２～３年次）

５　年次計画

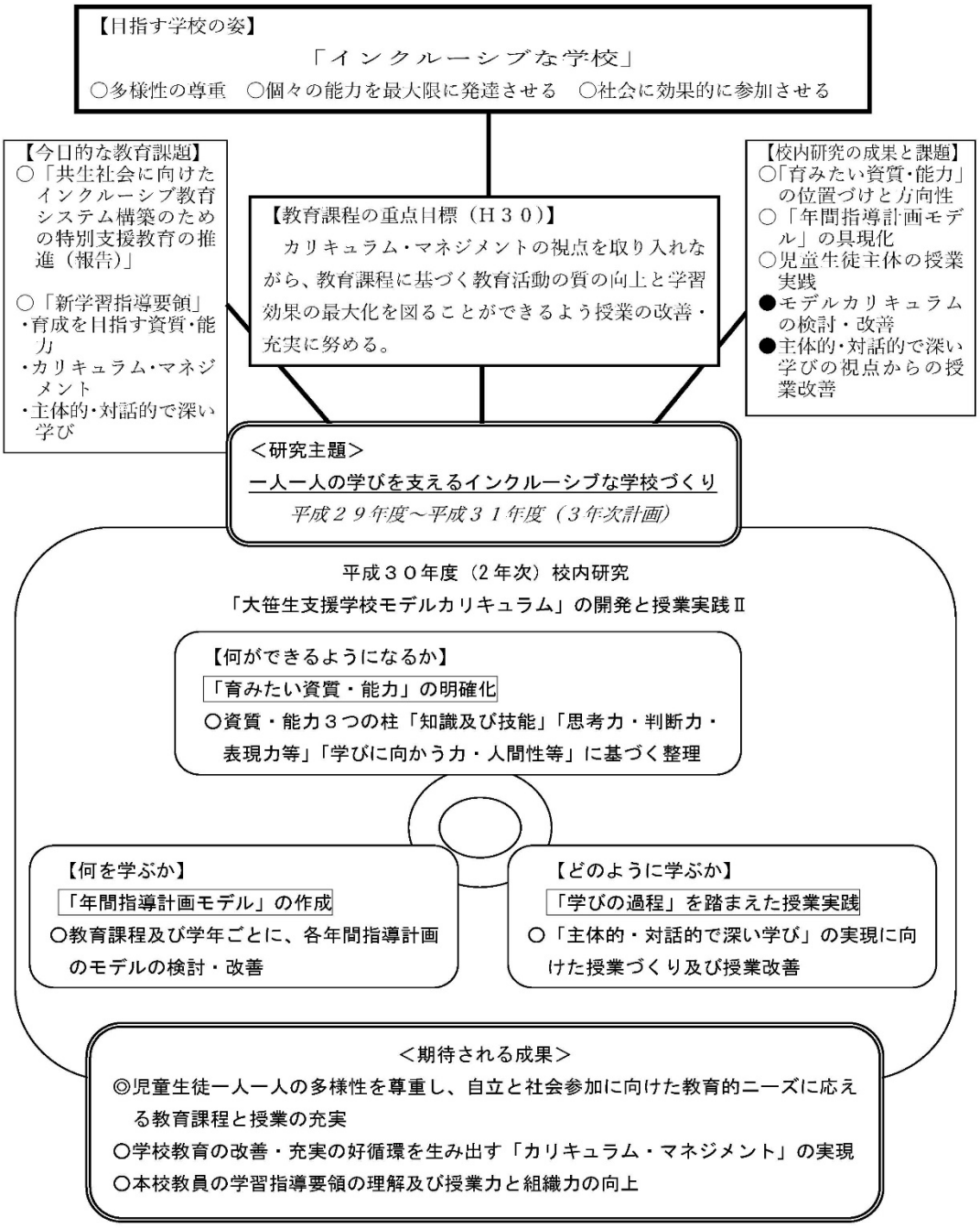
年次	副主題	「育みたい資質・能力」の明確化	「年間指導計画モデル」の作成	「学びの過程」を踏まえた授業実践
１年次 Ｈ２９	大笹生支援学校モデルカリキュラムの開発と授業実践Ⅰ	○「資質・能力」素案の検討 ※教務部と研修部が連携して提案	○教育課程の中心となる各教科等（生活単元学習・作業学習等） ※自立活動を含む	○事前検討会・研究授業・事後検討会 （各グループ２事例） ○「学びの過程」の検討
２年次 Ｈ３０	大笹生支援学校モデルカリキュラムの開発と授業実践Ⅱ	○「資質・能力」の明確化と実際 ※教務部と研修部が連携して提案	○その他の各教科等（国数音体美職家、総合等） ※自立活動を含む	○事前検討会・研究授業・事後検討会 （各グループ２事例） ○「主体的・対話的深い学び」の検討
３年次 Ｈ３１	大笹生支援学校モデルカリキュラムの開発と授業実践のまとめ	○「資質・能力」による評価の実際	○教科間のつながりや系統性を踏まえた改善	○事前検討会・研究授業・事後検討会 （各グループ２事例） ○「主体的・対話的深い学び」のまとめ

６　２年次（平成３０年度）の取組

１年次（平成２９年度）の取組では、①「資質・能力」を学校教育目標と実践との関連の中で、位置づけと方向性を明確にしたこと、②各学部・各教育課程・各学部の「年間指導計画モデル ver.1」を整理し具現化したこと、③研究グループごとに児童生徒主体の授業実践を行い、授業のポイントについてまとめたことなどの成果が見られた。

一方、モデルカリキュラムの更なる検討・改善が課題として挙げられ、２年次（平成３０年度）は、①「育みたい資質・能力」を各学部で共有する手続きの検討や、②年間指導計画モデルの検討・改善、③「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善等に取り組む。教育課程の重点目標においてもカリキュラム・マネジメントの視点による授業の改善・充実が挙げられており、モデルカリキュラムを活用しながら授業の改善・充実につながる研究を進める。

＜Ｈ３０校内研究の構造＞



７　２年次（平成３０年度）年間予定

月	事項	実施内容	備考
４月	研究全体会① ４月２４日（火）	○平成３０年度校内研究推進計画の提案	
５月	学部会 ５月２日（水） 研修日① ５月１５日（火） 外部専門家研修会① ５月１８日（金）	○校内研究の進め方及び研究資料の説明 ○研究グループの編成（学部ごと） ○グループ研究計画立案（研究グループ） ○「インクルーシブな学校づくりを考える会①」 【講師：JICA 国際協力機構技術顧問　滝坂信一氏】	※グループ研究計画の提出
６月	研修日② ６月２２日（金）	○グループ協議①	
７月	研修日③ ７月１１日（水）	○グループ協議②	※研究資料の提出
８月	外部専門家研修会② ８月２３日（木）	○「OJL 研修会」 【講師：立正大学非常勤講師　ｐｈ,D　小野寺哲夫氏】	
９月	研修日④ ９月１１日（火） 外部専門家研修会③ ９月１３日（木）	○グループ協議③ ○個別事例検討会 【講師：宇都宮大学准教授　岡澤慎一氏】	
１０月	研修日⑤ １０月　２日（火） 特別支援学級担当教員研修会 １０月２６日（金）	○グループ協議④ ☆*「育みたい資質・能力」に関するアンケート* ○教育講演会 【講師：群馬医療福祉大学教授　江原京子氏】	※育みたい資質・能力に関するアンケートの提出
１１月	研修日⑥ １１月　１日（木）	○グループ協議⑤	
１２月	研修日⑦ １２月　５日（水） 公開研究会 １２月１４日（金）	○グループ協議⑥ ○教育講演会 【講師：植草学園大学准教授　菊地一文氏】	※研究資料の提出 ※年間指導計画モデルの提出
１月	研修日⑧ １月９日（火） 外部専門家研修会④ １月１８日（金）	☆*「育みたい資質・能力」の検討・整理* ○研究グループのまとめと運営上の課題 ○「インクルーシブな学校づくりを考える会②」 【講師：JICA 国際協力機構技術顧問　滝坂信一氏】	※研究グループのまとめの提出
２月	研究全体会② ２月１８日（火）	○校内研究の報告（成果と課題） ○平成３１年度校内研究計画案の提案	
３月	研究集録の作成･印刷	○平成３０年度研究集録の作成・印刷 ○平成３１年度校内研究計画案の修正	

８　研究グループ

№.	研究グループ名	リーダー	年計作成	授業者	司会	ビデオ	まとめ・記録
1	小学部類型Ⅰ	中村里永子	木村野麦 八巻茉以 菊地郁惠	寺崎里都子 八巻茉以	中村里永子 薄井真紀	尾形徳洋	遠藤慎也 佐藤明子
2	小学部類型ⅡA 1・2年	安齋梨沙	樫村知哲 皆川美紀	樫村知哲 熊谷美奈	遊佐美弥子	加藤由佳里	黒子知美 皆川美紀
3	小学部類型ⅡA 3・4年	佐藤亜里	菅野喜徳 吉田里奈	太田陽子 秋山由依子	山口哲也 武田桂子	中島篤志	高橋恵
4	小学部類型ⅡA 5・6年	岩佐信子	小椋葵加里 鈴木菜苗	鴫原一寿 篠原恵美	菅野幸伸	樅山伊公子	生方彩海 菅玲子
5	小学部類型ⅡB	遠藤順子	阿部友耶 吉田眞理子	加藤琢也 鈴木菜苗	冨田篤	永峯美緒	永峯美緒
6	中学部類型Ⅰ	星　純恵	富村祥子 古山敦子	円谷昌史 菊田　源	相沢すみ子 三浦恒樹	大竹和美 矢吹典子	塚原祐子 三浦瑞姫 栗田律子
7	中学部類型ⅡAB	佐々木佳代	菅野マリエ 末永義明 青柳悦江	関口秀 佐川裕美	平克彦 高野美生 本田美佳	平野真実子	鈴木美香 相原聖美 佐々木由香 村上まゆみ
8	高等部類型ⅠAB	阿部広美 二階堂俊介	五十嵐佳奈 平野留美	大橋清香 赤井識史 志賀真実 古山千裕	遠藤美英 岩倉可奈恵	鈴木秀騎 丹野智春 江口元司	渡邉由貴 西川まみ 江田　綾
9	高等部類型ⅠC①	伊藤孝之	樋口裕香 尾形美左子	鈴木允恵 湯川麻愛子	滝田隆介	吉田和美 石田裕二	朽木久枝
10	高等部類型ⅠC②	佐久間元子	佐藤健太 三浦志帆	赤沼宏子 力丸卓也 石高敦子 岩倉可奈恵	畠腹雅人 引地真澄	野地宏 芳賀由佳子	渡辺祐二 原千晶
11	高等部類型ⅡAB	渡辺史宏	土田　崇	佐久間英雄 宮澤美子 齋藤みち子 吉田由香里	渡邉なおみ	渡辺史宏 黒沢和久	黒沢和久
12	類型ⅡC （小・中・高）	渡邉明子	廣瀬岳裕 大場智江	小柴潤子 大場智恵 横山文恵 丹治誠市	小柴潤子 佐々木啓子	齋藤彩名 丹治誠市	横山奈美子 水本敬子 横山文恵
13	類型Ⅲ （訪問）	荒川真紀	平川佐智恵	能呂順子	荒川真紀		渡辺美樹

第３節
「育みたい資質・能力」の明確化

１　学習指導要領が示す「育成を目指す資質・能力」とは
２「育みたい資質・能力」明確化の取組

第３節　育みたい資質・能力の明確化

本節では、「何ができるようになるか」に焦点を当て、平成２９年４月公示の文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」（以下新学習指導要領）と平成３０年３月特別支援学校学習指導要領解説（以下解説）に示す「育成を目指す資質・能力」について整理するとともに、本校の「育みたい資質・能力」の明確化の取組について述べる。

１　学習指導要領が示す「育成を目指す資質・能力」とは

（１）なぜ「資質・能力」を明確にするのか

３　２の（1）から（4）までに掲げる事項の実現を図り，豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される児童又は生徒に，生きる力を育むことを目指すに当たっては，学校教育全体並びに各教科，道徳科，外国語活動，総合的な学習の時間，特別活動（ただし，第３節の３の（2）のイ及びカにおいて，特別活動については学級活動（学校給食に係るものを除く。）に限る。）及び自立活動の指導を通してどのような資質・能力の育成を目指すのかを明確にしながら，教育活動の充実を図るものとする。その際，児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえつつ，次に掲げることが偏りなく実現できるようにするものとする。

(1)　知識及び技能が習得されるようにすること。

(2)　思考力，判断力，表現力等を育成すること。

(3)　学びに向かう力，人間性等を涵養すること。

（引用）文部科学省「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領（平成２９年４月告示）」Ｐ62-63

上記の「２の（１）から（４）」とは、いわゆる「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」に「自立活動の指導」の４点を示している。上記は「生きる力」を育むに当たって、「知識及び技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」（育成を目指す資質・能力三つの柱）をねらいとしたことを示したものである。

解説（総則編Ｐ１８９）によれば、

今回の改訂は，「生きる力」の育成という教育の目標が各学校の特色を生かした教育課程の編成により具体化され，教育課程に基づく個々の教育活動が，児童生徒一人一人に，社会の変化に受け身で対応するのではなく，主体的に向き合って関わり合い，自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら，よりよい社会と幸福な人生を切り拓ひらき，未来の創り手となるために必要な力を育むことに効果的につながっていくようにすることを目指している。そのためには，「何を学ぶか」という教育の内容を重視しつつ，児童生徒がその内容を既得の知識及び技能と関連付けながら深く理解し，他の学習や生活の場面でも活用できる生きて働く知識となることを含め，その内容を学ぶことで児童生徒が「何ができるようになるか」を併せて重視する必要があり，児童生徒に対してどのような資質・能力の育成を目指すのかを指導のねらいとして設定していくことがますます重要となる。

としている。つまり、「生きる力」を育むためには、「何を学ぶか」という視点だけでなく、児童生徒が「何ができるようになるか」という視点が必要であり、「何のために学ぶのか」と

いう学習指導の目的を児童生徒自身の「資質・能力」の育成に焦点化したということである。そして、国内外の研究の蓄積に基づき、各教科等で育まれる資質・能力、学習の基盤となる資質・能力、現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力といった、あらゆる資質・能力に共通する要素を整理したものが「資質・能力の三つの柱」であるとされ、学習指導要領改訂はこの「資質・能力の三つの柱」に基づいて整理されることとなった。

上記の理由から、学習指導要領に示す各教科等の目標や内容が、育成を目指す資質・能力三つの柱で再整理され、それぞれ明確化されている。

これについて、解説（総則編Ｐ１９０）では、

> 児童生徒に育成を目指す資質・能力を三つの柱で整理することは，これまで積み重ねられてきた一人一人の児童生徒に必要な力を育む学校教育の実践において，各教科等の指導を通して育成してきた資質・能力を再整理し，教育課程の全体として明らかにしたものである。そのことにより，経験年数の短い教師であっても，各教科等の指導を通して育成を目指す資質・能力を確実に捉えられるようにするとともに，教科等横断的な視点で教育課程を編成・実施できるようにすること，更には，学校教育を通してどのような力を育むのかということを社会と共有することを目指すものである。

としている。これは、学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」につながるものであり、社会と学校が連携・協働して児童生徒の「生きる力」を着実に育成する教育課程の編成・実施が今学校に求められている。

（２）育成を目指す資質・能力の三つの柱

解説（総則編Ｐ１９１～１９４）では、育成を目指す資質・能力三つの柱について、それぞれ下記のように説明されている。

> ① 知識及び技能が習得されるようにすること
>
> 資質・能力の育成は、児童生徒が「何を理解しているか、何ができるか」に関わる知識及び技能の質や量に支えられており,知識や技能なしに、思考や判断、表現等を深めることや、社会や世界と自己との多様な関わり方を見いだしていくことは難しい。一方で、社会や世界との関わりの中で学ぶことへの興味を高めたり、思考や判断、表現等を伴う学習活動を行ったりすることなしに、児童生徒が新たな知識や技能を得ようとしたり、知識や技能を確かなものとして習得したりしていくことも難しい。こうした「知識及び技能」と他の二つの柱との相互の関係を見通しながら、発達の段階に応じて、児童生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるようにしていくことが重要である。
>
> 知識については、児童生徒が学習の過程を通して個別の知識を学びながら、そうした新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、各教科等で扱う主要な概念を深く理解し、他の学習や生活の場面でも活用できるような確かな知識として習得されるようにしていくことが重要となる。また、芸術系教科における知識は、一人一人が感性などを働かせて様々なことを感じ取りながら考え、自分なりに理解し、表現したり鑑賞したりする喜びにつながっていくものであることが重要である。教科の特質に応じた学習過程を通して、知識が個別の感じ方や考え方等に応じ、生きて働く概念として習得されることや、新たな学習過程を経験することを通して更新されてい

くことが重要となる。（中略）
　技能についても同様に、一定の手順や段階を追っていく過程を通して個別の技能を身に付けながら、そうした新たな技能が既得の技能等と関連付けられ、他の学習や生活の場面でも活用できるように習熟・熟達した技能として習得されるようにしていくことが重要となる（後略）

②　思考力、判断力、表現力等を育成すること
　児童生徒が「理解していることやできることをどう使うか」に関わる「思考力、判断力、表現力等」は、社会や生活の中で直面するような未知の状況の中でも、その状況と自分との関わりを見つめて具体的に何をなすべきかを整理したり、その過程で既得の知識や技能をどのように活用し、必要となる新しい知識や技能をどのように得ればよいのかを考えたりするなどの力であり、変化が激しく予測困難な時代に向けてますますその重要性は高まっている。また、①において述べたように、「思考力、判断力、表現力等」を発揮することを通して、深い理解を伴う知識が習得され、それにより更に「思考力、判断力、表現力等」も高まるという相互の関係にあるものである。（後略）

③　学びに向かう力、人間性等を涵養すること
　児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るか」に関わる「学びに向かう力、人間性等」は、他の二つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素である。児童生徒の情意や態度等に関わるものであることから、他の二つの柱以上に、児童生徒や学校、地域の実態を踏まえて指導のねらいを設定していくことが重要となる。（中略）
　児童生徒一人一人がよりよい社会や幸福な人生を切り拓いていくためには、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度等が必要となる。これらは、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる能力を含むものである。こうした力は、社会や生活の中で児童生徒が様々な困難に直面する可能性を低くしたり、直面した困難への対処方法を見いだしたりできるようにすることにつながる重要な力である。また、多様性を尊重する態度や互いのよさを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれる。（後略）

この三つの柱は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」と表現されることが多いが、言葉のイメージのみで枠組みを狭めず、どのような方向性を持った言葉かを吟味して捉える必要があると考える。上記に示すような汎用的な活用を視野に入れた生きて働く「知識及び技能」であったり、既得の知識や技能を活用し「思考力・判断力・表現力等」を発揮することで深い理解を伴う知識と共に高まる力であったりするなどの捉えが必要である。「学びに向かう力、人間性等」については、主体的に学習に取り組む態度、自己の感情や行動を統制する力、よりよい生活や人間関係を自主的に形成する態度、多様性の尊重、協働する力、持続可能な社会づくり、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなど、かなり幅広く扱われていることに留意が必要である。

加えて、解説（総則編Ｐ１９０）によれば、「これらの三つの柱」は、学習の過程を通して相互に関係し合いながら育成されるものであることに留意が必要である。」としている。それぞれの要点を分かりやすく整理しているが、別個に育成されることを意図しているわけではない。

それぞれが相互に関連付けて育成されるからこそ、「生きる力」を育む「資質・能力」となる。

学校は、これら「育成を目指す資質・能力」を理念と方向性を踏まえて、教育目標の設定と教育課程の編成・実施が求められている。すなわち、本校においても学習指導要領に示された「育成を目指す資質・能力」を基盤としつつ、本校の現状や特色等を踏まえた「教育目標」と「本校で育みたい資質・能力」は何かを明らかにしていく必要がある。

２　「育みたい資質・能力」の明確化の取組

（１）１年次（Ｈ２９）の取組

本研究では、学習指導要領で示された「育成を目指す資質・能力」と本校で整理される「資質・能力」とを区別するため、「育みたい資質・能力」と表現している。「育みたい資質・能力」に関する昨年度の主な取組としては、平成２８年１２月２１日中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下答申）、平成２９年４月公示の文部科学省「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領」等を踏まえ、教務部と研修部の一部で協議をしながら、「学校教育目標の構造案」を作成したことである。

「学校教育目標の構造案」とは、現在ある学校教育目標と資質・能力との関係を整理し、可視化したモデル図である。本校の教育目標は、社会的使命に当たる部分と目指す児童生徒像で表されている。本研究では、児童生徒の表に現れる姿と内面を区別し、「資質・能力」を「内面」に当たるものと考え（図１）、教育目標とのつながりを図２のように整理した。さらに、その資質・能力を具体化することで教育目標と教育実践をつなげることを目指した。そうすることで、資質・能力の本来の主旨である社会と学校が連携・協働するための「社会に開かれた教育課程」につながると考えた。また、こうした可視化は教員間の連携・協働にもつながり、教育課程の編成・実施のみならず評価・改善にもつながると考える。

課題としては、①「学校教育目標の構造案」をさらに改善すること、②「各教科等で身に付ける力」をどのように授業につなげるか、③「教科等横断的に身に付ける力」をどう設定するか、④教員全員が参画して設定していくにはどうすればよいかなどが挙げられた。これらを踏まえた取組が２年次（Ｈ３０年度）の取組である。

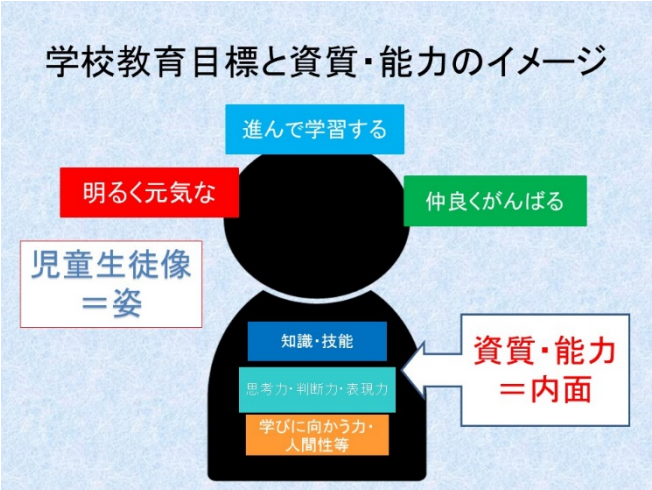


図１　学校教育目標と資質・能力のイメージ

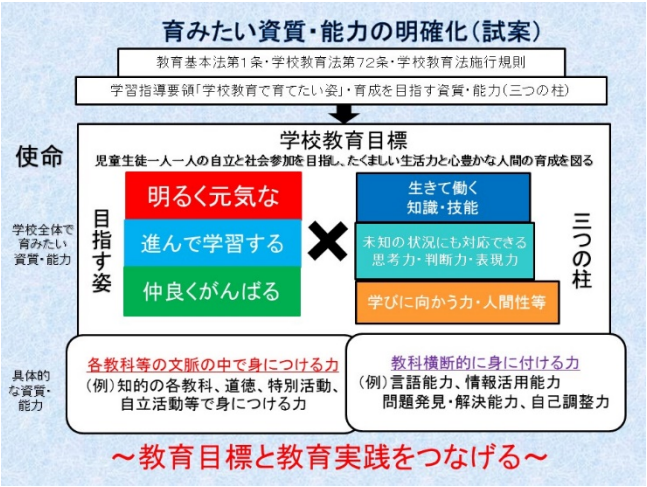


図２　学校教育目標の構造案（Ｈ２９版）

（２）２年次（本年度）の取組

前述の課題を受け、本年度は教職員アンケートの実施、「学校教育目標の構造案」の改善の２点に取り組んだ。

①教職員アンケート「育みたい資質・能力に関するアンケート」（資料１、２、３）

本アンケートは、教員一人一人が教育目標をどのように捉え、目の前の児童生徒に対してどのような力を育みたいと考えているか調査した。このアンケートを基に学校としての「育みたい資質・能力」の重点化を図ることができるようになるとともに、教員一人一人の思いが「資質・能力」とどのようにつながるかという説明ができるのではないかと考えた。

ア）期　間

平成３０年１０月４日～平成３０年１０月２４日

イ）対象者

福島県立大笹生支援学校の教員（小学部・中学部・高等部）１２６名

（校長・教頭・教務主任・学部主事・研修主任を除く）

ウ）回収数

１００（小学部４７、中学部２２、高等部３１）

エ）調査方法

・資料１（学部目標に応じた質問項目）の調査用紙をそれぞれの所属学部の教員に記述式で実施する。

・記述されたものの内容をキーワードごとにグループ分けし、傾向をまとめる。

オ)調査結果

カ)資料２・３・４に示す表にまとめた。(本年度は小学部のみ)

キ)アンケートで集約された項目は下記の通り

生活習慣、健康安全、運動・体力、学習姿勢・意欲、他者との関わり、コミュニケーション（受信、発信）、見通し、意思決定、自己理解、情動調整、規範意識、社会生活理解、勤労意欲、役割

カ）考察と課題

上記の結果より、本校教員が教育目標を踏まえて育みたい資質・能力が明らかとなった。主な傾向としては、着替え、排せつ、食事等の身辺自立を中心とした基本的な生活習慣を確立し、健康安全を保ち、運動に向かう習慣や体力をつけ、様々な物事に意欲的に取り組むとともに、他者との関わりやコミュニケーションの力を高め、社会生活における規範意識を持ち、情動を含めた自己統制と前向きな気持ちを持って社会生活を送る力を育むことである。これを基に学習指導要領に示す各教科等で身に付ける資質・能力と各教科等横断的に身に付ける資質・能力の重点付けをすることが教育目標の具体化につながると考える。

本アンケートでは学部や学年、類型等をどのように区分し分類するかという方法について想定が曖昧な部分があったため、小学部のみの整理を試みた。小学部の整理方法をたたき台とし、中学部、高等部も含めさらに正確な手続き等を検討してくことが次年度に向けた課題である。

②「学校教育目標の構造案」の改善

①のアンケート、学習指導要領の解説を基に「学校教育目標の構造案」を改善し、さらに教育目標と「育みたい資質・能力」との関係を明確にした。

ア）学校教育目標の構造案（Ｈ３０版）

図３は、学習指導要領に基づいた教育目標の構造を再整理した図である。改善のポイントとしては、教育目標を「使命」「目指す児童生徒像」「育みたい資質・能力」の３層に構造化した点にある。これまでもこの３層構造を基盤にしていたが、更に整理を進め、関連を明確にした。１層目は、何のために学校が存在するのかという、社会的使命を指すものである。２層目は、目指す児童生徒像として本校の目指す方向性を指すものである。１層目、２層目ともに従来から本校に在ったものであるが、そのつながりを明確にした上で、第３層である育みたい資質・能力を方向付け、重点付けすることが重要であると考える。図３の育みたい資質・能力では構造を示す観点から大まかな内容のみを表記しているが、これに関して１層目、２層目を踏まえた具体案を図４に示した。

図３　学校教育目標の構造案（Ｈ３０版）

イ）大笹生支援学校で育みたい資質・能力

図４は、大笹生支援学校の使命と目指す児童生徒像の方向性を踏まえた具体的な「育みたい資質・能力」を図にしたものである。

これは、「特別支援学校学習指導要領第３節教育課程の編成の１及び２　Ｐ６３－６４」に基づき、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえた教育目標を明確化し、教育課程の編成につなげるため、「各教科等で身に付ける資質・能力」と「教科等横断的に身に付ける資質・能力」に分類整理した図である。

大笹生支援学校で育みたい資質・能力（試案）

各教科等で身に付ける資質・能力 ※学習指導要領の各教科等に準拠して設定するもの	教科等横断的に身に付ける資質・能力 ※児童生徒、学校、地域の実態に応じて設定するもの
【小学部】 生活、国語、算数、音楽、図画工作、体育、道徳科、外国語活動、特別活動、自立活動 【中学部】 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業・家庭、外国語、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動 【高等部】 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、職業、家庭、情報、外国語、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動	【学習の基盤となる資質・能力】 ①言語能力 ②人間関係形成・社会形成能力 ③問題発見・解決能力 ④自己理解・自己管理能力 ⑤情報活用能力 【現代的な諸課題に対応する資質・能力】 ⑥キャリアプランニング能力 ⑦健康・安全・食に関する力 ⑧多様性を尊重し他者と共生していく力 ⑨豊かなスポーツライフを実現する力 ⑩主権者として求められる力 ※下線は、キャリア発達を促す基礎的汎用的能力に関連

図４　大笹生支援学校で育みたい資質・能力

「各教科等で身に付ける資質・能力」では、本校は知的障がいの特別支援学校であることから、「知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科（以下知的の各教科）」に基づいた教育を行うため、各学部の知的の各教科と道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動を含めた身に付ける資質・能力を示した。各教科等は「学習指導要領第８節重複障害者等に関する教育課程における取扱いＰ７５」に示す場合を除き、全ての児童生徒に履修させるものである。本学習指導要領では各教科等の目標が段階別項目別にも明確になったことから、この目標に準拠することが必要である。ただし、一律に教育内容を指導するのではなく、学校の教育目標に応じて内容の重点化を図ったり、そのための授業時数を配分したりすることになるため、その重みづけの違いが学校の特色になると考える。

「各教科等横断的に身に付ける資質・能力」では、児童生徒、学校、地域の実態に応じて設定するものであると考える。もちろん各教科等においても児童生徒、学校、地域の実態を踏まえることが必要であるが、「各教科等横断的に身に付ける資質・能力」においてはさらにその特色性が表れるものと考える。本校においては、図４の１０項目を試案として設定した。

学習の基盤となる資質・能力では、学習指導要領に示された「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力」はもちろん、自立と社会参加を目指す学校としてキャリア教育で示されたキャリア発達を促す基礎的汎用的能力に関連付けた項目も取り入れた。基礎的汎用的能力で示されている「課題対応能力」については「問題発見・解決能力」との関係が深いと考え、統合した。表し方には様々な考え方があるが、本校独自の表現ではなく社会との共有を踏まえ、学校教育で一般的となる用語に統一した。

現代的な諸課題に対応する資質・能力では、キャリア発達を促す基礎的汎用的能力のキャリアプランニング能力を取り入れた。また、本校での実践を踏まえ、健康・安全・食に関する力、交流及び共同学習を中心とした多様性を尊重し、他者と共生していく力、豊かなスポーツライフを実現する力、主権者として求められる力などを設定した。

今回の設定はあくまでも試案であり、本案をたたき台として、各学部の実践や育みたい資質・能力との関連から改善することを想定している。

ウ)大笹生支援学校小学部で育みたい資質・能力

教職員アンケート（資料２・３・４）の結果を基に小学部で育みたい資質・能力の構造を整理したものが図５である。大笹生支援学校全体の目指す児童生徒像を各学部に設定したものが学部目標として設定している児童生徒像である。図５では、小学部の児童像「元気な子ども、楽しく学習する子ども、仲良く遊ぶ子ども」に基づいて、アンケートで明らかになった「育みたい資質・能力」を「各教科等で身に付ける資質・能力」と「教科等横断的に身に付ける資質・能力」に振り分けた。「各教科等で身に付ける資質・能力」で重点化を示すことは難しかったが、「教科等横断的に身に付ける資質・能力」では重点化を示すことができ、学校全体で育む資質・能力から発達段階や児童の実態に応じて関連付けて設定することができた。図５に示した通り、目指す児童像が方向付けとなって具体的な資質・能力を明らかにすることができたと考える。「各教科等で身に付ける資質・能力」と「教科等横断的に身に付ける資質・能力」を相互に関連付けながら教育課程を編成・実施することで、教育目標と教育実践がつながり、教育目標の実現を図るための基盤が構築されることになると考える。

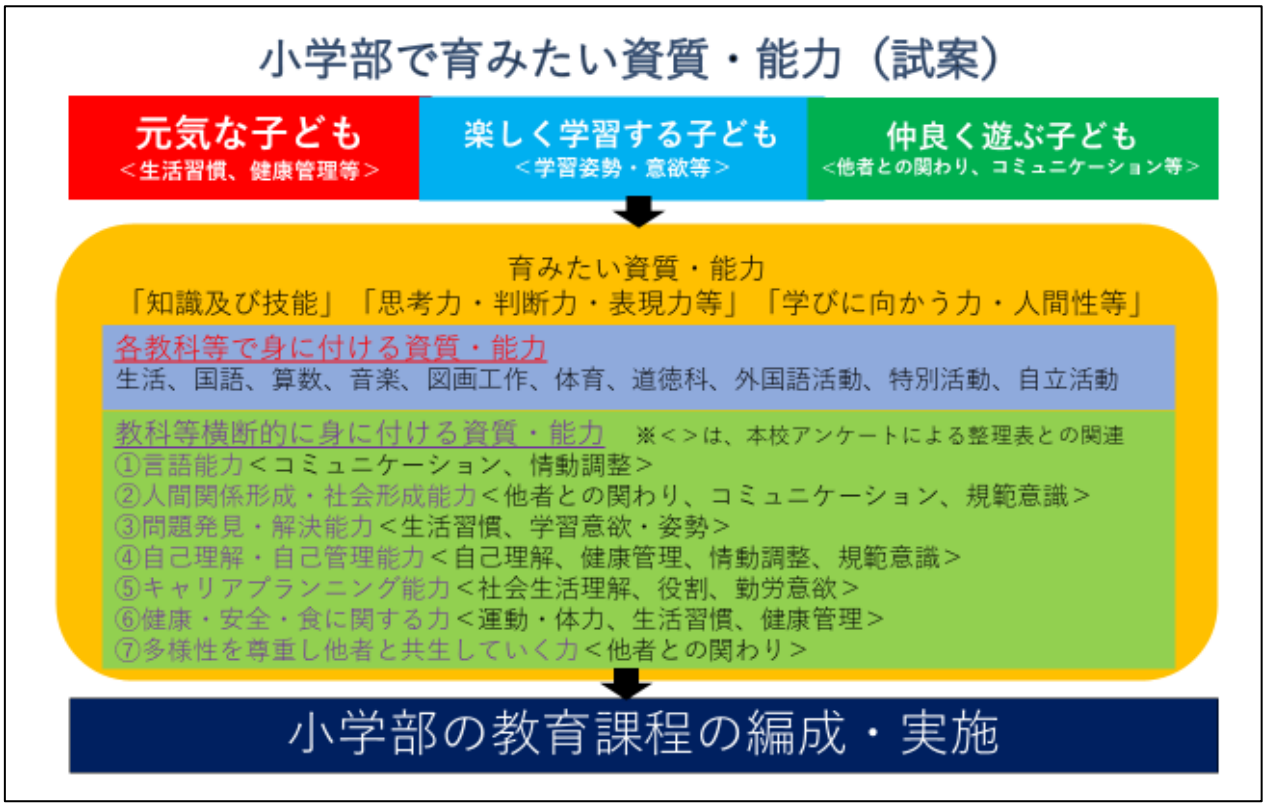


図５　小学部で育みたい資質・能力

資料１　　平成３０年１０月４日

小学部教職員の皆様

「育みたい資質・能力」に関するアンケート（小学部）

教務部・研修部

教育課程説明会でありましたとおり、先生方一人一人の子供たちに対する思いを「育みたい資質・能力」としてまとめ、教育課程に生かしていきたいと考えております。

つきましては、下記のアンケートのご協力をお願いします。全員提出です。

記

Ｑ１あなたの学級の児童が『元気な子ども』になるためにどんな力（資質・能力）を育むことが必要だと思いますか？

Ｑ２あなたの学級の児童が『楽しく学習する子ども』になるためにどんな力（資質・能力）を育むことが必要だと思いますか？

Ｑ３あなたの学級の児童が『仲良く遊ぶ子ども』になるためにどんな力（資質・能力）を育むことが必要だと思いますか？

Ｑ４上記以外で、現状や将来を踏まえて児童に育みたい力（資質・能力）は何ですか？

※締切り 10 月 24 日（水）まで本アンケートを各学年主任に提出してください。

※学年主任は学年分をまとめて、学部主事に提出してください。

小	年　　組	記入者 氏　名	

整理番号

資料２

H３０年度　小学部　資質・能力アンケート結果（教育課程類型Ⅰ）

〈大項目〉生活習慣、健康管理、運動・体力、学習意欲・姿勢、情動調整、規範意識、コミュニケーション（受信・発信）、他者との関わり、見通し、意思決定、自己理解、社会生活理解、勤労意欲　　※→は学習指導要領との関連を示した。

学部目標	元気な子ども	楽しく学習する子ども	仲よく遊ぶ子ども
１・２学年	〈運動・体力〉 ・体調を整え、進んで身体を動かそうとすること **→体育〔G保健〕/体育〔全般〕** ・身体の柔軟性や粗大運動をおこなうこと ・基礎的な身体能力を身に付けること（粗大運動、身体ほぐし等） ・進んで運動に親しむこと **→体育〔全般〕** 〈生活習慣・健康管理〉 ・衛生面に自分で気をつけること **→生活〔ア基本的生活〕** ・健康を維持するための基礎的な事柄を行うこと（睡眠等） ・食事や衛生面に気をつけること（自分でなぜ歯磨きや手洗いうがいが必要なのか、床に落ちてある物は食べては行けないのか等が分かり、自分からやろうとすること **→体育〔G保健〕** ・食事のマナー、身の回りのことなど衛生面に自分で気を配れること **→生活〔ア基本的生活〕〔ケきまり〕** ・生活リズムの安定を図るために初歩的な事柄を行うこと **→体育〔G保健〕/特別活動〔学級活動（２）ウ心身ともに健康で安全な生活態度の形成〕**	〈学習姿勢・意欲〉 ・何のために行うのか等の学びの対象への興味・関心（行事等） ・どうなるかなと予想したりなぜだろうと疑問をもったりすること ・新しい発見やできた喜びを感じること ＊問題発見・解決能力 ・学んだことを生活に生かすこと（知っていること、できることをどう使うかを考えること） **→特別活動（学級活動（１）ア学級や学校における生活上の諸問題の解決、イ学級内の組織作りや役割の自覚）/学級活動（３）ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成）** ・見たり聞いたり操作したりしたことなどを基に、自分で考えたり気付いたりすること。 ・友だちと自分の考えを比べ、新しい方法に気付いたり知ったりすること ＊主体的、対話的で深い学び	〈規範意識〉 ・善悪が分かり、言葉で伝え、やってはいけないことをやらないこと **→道徳科〔A善悪の判断〕/道徳科〔C規則の尊重〕/生活〔ケきまり２・３段階（ア）（イ** ・決まりを守って行動すること **→道徳科〔C規則の尊重〕/生活〔ケきまり２・３段階（ア）（イ）〕** ・状況に合わせた言葉の使い方や人との距離についてわかること。 **→道徳科〔B礼儀〕/生活〔オ人との関わり〕/体育〔G保健３段階ア〕** 〈他者との関わり〉 ・身の回りの人に気付き、関心をもつこと**→生活〔オ人との関わり２・３（イ）〕** ・思いやりの心をもつこと（いわれて嫌なことは言わない、友達の良いところを見つける**→道徳科〔B親切、思いやり〕/道徳科〔B友情、信頼〕** ・あいさつや「ありがとう」「ごめんなさい」等伝えること。感謝のことばを伝えること。**→生活〔オ人との関わり２・３（イ）〕/道徳科〔B感謝〕/〔A誠実、正直〕** ・相手の立場にたって相手の気持ちを考えること（物の貸し借り、譲ったりする）**→道徳科〔B親切、思いやり〕/〔B友情、信頼〕/〔B相互理解、涵養〕/特別活動〔学級活動（２）イ〕/生活〔オ人との関わり２・３段階（ア）（イ）〕** 〈自己理解〉〈情動調整〉 ・自分の気持ちを知り、言葉にしたり落ち着く方法でコントロールしたり、解決したりすること**→国語〔知・技２ア（ア）、思・判・表A聞くこと・話すこと３カ〕/道徳科(A個性の伸長)** 〈コミュニケーション〉 ・教師に援助を求めたり、自分で気付いて改善したりすること **→国語〔知・技２ア（ア）、思・判・表A聞くこと・話すこと３カ〕** ・自分の気持ちや考えを表現しようとすること **→国語〔知・技２ア（ア）、思・判・表A聞くこと・話すこと３カ〕/生活〔２・３段階オ人との関わり（ア）（イ）〕**

学部目標	元気な子ども	楽しく学習する子ども	仲よく遊ぶ子ども
3・4学年	〈生活習慣〉 ・手洗い、うがい、清潔に気をつけること **→生活〔ア基本的生活習慣〕** 〈運動・体力〉**→体育〔全般〕** ・できるだけ疲れずに生活できるような体力をつけること ・運動の楽しさを感じ、主体的に体を動かすこと ・運動に興味をもつこと ・姿勢を保持すること（イスに座る、床で三角座りをする）	〈学習姿勢・意欲〉 ・自分で課題に気付き解決しようとすること ・どのような方法で解決するかを考えること ・知的好奇心をもつこと ・達成感を感じ、自分に自信をもつこと ＊問題発見・解決能力（教科等横断的な資質能力） 〈意思決定〉 ・自分で選ぶこと **→特別活動〔（3）ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成〕**	〈規範意識〉 ・ルールや決まりを守って行動すること **→生活〔ケきまり〕/道徳科〔C規則の尊重〕** ・言葉遣い、目上の人には敬語を使うこと。 **→道徳科〔B礼儀〕/生活〔オ人との関わり〕** ・人の話を聞くために待つこと（状況に応じて今は話しかけてはいけない等がわかること）。 **→生活〔オ人との関わり〕/生活〔ケきまり〕** 〈自己理解〉 ・自分の得意なこと、苦手なことがわかること **→道徳科(A個性の伸長)** 〈他者との関わり〉 ・他者の気持ちや意図を考えること **→道徳科（B友情、信頼）** 〈情動調整〉 ・他者（友だちや教師）の係わりを受け入れること **→道徳科（B相互理解、涵養）/道徳科（B友情、信頼）/特別活動〔学級活動（2）イ社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解〕** ・言葉を使って感情と行動を調整すること **→国語〔A聞くこと・話すこと〕** ・自分の感情や行動を調整すること（イライラしても我慢する、仕方がないと考える）**→道徳科(A個性の伸長)** 〈発信〉 ・自分の考えを表現したり、伝えたりすること **→国語〔A聞くこと・話すこと〕**

学部目標	元気な子ども	楽しく学習する子ども	仲よく遊ぶ子ども
5・6学年	〈生活習慣・健康管理〉 ・生活習慣を守ることはなぜかを理解すること **→生活〔ア基本的生活習慣〕** ・病気やけがをしないよう行動すること **→生活〔イ安全〕** ・手洗い、うがい、清潔に気をつけること（一日をこなすルーティーン） **→体育〔G保健〕/特別活動〔学級活動（2）ウ心身ともに健康で安全な生活態度の形成〕**	〈学習姿勢・意欲〉 ・もっと学びたい、知りたい、できるようになりたいという気持ちをもつこと ・好きなこと以外にも関心を広げようとする気持ちを持つこと ・理解していることを発揮しようとすること ・疑問をもつこと。 ＊問題発見・解決（教科等横断的な資質・能力） 〈社会生活理解〉 ・身近な社会の成り立ち（お金の流れ、物流等）、仕組みを理解すること **→生活〔コ社会の仕組みと公共施設〕** **→生活〔ク金銭の扱い〕** 〈勤労意欲〉 ・働くということ、感謝すること **→特別活動〔学級活動（3）イ社会参加意識の醸成や働くことの意義の理解〕/道徳科〔B感謝〕**	**〈他者との関わり〉** ・相手の気持ちを想像し、行動すること **→道徳科（B友情、信頼）/道徳科（B親切、思いやり）/道徳科（B相互理解、涵養）** 〈情動調整〉 ・譲る、まあいいかと切り替える柔らかさをもつこと **→道徳科(A個性の伸長)** ・自分を多面的、客観的にみること **→道徳科(A 個性の伸長)/特別活動〔学級活動（3）ア現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成〕** 〈発信〉 ・相手に気持ちを伝えること ・自分の気持ちを穏やかに伝えること **→国語〔A聞くこと・話すこと〕** 〈規範意識〉 ・ルールを理解すること **→生活〔ケきまり〕** **→生活〔エ遊び〕** 〈見通し〉 ・見通しをもつこと **→生活〔ウ日課・予定〕**

資料３

H３０年度小学部　資質・能力アンケート結果（教育課程類型ⅡA・B）

〈大項目〉生活習慣、健康管理、運動・体力、安全、学習意欲・姿勢、情動調整、規範意識、コミュニケーション（受信・発信）、他者との関わり、見通し、食事、意思決定、役割

	元気な子ども	楽しく学習する子ども	仲よく遊ぶ子ども	その他
１学年～６学年	＜運動、体力＞　**体育〔全般〕** ・体を動かす楽しさを知り、散歩、山登り、走る、投げる、遊具で遊ぶなどの様々な運動に進んで取り組み、活動を持続できる基礎的な体力や丈夫な体をつくること ・体力を把握してコントロールすること ＜健康管理＞　**体育〔G 保健〕** ・寒いときには長ズボン、暑いときには水分をとる、うがい・手洗いをして身の回りを清潔に保つなど、体調管理をする（受け入れる）こと ・けがや体調が悪いことに気付き、伝えること ・自分の体や性に対して理解し、それに対しての対応方法を身につけること ＜安全＞　**生活〔イ安全〕** ・危道路の歩き方、渡り方、一人で出かけない、行き先を告げるなど、危ないことの判断力をつけて回避すること ＜生活習慣＞　**生活〔ア基本的生活習慣〕** ・着替え、排泄、食事などの身辺処理や片付けができること ・早寝・早起き・朝ごはん、登校時刻、食事、排泄などの生活のリズムを整え、規則正しい生活を送ること ・気持ちに左右されずに朝の活動に取り組むなど、基本的な生活習慣を身に付けること ＜情動調整（前向きな気持ち）＞ ・嫌なことがあったときに自分で気持ちに折り合いをつけ、気持ちを切り換えてやるべきことに取り組むこと ・様々なことに興味を持ち、前向きにチャレンジしようとすること ・満足できる、充実した学習活動や余暇活動があること ・気持ちを安定（調整）し、安心して意欲的に活動すること ＜食事＞ ・好き嫌いなく色々なものをバランスよく受け入れて食べること	＜見通し＞　**生活〔ウ日課・予定〕** ・相手の話を聞いて活動内容がわかり、見通しをもって最後まで教師と一緒に（または自分で）取り組むことができること ＜役割／学びへの気付き＞ ・集団の中で、自分の思いを相手に伝えたり、自分がやるべき役割を意識したりしながら取り組むこと　**生活〔カ役割〕、特別活動〔学級活動（１）イ学級内の組織づくりや役割の自覚〕** ・やりたいことを考え、物の使い方等、どうやったら実現できるか表現するための知識・技能を身につけること ・自分のできることや課題を認識し、問題に気付くこと ・情報を収集すること ・今学んでいることが、身近な生活に役立つ・つながることに気付くこと（探究心、意欲、関心） ・環境、状況を把握し、整えること ＜学習姿勢・意欲＞ ・自分の好きなこと、得意なものがあり、活動を自分なりに工夫したり、想像したり、発展させたりしながらできる喜びに向かって最後まで取り組むこと　**道徳〔A 個性の伸長／希望と勇気、努力と強い意志〕** ・自ら机に向かう、挨拶をする、話に耳を傾けるなど、自分から意欲的に学習活動や係活動に取り組もうとすること（態度を身につけること） **道徳〔A 希望と勇気、努力と強い意志〕** ・学習課題に注目して、集中して活動に取り組むこと ・苦手なことにも取り組み、うまくいかなくても次にがんばろうとする気持ちの強さを持つこと　**道徳〔A 希望と勇気、努力と強い意志〕** ・身の回りのことを自分から進んで、自分でやってみようとする気持ちをもつこと　**道徳〔A 希望と勇気、努力と強い意志〕** ・自分に自信をもつこと ＜学習姿勢・意欲（興味・関心）＞ ・興味・関心をもって、意欲的にチャレンジしようとすることができること ・身近な人や物事など、まわりを見て新しいこと、様々なことに興味・関心を拡げたり、疑問を持ったりすること ＜情動調整（受け入れる気持ち）＞　**道徳〔B 相互理解、寛容〕** ・聞く態勢を整えて話や説明を聞き、周囲の提案を正しく受け入れること ＜意思決定＞ ・自分の思いや気持ちを伝える、豊かに表現すること ・やってみたいという思いを持つこと ・選択・決定すること	＜他者との関わり（かかわる楽しさ）＞　**生活〔エ遊び〕** ・他者とかかわることに関心や楽しさを見い出し、安心して一緒にやりとりや遊び、生活をすること ・対大人だけでなく、対友だちとの好ましい関係を築くこと ＜他者との関わり（思いやり・認め合い）＞ **特別活動〔学級活動（２）アよりよい人間関係の形成〕** ・相手を思いやること（相手の気持ちを考えること、自分に置き換えて考えること） ・悪いところを指摘せずに良いところを褒め合うこと ・他者を排除せず、認め合うこと ＜他者との関わり（かかわり方）＞ **生活〔オ人との関わり　ケきまり〕** ・友だちや教師をなど周りの人に目を向け、ニュアンスや態度を含めた関わり方のルールを理解してかかわろうとすること（優しいかかわり方や褒め方等） ・友だちや先生と場や物を共有したり、譲り合ったりすること ＜規範意識＞ ・社会のマナーや簡単なルール（静かに待つ、並ぶなど）、順番を守ったり、相手と交渉したりすること ＜受信＞　**国語〔A 聞くこと・話すこと〕** ・友だちや先生の話を聞いて理解すること ・友達や先生など、周囲からの提案を受け入れる気持ちを持ったり、興味をもって注意を向けたりすること ＜発信＞　**生活〔オ人との関わり〕国語〔A 聞くこと・話すこと〕** ・挨拶や「かして」「ありがとう」「ごめんなさい」などの意思、自分の考えなどを伝えるための言葉や身振りを知って、自分から使うこと ・自分なりの適切な表現を身に付け、気持ちや要求（拒否も含む）、考えを正確に伝えること ＜情動調整（気持ちの折り合い）＞ ・順番などのルールや約束を理解し、気持ちに折り合いをつけて守りながら遊ぶこと　**生活〔ケきまり〕** ・自分の気持ちに折り合いをつけて調整し、周りからの促しや相手の気持ちを受け入ること　**道徳〔B 相互理解、寛容〕** ＜他者との関わり（集団参加）＞ ・友だちや教師と一緒に行うことを意識できること（そろってから活動をする） ・集団に落ち着いて参加できること	・知・徳・体のバランスが取れていること ・前向きでへこたれず、叱られても折れず、明るく、人に愛される性格であること ・自己肯定感を持てること ・自ら考え、善し悪しを判断し、必要だと思うことを行動すること **道徳〔A 善悪の判断、自立、自由と責任〕** ・自分に合う方法で行動を修正すること **道徳〔A 個性の伸長〕** ・感情、欲求のコントロールをすること ・時計を読めること **算数〔３段階 C 測定イ〕**

資料４

Ｈ３０年度　小学部　資質・能力アンケート結果（教育課程類型ⅡＣ・類型Ⅲ訪問）　※矢印→は学習指導要領と関連

〈大項目〉生活習慣、健康管理、運動・体力、安全、学習姿勢・意欲、指示理解、情動調整、規範意識、コミュニケーション（受信・発信）、他者との関わり、食事、意思決定

元気な子ども	楽しく学習する子ども	仲よく遊ぶ子ども	その他
〈他者との関わり〉 ・人に対して気持ちを向けること　**→生活〔オ人との関わり〕** ・信頼すること、安心すること　**→道徳科Ｂ〔友情・信頼〕** 〈生活習慣〉**→生活〔ア基本的生活習慣〕** ・基本的な生活習慣がわかり、取り組むこと（睡眠、食事、排泄、衣服の調整、水分補給を求めること等） ・身辺処理をすること 〈健康管理〉**→体育〔Ｇ保健〕** ・体調が悪いことを伝えること（変化に気付く） ・生活リズムや体調を整えること ・体調を整えるために必要なことを教師と一緒に行えること（必要性の理解） 〈安全〉**→生活〔イ安全〕** ・安全に過ごすこと ・安全により快適に余暇の時間をすごすこと。 〈食事〉 ・食事に向かう気持ちをもつこと ・他の人と楽しく食べること 〈運動・体力〉**→体育〔全般〕** ・自分の意思で動いたり、姿勢を保って学習に取り組んだりすること ・いろいろな姿勢、体勢で身体を動かすこと ・筋力を高めたり動かし方を身に付けたりすること	〈学習姿勢・意欲〉 ・「やってみよう」と主体的に活動や物事に向かい、学ぼうとすること ・自分から興味・関心を広げること ・未知の物に取り組もうとする気持ちをもつこと ・達成感や意欲をもって取り組むこと ・自立に向けて、自分のこと（できること）は自分でやろうとする気持ちをもつこと **→道徳科〔Ａ希望と勇気、努力と強い意志〕** ・苦手なことでも挑戦すること ・周囲の物に気付き、自分から働きかけようとすること ・新しいことにも、教師や友だちと一緒に取り組むことができること 〈指示理解〉 ・指示の内容を理解すること（諸感覚の活用、弁別すること：違いが分かること）**→国語〔Ａ聞くこと・話すこと〕** ・周囲の事象を整理して捉えること（ことば、かず、文字） **→国語、算数〔全般〕** 〈情動調整〉 ・自分の気持ちをコントロールする態度**→道徳科Ａ〔個性の伸長〕** ・自己肯定感を味わうこと	〈情動調整〉 ・自分の気持ちをコントロールし、折り合いをつけること ・ゆずることができること 〈他者との関わり〉**→生活〔オ人との関わり〕** ・教師や友だちと一緒に活動する気持ちをもつこと ・様々な人とともに様々な活動に参加（集団参加）すること ・人とかかわろうとする意欲を高めること ・学校の友だちに関心をもって、注意を向け、その様子を見ること ・教師や友だちからの働きかけを受け入れたり、自分から働きかけたりすること ・相手を尊重しながら一緒に活動する楽しさを感じること **→道徳科〔Ｂ相互理解、寛容〕** ・感謝、あいさつ　**→道徳〔Ｂ礼儀〕/生活〔オ人との関わり〕** 〈受信〉 ・友だちや先生の話を聞こうとすること。注目すること。 **→国語〔Ａ聞くこと・話すこと〕** 〈発信〉 ・自分の気持ちをなんらかの形で表出し、相手（友達など）に伝えること **→国語〔Ａ聞くこと・話すこと〕** ・人とやりとりすること（自分の意思や要求、叙述等を伝えること：コミュニケーション手段）**→国語〔Ａ聞くこと・話すこと〕** ・周囲の人に援助を求めること**→国語〔Ａ聞くこと・話すこと〕** 〈他者との関わり〉→特別活動〔学級活動（２）イよりよい人間関係の形成〕 ・友だちの気持ちを考え、行動すること 〈規範意識〉**→生活〔ケきまり〕** ・簡単なルールを理解し遊ぶこと	〈情動調整〉 ・日々取り組んでいる基本的な活動に安心して取り組むこと ・係わり手が替わっても、気持ちを安定させて過ごせること 〈人間関係〉 ・周囲の大人を信頼すること

第４節
「年間指導計画モデル」の作成

１「年間指導計画モデル」を作成する意義

２「年間指導計画モデル ver.2」の作成手続き

資料　年間指導計画モデル ver.2(サンプル)

第４節「年間指導計画モデル」の作成

本節では、「何を学ぶか」に焦点を当て、「年間指導計画モデル」を作成する意義と本年度取り組んだ「年間指導計画 ver. ２」の作成手続きについてまとめる。

１「年間指導計画モデル」を作成する意義

（１）「年間指導計画一覧」と「年間指導計画モデル」

本研究内容である「大笹生支援学校モデルカリキュラム」の柱の一つが、「年間指導計画モデル」の作成である。「年間指導計画モデル」は、本研究において設定した用語であり、独自の概念である。「何を学ぶか」のポイントとして取り上げ、教育内容の整理と共有化を目指すためのツールとして開発するものである。具体的には、各教育課程及び各学年の「年間指導計画一覧」の標準例（モデル）を整理し、「見える化（可視化）」することで、教師間で共有しながら教育内容の見直しを図り、学部間、学年間、教科間等でつながりある年間指導計画を作成することをねらいとしている。

「年間指導計画一覧」は、各教科で作成している年間指導計画をシート１枚にまとめ、その学級の一年間の教育内容を見渡すことができるようにしたものである。平成２９年度より保護者への説明で使用しており、どの時期にどんな指導をどのくらいの期間で計画しているのかが見渡すことができるものである。この「年間指導計画一覧」を教育課程や学年ごとに集約し、標準例（モデル）として整理し、「見える化（可視化）」したものが「年間指導計画モデル」である。

（２）教師それぞれの個業から組織としての協働へ

本校では、小学部、中学部、高等部の各学部があり、各学部の教育課程も通常の教育課程（高等部はＡＢＣの類型）重複障がいの教育課程（全学部ＡＢＣの類型）、訪問教育の教育課程など複数の教育課程が設定されている。一つの学校に複数の教育課程があることで、多様な実態に対応できる利点もあるが、他の教育課程でどのような取り組みを行っているか相互に把握することは難しくなる。さらに、同一の教育課程、学年であっても、各学級の実態にばらつきがあり、各担任や教科担当ごとに年間指導計画を柔軟に設定していることから、相互共有は難しい状況にある。

つまり、このような本校の特性から、教師それぞれの個業になりやすく、結果として学校全体としての改善を難しくしているのではないかと考える。そこで、「年間指導計画一覧」を活用しながら、教師間で各教育課程の教育内容を共有し、組織として協働で実施や改善に関わることができるようにと考えたものが本研究の「年間指導計画モデル」である。（図１）

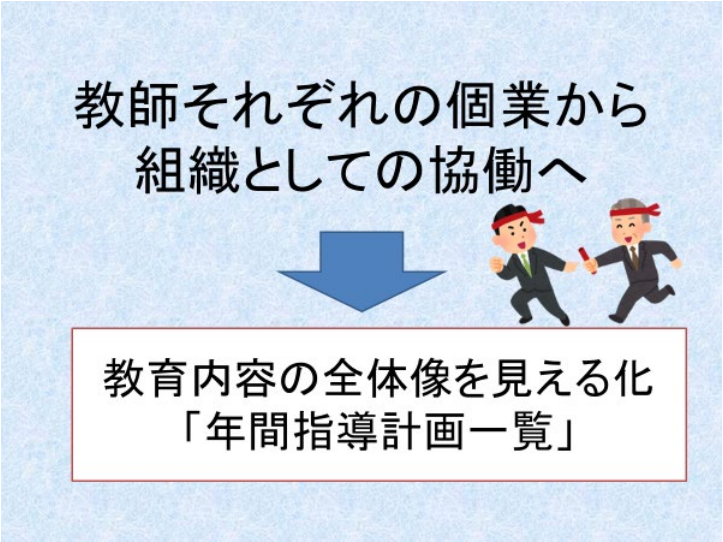


図１　年間指導計画一覧及びモデル作成の意義

（３）「年間指導計画モデル」の作成と活用

「モデル」としたのは、あくまでも標準例としての位置づけとし、それを参考にしながら各学級の様々な実態に応じて工夫・改善ができるものにするという意味である。実際の年間指導計画一覧は学級の数だけあり、本校内でも６０以上ある。それを一つ一つ検討するのではなく、それぞれの教育課程や学年の標準的なものを抽出することで、教師間で共有できるたたき台にするという意図がある。そのたたき台の元、学部間、学年間、教科間のつながりを検討し、実際の年間指導計画に反映させるという仕組みである。

「年間指導計画モデル」を基準として各学級の「年間指導計画一覧」が作成されることで、図２のように教育目標（ゴール）に向けた筋道を持ちながら、各学級や各個人に対応できる年間指導計画になると考えている。様々な教育的ニーズのある児童生徒が在籍する本校にとって、多様化に対応しつつ、つながりのある教育を実現するための効果的な仕組みであると考える。「年間指導計画モデル」作成の意義は、単に作成することだけでなく、作成の過程を通して、教師間で相互の授業内容について話し合い、考える場になり、具体的な改善につなげるということが重要である。このような取組が、「カリキュラム・マネジメント」の基盤になるのではないかと考える。

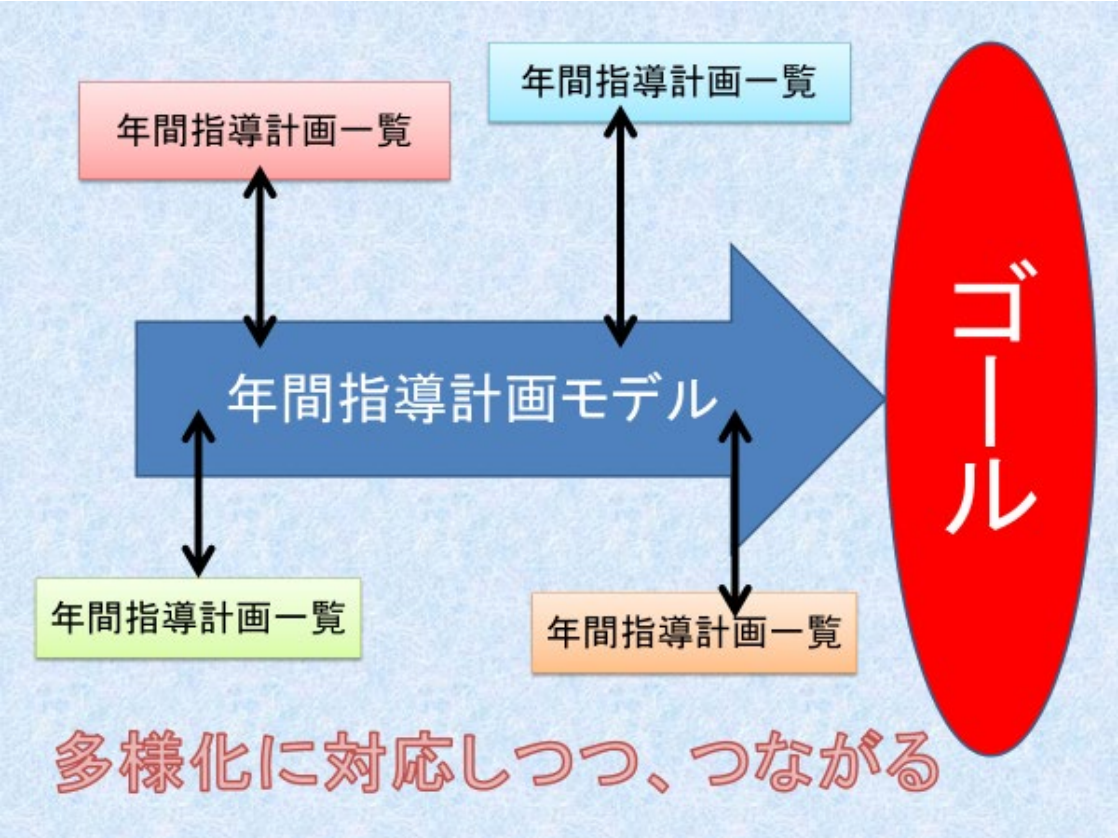


図２　年間指導計画モデルと年間指導計画一覧との関係

（４）年間指導計画モデルの６つのメリット

これまでの年間指導計画モデルの作成と活用を通じて明らかになったメリットについて、下記の表にまとめた。

表１　年間指導計画モデルの６つのメリット

メリット	解　説
①教育内容の漏れや偏りが見える。	一年間のおおよその内容がつかめるため、小学部では６年間、中学部・高等部では６年間の教育内容の確認ができる。新しい学習指導要領の内容を踏まえ、指導内容の漏れや偏りがないか確認することができる。
②学年間・学級間のつながりが見える。	同じ類型の学年間のつながりが見えるとともに、同じ学年の別類型とのつながりが見える。学習内容の積み上げや関連、行事や合同学習等の時期等の改善などにも役立つ。
③教科間のつながり、配列の改善ができる。	一年間の配列はもちろん、学年をまたいだ配列について検討ができ、時期や授業時数等の改善ができる。
④後任者、転任者も分かりやすい。	モデルがあることで、後任者や転任者も本校の教育内容の概要についてつかむことができるとともに、単元計画等に役立てることができる。
⑤共有できる単元で高め合える。	学校として共有できる単元があると、教材の共有ができる他、実際に実践したことのある同僚からアドバイスをもらえたり、研究授業等で教材研究や指導方法について高め合ったりすることができる。
⑥年間指導計画一覧の様式や内容を一から作らなくて済む。 （業務の軽減）	働き方改革が叫ばれる昨今、教育効果を高めつつ、業務の軽減は必須である。年間指導一覧について、昨年度は、個人で作成している様子も見られた。モデルはエクセルでデータ化されており、データを使えば追加・削除・移動などの手続きのみで年間指導計画一覧が作成できる。

２「年間指導計画モデル ver. 2」の作成手続き

（１）１年次（Ｈ２９）の取組

グループ研究の協議を通して、現在取り組んでいる単元・題材の時期や配列について検討し、各学部、学年、類型ごとに１ページにまとめた「年間指導計画モデル ver. １」（全３７モデル）を作成し、本校の教育内容を可視化（見える化）することができた。また、「年間指導計画モデル ver. １」を全員に配付するとともにデータ形式で共有できるようにし、年間指導計画一覧の作成に活用できるようにした。

１年次は、生活単元学習や作業学習、自立活動の時間の指導など、各教育課程の中心となる活動に焦点を当てて取り組んだため、国語、算数、音楽、体育等の教科別で行っている指導について見直し、整理することが２年次の課題であった。

（２）２年次（Ｈ３０）の取組

１年次の課題を受け、グループ研究の協議では国語、算数、体育、音楽等の教科別の指導を中心に検討を進めた。併せて生活単元学習や作業学習等についても今年度の取組を踏まえて改善が必要な部分について検討した。（図３）

各研究グループで検討・修正されたものを研修部で集約・調整し、下記の内容について全体の整合性を図った。

●昨年度作成した「年間指導計画 ver. 1」の文言を見直し、全体で統一した表記とした。

●縦と横のつながり（同類型で学年間、同学年の類型間）を図ることができるように単元・題材の時期や内容について調整して表記した。

●似通った単元・題材が複数別の名称でそれぞれ記されていたものについて、単元・題材名を統一した。

●教科（特に国語・算数）については、学級の実態に応じて取り上げられている内容や指導形態に偏りが見られたため、学習指導要領の各段階の目標・内容を基に網羅的な内容を記し、様々実態に応じて選択して取り扱うことができるようにした。また、内容に応じて学期別に取り扱うものと通年で取り扱うものに分けて表記ができるようにした。

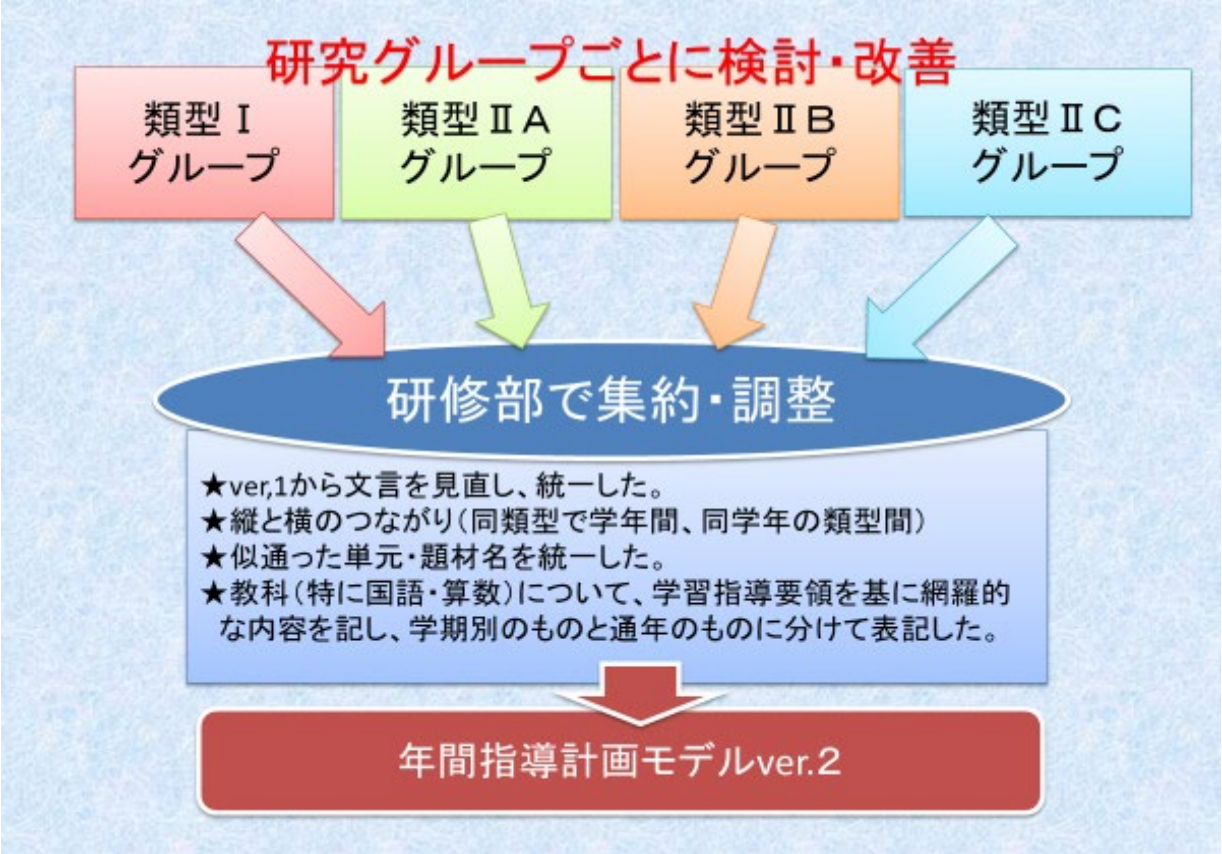


図３　年間指導計画モデル ver. ２の作成までの流れ

３「年間指導計画モデル ver．２」の分類

今年度作成した年間指導計画モデルについては、下記のとおりである。

小学部（１３モデル）		中学部（１３モデル）		高等部（１９モデル）	
類型Ⅰ	１・２年	類型Ⅰ	１年	類型ⅠＡ	１年
	３・４年		２年		２年
	５・６年		３年		３年
類型ⅡＡ	１・２年	類型ⅡＡ	１年	類型ⅠＢ	１年
	３・４年		２年		２年
	５・６年		３年		３年
類型ⅡＢ	１・２年	類型ⅡＢ	１年	類型ⅠＣ	１年
	３・４年		２年		２年
	５・６年		３年		３年
類型ⅡＣ	１・２年	類型ⅡＣ	１年	類型ⅡＡ	１年
	３・４年		２年		２年
	５・６年		３年		３年
類型Ⅲ	訪問	類型Ⅲ	訪問	類型ⅡＢ	１年
					２年
					３年
				類型ⅡＣ	１年
					２年
					３年
				類型Ⅲ	訪問

合計４５モデル

※紙面の関係から、４５モデルのうち代表的なものについてサンプル資料として次に掲載した。

大笹生支援学校モデルカリキュラム

年間指導計画モデル
ver. 2
（サンプル）

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**小学部通常（3・4年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気な子ども　○楽しく学習する子ども　○仲良く遊ぶ子ども　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会	避難訓練(1)		水泳教室 終業式(1)	始業式(1) 水泳教室	遠足・修学旅行 (1日)	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室		福祉作品展 終業式(1)	始業式(1)	合同作品展 6年生ありがとう会	卒業式(1日) 修了式(1)	日 時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「朝の活動」・登校　・あいさつ　・排せつ　・着替え・朝の会　・朝の運動		「係の仕事」・学級の係活動		「給食」・手洗い　・給食の準備　・給食　・後片付け　・歯磨き		「掃除」・机の片付け　・掃き掃除　・雑巾がけ　・ゴミ捨て		「帰りの活動」・着替え　・帰りの準備　・帰りの会　・下校				3年465 4年473
生活単元学習	「○年生になったよ」(4)	「市場に行こう」(16)校	「お店屋さんになろう(16)		「遠足へ行こう」(10)	「太陽祭をがんばろう」(24)	「工場に行こう」(16)校		「年賀状を書こう」(8)	「冬の遊びをしよう」(10)	「6年生ありがとう会」(10)	「もうすぐ○年生」(10)	3年299 4年300
	「新入生歓迎会をしよう」(8)	「春を探そう」(10)	3年:「水遊びをしよう」(8) 4年:「大笹生小学校の友達」(8)				3年:「作品を作ろう」(8) 4年:「大笹生小学校の友達」(8)						
	【通年】「学年合同学習」(30)・歌　・ダンス　・集団遊び		「みんなで遊ぼう」(30)・教室・エリア・体育館・公園・プール		「野菜をそだてよう」(10)・苗植え　・野菜の管理　・収穫		「つくってみよう」(12)・季節の工作		「本を借りよう」(12)・図書室の利用　・読書		「学級会活動」(12)・学期の始まり・振り返り・係決め・お楽しみ会等		
国語	「物語文」		「たなばた展(6月)」	「説明文」	「物語文」		「聞こう・話そう」	「説明文」		「書き初め展(1月)」	「昔話」		3年108 4年107
	【通年】「文字を読もう・書こう」・平仮名、片仮名の読み書き、筆記具の扱い等　「聞こう・話そう」・話を聞き取る・経験したことを話す												
算数	「数と計算」	「時刻や時間」	「お金」	「測定(長さ)」	「数と計算」		「図形」	「お金」	「グラフと表」	「数と計算」	「測定(広さ・かさ)」		3年81 4年81
	【通年】「数と計算」・数詞、数字、具体物の対応、順序数、集合数、加法、減法等　「数遊び」・数や数字を使った遊びやゲーム等												
音楽	「みんなで歌おう」(6)		「鍵盤ハーモニカで演奏しよう」(8)・鍵盤ハーモニカ		「鑑賞しよう」(6)		「リコーダーで演奏しよう」(7)・ソプラノリコーダー			「合奏しよう」(7)		「楽しい音楽」(2)	40
	【通年】「季節の歌」「リズム打ち」「ダンス」												
体育	「よーいどん！」(3)・基礎運動　・サーキット運動	「まな板山マラソン①」(4)	「わざにちょうせんしよう！」(5)・マット・跳び箱・ろく木		「縄跳びをしよう」(6)・短縄		「まな板山マラソン②」(4)		「ボール運動をしよう」(7)・ボール運動・簡単なゲーム		「縄跳びをしよう」(4)・長縄	「楽しい体育」(2)	41
	【通年】「リズム運動」「体操」「きまり」												
特別活動	【学級活動】・学級会活動・係活動　【児童生徒会活動】・お仕事タイム・学年合同学習・全校集会												
	【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・遠足・太陽祭・芸術鑑賞教室												
	【クラブ活動】(20)・遊びクラブ・つくろうクラブ・音楽クラブ												
道徳	※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。(学級に応じて重点を設定する。)												
	【通年】A　主として自分自身に関すること ◎		B　主として他の人との関わりに関すること ◎				C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、学校の教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**小学部重複A（3・4年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気な子ども　○楽しく学習する子ども　○仲良く遊ぶ子ども　＜育みたい資質・能力＞「知識及び 技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行　事　等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会	避難訓練(1)		終業式(1)	始業式(1)	遠足（1日）	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室		福祉作品展 終業式(1)	始業式(1)	合同作品展 6年生ありがとう会	卒業式(1日) 修了式(1)	日 時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「朝の活動」・登校　・あいさつ　・排せつ　・着替え・朝の会　・朝の運動		「係の仕事」・学級の係活動		「給食」・手洗い　・給食の準備　・給食　・後片付け　・歯磨き		「掃除」・机の片付け　・掃き掃除　・雑巾がけ　・ゴミ捨て		「帰りの活動」・着替え　・帰りの準備　・帰りの会　・下校				3年616 4年636
生活単元学習	「○年生になったよ」(5) 3年「すなあそびをしよう」(5) 4年「児童公園に行こう」(4)		「シャボン玉あそびをしよう」(6)	「水あそびをしよう」(8)			「太陽祭をがんばろう」(15)	「作って遊ぼう・ゲームをしよう」(10)	「お楽しみ会をしよう」(6)	「冬の遊びをしよう」(10)	「6年生ありがとう会」(10)	「もうすぐ○年生」(10)	3年191 4年191
	「新入生歓迎会をしよう」(5)	「こなあそびをしよう」(5)	「大笹生小学校の友達」(6)	3年:「スマイルパーク保原」(6) 校 4年:「サイクル広場へ行こう」(6) 校	「遠足へ行こう」(6)			「大笹生小との交流」(6)	「年賀状を書こう」(4)				
	【通年】「学年合同学習」(30)・歌　・ダンス　・集団遊び		「みんなで遊ぼう」(20)・教室・エリア・体育館・自活室・公園		「うんどうしよう」(20)・体育館・自活室		「野菜をそだてよう」(10)・種苗植え　・観察　・収穫		「つくってみよう」(20)・季節の工作		「学級会活動」(　)・学期の始まり・振り返り・係決め・お楽しみ会等		
国　　語	「うたあそび」・童謡・わらべ歌遊び・パネルシアター等				「絵本の読み聞かせ」・絵本・紙芝居・劇遊び等 「ことばあそび」・文字や言葉を使った遊び、ゲーム等					「絵本の読み聞かせ」・絵本・紙芝居・劇遊び等			3年94 4年94
	【通年】「文字を読もう・書こう」・具体物、写真、絵、文字等の対応・平仮名、片仮名の読み書き・筆記具の扱い等												
算　　数	「かずあそび」・数、数字を使った遊びやゲーム等				「かたちあそび」・形合わせ・弁別・分類・形の名前・方向・位置 「大きい・小さい」・有無・大小・多少・長短・重軽					「かずあそび」・数、数字を使った遊びやゲーム等 「ものの分類」・色・形・目的・用途・機能			3年94 4年94
	【通年】「合わせよう」・形合わせ・絵合わせ・パズル等　「数えよう」・数詞、数字、具体物の対応・一対一対応・順序数・集合数等												
特 別 活 動	【学級活動】・学級活動・係活動　【児童生徒会活動】・学年合同学習・全校集会												
	【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・遠足・太陽祭・芸術鑑賞教室												
	【クラブ活動】(20)・遊びクラブ・つくろうクラブ・音楽クラブ　※4年のみ　※3年クラブ活動体験を12月～1月に実施する。												
道　　徳	※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。（学級に応じて重点を設定する。）												
	【通年】A　主として自分自身に関すること ◎			B　主として他の人との関わりに関すること ◎			C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自 立 活 動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、学校の教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**小学部重複B（3・4年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気な子ども　○楽しく学習する子ども　○仲良く遊ぶ子ども　＜育みたい資質・能力＞「知識及び 技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会	避難訓練(1)		終業式(1)	始業式(1)	遠足（1日）	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室		福祉作品展 終業式(1)	始業式(1)	合同作品展 6年生ありがとう会	卒業式(1日) 修了式(1)	日 時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「朝の活動」・登校　・あいさつ　・排せつ　・着替え・朝の会　・朝の体操 「係の仕事」・学級の係活動 「給食」・手洗い　・給食の準備　・給食　・後片付け　・歯磨き 「掃除」・机の片付け　・掃き掃除　・雑巾がけ 「帰りの活動」・着替え　・帰りの準備　・帰りの会　・下校												3年530 4年530
生活単元学習	「○年生になったよ」(5) 3年「すなあそびをしよう」(5) 4年「児童公園に行こう」(4) 「シャボン玉あそびをしよう」(6) 「水あそびをしよう」（8） 「太陽祭をがんばろう」(15) 「作って遊ぼう・ゲームをしよう」（10） 「お楽しみ会をしよう」(6) 「冬のあそび」(10) 「6年生ありがとう会」(10) 「もうすぐ○年生」(10) 「新入生歓迎会をしよう」(5) 「こなあそびをしよう」(5) 「大笹生小学校の友達」(6) 3年:「スマイルパーク保原」(6)校 4年:「サイクル広場へ行こう」(6)校 「遠足へ行こう」(6) 「りんごがりへ行こう」(6)校 「大笹生小学校の友達」(6) 「年賀状を書こう」（4） 【通年】「学年合同学習」(25)・歌　・ダンス　・集団遊び 「みんなで遊ぼう」(40)・教室・エリア・体育館・自活室・公園 「野菜をそだてよう」(10)・苗植え　・野菜の管理　・収穫 「つくってみよう」(20)・季節の飾り　・作品展 「学級会活動」(　)・学期の始まり・振り返り・係決め・お楽しみ会等												3年190 4年191
国語	「うたあそび」・童謡・わらべ歌遊び・パネルシアター等 「絵本の読み聞かせ」・絵本・紙芝居・劇遊び等 「ことばあそび」・文字や言葉を使った遊び、ゲーム等 「絵本の読み聞かせ」・絵本・紙芝居・劇遊び等 【通年】「文字を読もう・書こう」・具体物、写真、絵、文字等の対応・平仮名、片仮名の読み書き・筆記具の扱い等												3年55 4年55
算数	「かずあそび」・数、数字を使った遊びやゲーム等 「かたちあそび」・形合わせ・弁別・分類・形の名前・方向・位置 「大きい・小さい」・有無・大小・多少・長短・重軽 「かずあそび」・数、数字を使った遊びやゲーム等 「ものの分類」・色・形・目的・用途・機能 【通年】「合わせよう」・形合わせ・絵合わせ・パズル等　「数えよう」・数詞、数字、具体物の対応・一対一対応・順序数・集合数等												3年55 4年55
自立活動（時間の指導）	【からだの時間】「体の部位のリラクゼーション」「姿勢の保持、変換」「粗大運動（遊具、サーキット運動等）」「歩行、歩行器、車いす等での移動（散策等）」 【水治訓練】「リラクゼーション」「アライメントを整える」「呼吸のコントロール」「全身運動」												3年163 4年162
特別活動	【学級活動】・学級会活動・係活動　【児童生徒会活動】・学年合同学習・全校集会 【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・遠足・太陽祭・芸術鑑賞教室 【クラブ活動】(20)・遊びクラブ・つくろうクラブ・音楽クラブ　※4年のみ　※3年クラブ活動体験を12月～1月に実施する。												
道徳	※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。（学級に応じて重点を設定する。） 【通年】A　主として自分自身に関すること ◎ B　主として他の人との関わりに関すること ◎ C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎ D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎												
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、学校の教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**小学部重複C（3・4年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気な子ども　○楽しく学習する子ども　○仲良く遊ぶ子ども　＜育みたい資質・能力＞「知識及び 技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行　事　等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会	避難訓練(1)		終業式(1)	始業式(1)	遠足（1日）	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室		福祉作品展 終業式(1)	始業式(1)	合同作品展 6年生ありがとう会	卒業式(1日) 修了式(1)	日 時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「元気かな:みんなとおはよう」・登校・あいさつ・バイタルチェック・朝の会・着替え・排せつ 「かかりの仕事」・朝の会の当番・健康観察簿届け（保健室） 「給食」・給食の準備　・給食・後片付け・歯磨き 「片付け」・毎日の荷物の整理・遊具の片付け 「帰りの活動」・着替え　・帰りの準備・帰りの会　・下校												3年530 4年551
遊びの指導	「○年生になったよ」(4) 「新入生歓迎会をしよう」(3) 【通年】「学年合同学習」(30)・歌　・ダンス　・集団遊び　・誕生会	「遊具であそぼう」(6)・滑り台・トンネル・ボール等 4年「児童公園へ行こう」(6)校	「さわってあそぼう」(6)・砂・土・水等 「大笹生小学校の友達」(3)	「元気にあそぼう」(28)・十六沼、都市公園、学校周辺散策	「遠足へ行こう」(3) 「さわってあそぼう」(4)・砂・土・水等	「太陽祭をがんばろう」(10)	「音・光であそぼう」(6)	「大笹生小学校の友達」(3)	「つくってあそぼう」(6)		「6年生ありがとう会」(4)	「もうすぐ○年生」(4)	3年114 4年114
自立活動（時間の指導）	【ゆっくりタイム】・水分摂取・教師や友達とのコミュニケーション・体の部位のリラクゼーション・姿勢の保持、変換　等	【からだの時間】（通年:毎週水曜日2，3校時）・体の部位のリラクゼーション・姿勢の保持、変換・粗大運動（トランポリン・ブランコ）・よつばい、あぐら座位、ひざ立ち、立位の保持、車いすでの移動等			【水治訓練】（5月～11月:毎週金曜日2，3校時）・リラクゼーション・アライメントを整える・呼吸のコントロール・全身運動　等		【個別に応じた学習】・玩具で遊ぶ・絵本を見る・注視、操作学習・文字、数　等		【摂食】・摂食しやすい姿勢・口唇閉鎖による嚥下・上唇を下ろして捕食・前歯でのかじりとり・咀嚼・手・指からの捕食と前歯でのかじりとり・食具の操作　等				3年351 4年350
特別活動	【学級活動】・係活動　【児童生徒会活動】・学年合同学習・全校集会 【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・遠足・太陽祭・芸術鑑賞教室												
道　徳	※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。（学級に応じて重点を設定する。） 【通年】A　主として自分自身に関すること ◎ B　主として他の人との関わりに関すること ◎ C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎ D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎												
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、学校の教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**小学部訪問**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気な子ども　○楽しく学習する子ども　○仲良く遊ぶ子ども　＜育みたい資質・能力＞「知識及び 技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行　事　等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会	避難訓練(1)		終業式(1)	始業式(1)	遠足・修学旅行（1日	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室		終業式(1)	始業式(1)	卒業生を送る会	卒業式(1日) 修了式(1)	日 時

自立活動

家庭訪問授業

「からだ」
・栄養摂取上体の確認　・体温の調節（気温の変化に応じた着脱や水分補給など）　・適切な排せつの習慣（時間・量・回数の管理と対応）　※保護者と連携しながら進める

「みる・きく」 ・季節の歌 ・手遊び歌 ・通学生との交流（授業や行事の動画を見聞きする）	「太陽祭の歌」 ・テーマソング	「みる・きく」 ・季節の歌 ・手遊び歌 ・通学生との交流（授業や行事の動画を見聞きする）	「卒業式・送る会関連の歌」 ・校歌 ・ビリーブ
「さわる・つくる」 ・感触遊び（お花紙、新聞紙） ・色水・シャボン玉、泡遊び ・タブレットの端末をつかって（タッチパネルを使った音楽遊び） ・季節の作品制作	「太陽祭の作品を作ろう」	「さわる・つくる」 ・感触遊び（お花紙、新聞紙） ・色水・シャボン玉、泡遊び ・タブレットの端末をつかって ・季節の作品制作	「合同作品展に出品しよう」 「さわる・つくる」 ・１年間の作品をまとめよう
「絵本・動画」 ・季節の絵本、動画 ・大型絵本、動画	「絵本・動画」 ・太陽祭に関連いた動画	「絵本・動画」 ・季節の絵本、動画 ・大型絵本、動画	
「コミュニケーション」 ・学年とのつながりをもった学習（新入生歓迎会自己紹介準備、総合学習等）	「コミュニケーション」 ・ステージ発表への参加	「コミュニケーション」 ・学年とのつながりをもった学習（新入生歓迎会自己紹介準備、総合学習等）	

スクーリング

※週１回程度、スクーリングを行う。内容については、音楽や身体の学習及び太陽祭等の行事等を主として、交流学級や学年の担当者と話合いながら計画するようにする。

＜学部全体・学年＞

「新入生歓迎会」「校外散策」「学部集会」他	「太陽祭」「総合学習」「学部集会」他	「学部集会」「卒業生を送る会」「卒業式」

＜交流学級＞

【通年】	「交流学習」 ・日生　・音楽等	「体の時間」 ・水治訓練　・エアートランポリン				

道　徳

※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。（学級に応じて重点を設定する。）

【通年】	A　主として自分自身に関すること ◎	B　主として他の人との関わりに関すること ◎	C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎	D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　　**中学部通常（2年）**　　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気に活動する生徒　○自ら学習する生徒　○友達と協力する生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会(2)	避難訓練(1)	学習旅行	水泳教室 終業式(1)	始業式(1)	水泳教室	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室	校内実習	終業式(1)	始業式(1)		卒業生を送る会 卒業式(1日) 修了式(1)	日／時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「朝の活動」・着替え・係活動・朝の会		「身だしなみ」・服装・衛生		「給食」・準備　・片付け　・マナー		「帰りの活動」・着替え　・掃除　・帰りの会		「係の仕事」・学級の係活動				275
生活単元学習	「2年生の生活」(10) 「新入生歓迎会」(8) 【通年】「校外活動」(35)・地域探索等	「学習旅行に行こう」(20)校	「生活で使うものを作ろう」(20) 「制作活動」(18)・掲示物・プレゼント等	「夏休みの計画を立てよう」(6)	「学期の始まり・振り返り」「夏休み・冬休みの思い出」等(8)	「太陽祭を頑張ろう」(24) 「作品を作ろう」(12)		「校内実習をがんばろう」(4) 「働くことについて考えよう」(8)	「調理をしよう」(10) 「冬休みの計画を立てよう」(6)	「合同作品展に行こう」(24)校	「卒業生をお祝いしよう」(30)	「1年のまとめ」(12)	255
作業学習 木工	「ようこそ木工班へ」（オリエンテーション）(10)	「物づくりの楽しさを知ろう～販売する製品を知ろう～」(35)			「太陽祭に向けて頑張ろう～スマイルマーケット～」(40)			校内実習(50)（明成高校で販売）校	「校内販売をしよう」(35)				175
作業学習 紙工	「ようこそ紙工班へ」（オリエンテーション）(10)	「物づくりの楽しさを知ろう～販売する製品を知ろう～」(35)			「太陽祭に向けて頑張ろう～スマイルマーケット～」(40)			校内実習(50)（校内販売に向けて）校	「校内販売をしよう」(35)				
作業学習 家庭生活	「ようこそ家庭生活班へ」(オリエンテーション)(10)	「物づくりの楽しさを知ろう～販売する製品を知ろう～」(35)			「太陽祭に向けて頑張ろう～スマイルマーケット～」(40)			校内実習(50)（校内販売に向けて）校	「校内販売をしよう」(35)				
国語	「文章を読もう」(11) 【通年】		「文章を書こう」(12)		「ローマ字の学習」(10)	「手紙を書こう」(5)		「筆で書こう」(6)		「物語を読もう」(10)		1年間の思い出を発表しよう(5)	61
数学	「数えてみよう・計算しよう」(15) 【通年】		「お金を数えよう」(10)		「時間とこよみ」(10)		いろいろな形(10)		大きい数(10)		測ってみよう(10)		64
音楽	「音楽を始めよう」(3) 【通年】「歌唱」「身体表現」「鑑賞」（共通教材、生徒の興味関心に沿った教材）	「合奏をしよう」(12)		「リズムに合わせて体を動かそう」(5)	「世界の音楽に親しもう」(20)			「季節の曲に親しもう」(10)		「発表会をしよう」(10)「卒業の歌を歌おう」(8)			59
保健体育	「体つくり運動」(5) 【通年】「朝のトレーニング（20分）」「体つくり運動」	「フライングディスク・ボッチャ」(4)	「水泳」(1) 「ティーボール」(15)		「保健」(1) 「水泳」(3)		「ダンス」(8)	「サッカー」(10)		「バレーボール」(15)		「保健」(1)	139
外国語（英語）				「数字、日付、曜日、月の名前」(8)				「クリスマスを楽しもう」(8)					16
総合的な学習の時間		「身近な地域を調べよう」(10)			ALT体験(1)			「平野中学校との交流学習」(8) ALT体験(1)					20
特別活動	【学級活動】「月の予定を知ろう」「目標や係を決めよう」「友達と仲良くなろう」「太陽祭を成功させよう」「卒業生を送る会を成功させよう」【生徒会活動】・学部集会・全校集会 【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・学習旅行・太陽祭・芸術鑑賞教室												24
道徳	「　」 【通年】A　主として自分自身に関すること ◎			B　主として他の人との関わりに関すること ◎	「　」 C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎					「　」 D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			18
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、学校の教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**中学部重複A（2年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気に活動する生徒　○自ら学習する生徒　○友達と協力する生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会(2)	避難訓練(1)	学習旅行	水泳教室 終業式(1)	始業式(1)	水泳教室	太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室	校内実習	終業式(1)	始業式(1)		卒業生を送る会 卒業式(1日) 修了式(1)	日／時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「朝の活動」・着替え・係活動・朝の会		「身だしなみ」・服装・衛生		「給食」・準備　・片付け　・マナー		「帰りの活動」・着替え　・掃除　・帰りの会		「係の仕事」・学級の係活動				453
生活単元学習	「2年生の生活」(10) 「新入生歓迎会」(14)	「　」(20)	「学習旅行に行こう」(20) 校	「生活で使うものを作ろう」(20)		「太陽祭を頑張ろう」(30)		「作品をつくろう～福祉作品展に向けて～」(20)		「合同作品展に行こう」(24) 校	「卒業生をお祝いしよう」(30)	「1年のまとめ」(12)	293
	【通年】「学部集会」(10)「全校集会」(3)		「校外活動」(50)・地域探索等		「制作活動」(14)・掲示物・プレゼント等		「学期を振り返ろう」「夏休み・冬休みの思い出」等(16)						
作業学習	「オリエンテーション」(2)	「物づくりの楽しさを知ろう～販売する製品を知ろう～」(20)			「太陽祭に向けて頑張ろう～スマイルマーケット～」(20)			「校内販売をしよう」(20)					62
国語	「言葉に親しもう」・身近なものの名前・先生や友達の名前・歌詞・言葉遊び等				「お話に親しもう」・絵本・紙芝居等 「書くことに親しもう」・文字や形を書く、なぞる、組み合わせる等					「いろいろな言葉」・動きの言葉・気持ちの言葉・二語文等			67
	【通年】「文字を読もう・書こう」・具体物、写真、絵、文字等の対応・平仮名、片仮名の読み書き・筆記具の扱い等												
数学	「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等				「かたち」・形合わせ・弁別・分類・形の名前・方向・位置 「大きい・小さい」・有無・大小・多少・長短・重軽					「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等 「ものの分類」・色・形・目的・用途・機能			68
	【通年】「合わせよう」・形合わせ・絵合わせ・パズル等　「数えよう」・数詞、数字、具体物の対応・一対一対応・順序数・集合数等												
音楽	「音楽がはじまるよ」(3)	「歌に親しもう」(6)	「リズムを知ろう」(5)			「さまざまな楽器に触れよう」(6)	「いろいろな曲を聴こう」(5)		「クリスマスを楽しもう」(3)	「発表会をしよう」(6)		「ありがとうおめでとう」(3)	31
	【通年】「あいさつのうた」・器楽・リトミック・パネルシアター・カラーバルーン　等　※上記題材名で左記活動内容を季節・行事に照らし合わせて楽曲を選定・実施する。												
保健体育	「楽しく身体を動かそう」(4)		「水の中で運動をしよう」(水泳教室、水治訓練)(8) 「いろいろな動きをやってみよう」(器械、器具を使った運動)(6)			「ダンスをしよう」(6)		ニュースポーツをやってみよう(FD、ボッチャ)(8)		「ボール運動をしよう」(6)			112
	【通年】「朝のトレーニング(20分)」「体つくり運動」												
総合的な学習の時間		「身近な地域を調べよう」(10)		ALT体験(1)				「平野中学校との交流学習」(8) ALT体験(1)					20
特別活動	【学級活動】・係活動【生徒会活動】・学部集会・全校集会 【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・学習旅行・太陽祭・芸術鑑賞教室												
道徳	※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。(学級に応じて重点を設定する。) 【通年】A　主として自分自身に関すること ◎		B　主として他の人との関わりに関すること ◎				C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**中学部重複B（2年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○元気に活動する生徒　○自ら学習する生徒　○友達と協力する生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	始業式(1) 入学式(1) 交通安全教室(1) 新入生歓迎会(2)	避難訓練(1)	学習旅行	終業式(1)	始業式(1)		太陽祭(1日) 芸術鑑賞教室	校内実習	終業式(1)	始業式(1)		卒業生を送る会 卒業式(1日) 修了式(1)	日／時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「朝の活動」・着替え・係活動・朝の会		「身だしなみ」・服装・衛生		「給食」・準備　・片付け　・マナー		「帰りの活動」・着替え　・掃除　・帰りの会		「係の仕事」・学級の係活動				529
生活単元学習	「2年生の生活」(10) 「新入生歓迎会」(14)	「ゲームをしよう」(15)	「学習旅行に行こう」(10) 校	「生活で使うものを作ろう」(15)		「太陽祭を頑張ろう」(30)		「作品をつくろう～福祉作品展に向けて～」(20)		「合同作品展に行こう」(24) 校	「卒業生をお祝いしよう」(30)	「1年のまとめ」(12)	263
	【通年】「学部集会」(10)「全校集会」(3)		「校外活動」(30)・地域探索等		「制作活動」(24)・掲示物・プレゼント等		「学期を振り返ろう」「夏休み・冬休みの思い出」等(16)						
作業学習	「オリエンテーション」(2)	「物づくりの楽しさを知ろう～販売する製品を知ろう～」(20)			「太陽祭に向けて頑張ろう～スマイルマーケット～」(20)			「校内販売をしよう」(20)					62
国語	「言葉に親しもう」・身近なものの名前・先生や友達の名前・歌詞・言葉遊び等				「お話に親しもう」・絵本・紙芝居等 「書くことに親しもう」・文字や形を書く、なぞる、組み合わせる等					「いろいろな言葉」・動きの言葉・気持ちの言葉・二語文等			66
	【通年】「文字を読もう・書こう」・具体物、写真、絵、文字等の対応・平仮名、片仮名の読み書き・筆記具の扱い等												
数学	「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等				「かたち」・形合わせ・弁別・分類・形の名前・方向・位置 「大きい・小さい」・有無・大小・多少・長短・重軽					「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等 「ものの分類」・色・形・目的・用途・機能			68
	【通年】「合わせよう」・形合わせ・絵合わせ・パズル等　「数えよう」・数詞、数字、具体物の対応・一対一対応・順序数・集合数等												
音楽	「音楽がはじまるよ」(3)	「歌に親しもう」(6)	「リズムを知ろう」(5)			「さまざまな楽器に触れよう」(6)	「いろいろな曲を聴こう」(5)		「クリスマスを楽しもう」(3)	「発表会をしよう」(6)		「ありがとうおめでとう」(3)	31
	【通年】「あいさつのうた」・器楽・リトミック・パネルシアター・カラーバルーン　等　※上記題材名で左記活動内容を季節・行事に照らし合わせて楽曲を選定・実施する。												
自立活動（時間の指導）	【からだの時間】「体の部位のリラクゼーション」「姿勢の保持、変換」「粗大運動」「歩行、歩行器、車いす等での移動」												67
	【水治訓練】「リラクゼーション」「アライメントを整える」「呼吸のコントロール」「全身運動」												
総合的な学習の時間		「身近な地域を調べよう」(10)		ALT体験(1)				「平野中学校との交流学習」(8) ALT体験(1)					20
特別活動	【学級活動】・係活動【生徒会活動】・学部集会・全校集会												
	【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・交通安全教室・避難訓練・学習旅行・太陽祭・芸術鑑賞教室												
道徳	※以下の内容について、学校の教育活動全体を通じて指導する。（学級に応じて重点を設定する。）												
	【通年】	A　主として自分自身に関すること ◎		B　主として他の人との関わりに関すること ◎			C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2

高等部通常A(2年)

【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○健康の維持と体力の向上に努める生徒　○自ら考え生き生きと生活する生徒　○社会の一員として共に生きる生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数 日／時
行事等	入学式・始業式 学部交歓会	避難訓練(1) 障がい者総合体育大会	現場実習	終業式(1)		始業式(1)	太陽祭(1日) 特体連スポーツ大会 修学旅行(4日)	現場実習	終業式(1)	始業式(1) 生徒会役員改選 総合学習報告会	卒業生を送る会	卒業式(1日) 修了式(1)	
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「あいさつ・返事」「着替え・身だしなみ」「整理整頓」「係活動」「朝の会・帰りの会」「給食」「清掃」「学校生活のきまり」												113
作業学習 手工芸	オリエンテーション(　) 「基本的を身に付けよう」(　)	「分担して製作しよう」(　)	前期現場実習(　)	「作業技能検定大会に向けて」(　)		「太陽祭に向けて製作しよう」(　)		後期現場実習(　)	「合同作品展に向けて製品を作ろう」(　)		「注文品を作ろう」(　)	「反省会」(　)	391
作業学習 レザークラフト	オリエンテーション(　) 「基本的を身に付けよう」(　)	「分担して製作しよう」(　)	前期現場実習(　)	「作業技能検定大会に向けて」(　)		「太陽祭に向けて製作しよう」(　)		後期現場実習(　)	「合同作品展に向けて製品を作ろう」(　)		「新製品を作ろう」(　)	「反省会」(　)	
作業学習 木工	オリエンテーション(　) 「基本的を身に付けよう」(　)	「分担して製作しよう」(　)	前期現場実習(　)	「作業技能検定大会に向けて」(　)		「太陽祭に向けて製作しよう」(　)		後期現場実習(　)	「合同作品展に向けて製品を作ろう」(　)		「まとめの作品を作ろう」(　)	「反省会」(　)	
作業学習 陶芸	オリエンテーション(　) 「基本的を身に付けよう」(　)	「分担して製作しよう」(　)	前期現場実習(　)	「作業技能検定大会に向けて」(　)		「太陽祭に向けて製作しよう」(　)		後期現場実習(　)	「合同作品展に向けて製品を作ろう」(　)		「新製品を作ろう」(　)	「反省会」(　)	
作業学習 クリーン活動	オリエンテーション(　) 「清掃や花壇の手入れの仕方を覚えよう」(　)		前期現場実習(　)	「作業技能検定大会に向けて」(　)		「太陽祭実演発表をしよう」(　) 「手順に沿って清掃や手入れをしよう」(　)		後期現場実習(　)	「いろいろな場所の清掃を覚えよう」(57) 注文清掃(30)			「反省会」(　)	
作業学習 シール加工	オリエンテーション(　) 「塩ビ管にバーコードシールを貼ろう」(　)		前期現場実習(　)	「受注作業」(　)		「受注作業」(　)	「スマイルマーケットで実演しよう」(　)	後期現場実習(　)	「受注作業」(　)			「反省会」(　)	
作業学習 リサイクル	オリエンテーション(　) 「紙すきの工程を覚えよう」(　)	「リサイクル製品を作ろう」(　)	前期現場実習(　)	「1学期の作品を仕上げよう」(　)		「太陽祭に向けて製作しよう」(　)		後期現場実習(　)	「合同作品展に向けて製品を作ろう」(　)		「ひまわり里親プロジェクト」(　)	「反省会」(　)	
職業	「働く生活」(　) 「ビジネスマナー①」(　)	「事業所見学に向けて」(　) 「ビジネスマナー②」(　) 「前期現場実習に向けて」(3)	「前期現場実習」(　)	「現場実習の成果と課題」(　)		「将来について①」(　) 「進路ガイダンス」(　)	「将来について②」(　) 「後期現場実習に向けて」(　)	「後期現場実習」(　)	「現場実習の成果と課題」(　) 「選挙制度について」(　)	「身近な公共施設の利用の仕方①」(　)		「将来について③」(　)	86
家庭	「日常の食事に関心を持とう」(　)			「衣服に関心を持とう」(　)		「衣服に関心を持とう」(　)	「生活に役立つものを作ろう」(　)		「住まいを工夫しよう」(　)	「マナーを守って食事をしよう」(　) 「家庭生活を充実させよう」(　)	「住まいの手入れ」(　)	「家族の一員としての役割」(　)	91
国語	「ローマ字を覚えよう」(　)	「電話の受け答え」(　)	「丁寧な言葉で話そう」(　)	「書道に親しもうⅠ」(　)		「学級新聞づくり」(　)	「身近にある文章に親しもう」(　)	「書道に親しもうⅡ」(　)	「礼状や年賀状を書こう」(　)	「本に親しもう」(　)		「1年間の思い出を綴ろう」(　)	61
	【通年】「適切な聞き方、話し方」「正確な読み方、書き方」「書字」												
数学	「数と計算Ⅰ」(　)	「量と測定」(　)		「お金と計算」(　)		「お金と計算」(　)	「時間・時刻と暦」(　)		「表とグラフ」(　)	「数と計算Ⅱ」(　)	「いろいろな形」(　)	「1年間のまとめをしよう」(　)	59
	【通年】「四則演算」「実務」※各単元において、実務的な内容を取り入れて指導する。												
保健体育	「集団行動」(　)	「スポーツテスト」(　)	「ティーボール」(　)			「ダンス」(　)	「バスケットボール」(　)			「バドミントン」(　)		「スポーツテスト」	105
	【通年】「体つくり運動」「スポーツテスト」「トレーニング」「福島ユナイテッドFC(サッカー)」「福島ファイヤーボンズ(バスケットボール)」												
外国語	「挨拶や自己紹介」(　) 「家族紹介をしよう」(　)	「今、何時？」(　)	「英語に親しもう～学校編～」(　)			「どこから来たか尋ねてみよう」(　)	「外国の文化に触れよう」(　)			「お正月を英語で紹介しよう」(　)	「いろいろな衣装を知ろう」(　)	「A speech and agame」(1)	31
情報	「パソコンの基本操作を知ろう」(　)	「情報モラルを知ろう」(　) 「アンケートを入力しよう」(　)				「ワープロソフトの使い方を知ろう」(　)		「年賀状を作成しよう」(　)	「表計算の使い方を知ろう」(　)		「プレゼンテーションソフトの使い方を知ろう」(　)		33
	【通年】「情報モラルの学習」「Web閲覧と検索」「タイピング」												
選択教科 音楽	「仲間になろう」(　) 「歌う姿勢や歌い方を知ろう」(　)	「音楽作りを楽しもう」(　)				「とっておきの音楽祭で発表しよう」(　)	「太陽祭で発表しよう」(　)	「ドリームコンサートで発表しよう」(　)		「ふれあいコンサートで発表しよう」(　)	「自分たちが好きな音楽を発表しよう」(　)	「1年間のまとめをしよう」(　)	59
選択教科 美術	「春を描こう」(　)		「青春の回り道を描こう」(　)			「星の世界を描こう」(　)	「秋の宝物を見つけよう」(　)		「物語の世界を描こう」(　)	「成蹊生との交流活動に参加しよう」(　)	「古代文字を描こう」(　)	「感謝の言葉を送ろう」(　)	
選択教科 情報	「情報モラルを知ろう」 「パソコンの基本操作を知ろう」(　)	「アンケートの入力をしよう」(　)				「ワープロソフトの使い方を知ろう」(　)		「年賀状の作成をしよう」(　)	「表計算の使い方を知ろう」(　)		「プレゼンテーションソフトの使い方を知ろう」(　)		
選択教科 体育	「ティーボール」(　)		「タグラグビー」(　)			「ソフトボール」(　)		「バスケットボール」(　)		「選択(フットサル、卓球、ダンス)」(　)			
総合的な学習の時間	「オリエンテーション」「テーマ設定」「班編成」「活動計画づくり」(　)		「調べ学習、活動の実践」(　)			「調べ学習、活動の実践」(　)		「報告会の準備・練習」「全体報告会」(　)					32
特別活動(ホームルーム)	HR「学級組織と一年間の目標」「社会人のマナー」	「清潔な体と身だしなみ」	「友達との付き合い方を考えよう」	「1学期の反省と夏休みの生活」		「夏休みの反省と2学期の目標」	「太陽祭を成功させよう」	「社会人のマナー」	「2学期の反省と冬休みの生活」	「冬休みの反省と3学期の目標」	「卒業生を送る会を成功させよう」	「一年間の反省」	42
	【生徒会活動】「各委員会活動」「学部交歓会」「生徒会総会」「奉仕活動」「生徒会役員選挙」　【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・避難訓練・太陽祭・修学旅行・障害者総合体育大会・特体連スポーツ大会												
道徳	【通年】A　主として自分自身に関すること ◎			B　主として他の人との関わりに関すること ◎			C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**高等部通常B（2年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○健康の維持と体力の向上に努める生徒　○自ら考え生き生きと生活する生徒　○社会の一員として共に生きる生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数 日／時
行事等	入学式・始業式 学部交歓会	避難訓練(1) 障がい者総合体育大会	現場実習	終業式(1)		始業式(1)	太陽祭(1日) 特体連スポーツ大会 修学旅行(4日)	現場実習	終業式(1)	始業式(1) 生徒会役員改選 総合学習報告会	卒業生を送る会	卒業式(1日) 修了式(1)	
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「あいさつ・返事」「着替え・身だしなみ」「整理整頓」「係活動」「朝の会・帰りの会」「給食」「清掃」「学校生活のきまり」												113
作業学習 手工芸	オリエンテーション（　） 「基本的を身に付けよう」（　）	「分担して製作しよう」（　）	前期現場実習（　）	「作業技能検定大会に向けて」（　）		「太陽祭に向けて製作しよう」（　）		後期現場実習（　）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（　）		「注文品を作ろう」（　）	「反省会」（　）	391
作業学習 レザークラフト	オリエンテーション（　） 「基本的を身に付けよう」（　）	「分担して製作しよう」（　）	前期現場実習（　）	「作業技能検定大会に向けて」（　）		「太陽祭に向けて製作しよう」（　）		後期現場実習（　）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（　）		「新製品を作ろう」（　）	「反省会」（　）	
作業学習 木工	オリエンテーション（　） 「基本的を身に付けよう」（　）	「分担して製作しよう」（　）	前期現場実習（　）	「作業技能検定大会に向けて」（　）		「太陽祭に向けて製作しよう」（　）		後期現場実習（　）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（　）		「まとめの作品を作ろう」（　）	「反省会」（　）	
作業学習 陶芸	オリエンテーション（　） 「基本的を身に付けよう」（　）	「分担して製作しよう」（　）	前期現場実習（　）	「作業技能検定大会に向けて」（　）		「太陽祭に向けて製作しよう」（　）		後期現場実習（　）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（　）		「新製品を作ろう」（　）	「反省会」（　）	
作業学習 クリーン活動	オリエンテーション（　） 「清掃や花壇の手入れの仕方を覚えよう」（　）		前期現場実習（　）	「作業技能検定大会に向けて」（　）		「太陽祭実演発表をしよう」（　） 「手順に沿って清掃や手入れをしよう」（　）		後期現場実習（　）	「いろいろな場所の清掃を覚えよう」(57) 注文清掃(30)			「反省会」（　）	
作業学習 シール加工	オリエンテーション（　） 「塩ビ管にバーコードシールを貼ろう」（　）		前期現場実習（　）	「受注作業」（　）		「受注作業」（　）	「スマイルマーケットで実演しよう」（　）	後期現場実習（　）	「受注作業」（　）			「反省会」（　）	
作業学習 リサイクル	オリエンテーション（　） 「紙すきの工程を覚えよう」（　）	「リサイクル製品を作ろう」（　）	前期現場実習（　）	「1学期の作品を仕上げよう」（　）		「太陽祭に向けて製作しよう」（　）		後期現場実習（　）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（　）		「ひまわり里親プロジェクト」（　）	「反省会」（　）	
生活単元学習	「2年生に進級して」（　） 【通年】	「修学旅行に行こうⅠ」（　）	「働くことについて考えよう」（　）校	「修学旅行に行こうⅡ」（　）校		「修学旅行に行こうⅢ」(40)校		「進路について考えよう」（　）校		「生活を豊かにしよう」（　）校	「1年間の振り返り」（　）		155
家庭	「衣服に関心を持とう」(5)	「食生活を見直そう」（　）		「家庭生活を豊かにしよう」（　）校		「日常の食事」（　）調		「衣食住を工夫しよう」（　）		「家庭生活を充実させよう」（　）校		「1年間のまとめをしよう」（　）	58
国語	「言葉遣いを覚えよう」（　） 【通年】「適切な聞き方、話し方」「正確な読み方、書き方」「書字」	「電話の受け答え」（　）	「手紙の書き方」（　）	「毛筆で書こう」（　）		「文章を適切に理解しよう」（　）		「毛筆で書こう」（　）		「本に親しもう」（　）		「学級新聞づくり」（　）	64
数学	「お金と計算」（　） 【通年】「四則演算」「実務」※各単元において、実務的な内容を取り入れて指導する。			「長さと重さ」（　）		「長さと重さ」（　）	「時刻・時間・暦」（　）		「距離・速さ」（　）		「図形・数量」（　）	「1年間のまとめ」（　）	62
保健体育	「集団行動」（　） 【通年】「体つくり運動」「スポーツテスト」「トレーニング」「福島ユナイテッドFC（サッカー）」「福島ファイヤーボンズ（バスケットボール）」	「スポーツテスト」（　）	「ティーボール」（　）			「ダンス」（　）	「バスケットボール」（　）			「バドミントン」（　）		「スポーツテスト」	59
外国語	「英語に触れよう」（　）	「数字・曜日」（　）				「季節」（　）			「クリスマスの文化」（　）	「日本の文化」（　）	「英語の文字を知ろう」（　）		33
情報	「パソコンの基本操作を知ろう」（　） 【通年】「情報モラルの学習」「Web閲覧と検索」「タイピング」	「情報モラルを知ろう」（　） 「アンケートを入力しよう」（　）				「ワープロソフトの使い方を知ろう」（　）		「年賀状を作成しよう」（　）	「表計算の使い方を知ろう」（　）		「プレゼンテーションソフトの使い方を知ろう」（　）		31
選択教科 音楽	「仲間になろう」（　） 「歌う姿勢や歌い方を知ろう」（　）	「音楽作りを楽しもう」（　）				「とっておきの音楽祭で発表しよう」（　）	「太陽祭で発表しよう」（　）	「ドリームコンサートで発表しよう」（　）		「ふれあいコンサートで発表しよう」（　）	「自分たちが好きな音楽を発表しよう」（　）	「1年間のまとめをしよう」（　）	59
選択教科 美術	「春を描こう」（　）		「青春の回り道を描こう」（　）			「星の世界を描こう」（　）	「秋の宝物を見つけよう」（　）		「物語の世界を描こう」（　）	「成蹊生との交流活動に参加しよう」（　）	「古代文字を描こう」（　）	「感謝の言葉を送ろう」（　）	
選択教科 情報	「パソコンの基本操作を知ろう」（　）	「情報モラルを知ろう」（　） 「アンケートを入力しよう」（　）				「ワープロソフトの使い方を知ろう」（　）		「年賀状を作成しよう」（　）	「表計算の使い方を知ろう」（　）		「プレゼンテーションソフトの使い方を知ろう」（　）		
選択教科 体育	「ティーボール」（　）		「タグラグビー」（　）			「ソフトボール」（　）		「バスケットボール」（　）		「選択（フットサル、卓球、ダンス）」（　）			
総合的な学習の時間	「オリエンテーション」「テーマ設定」「班編成」「活動計画づくり」（　）		「調べ学習、活動の実践」（　）			「調べ学習、活動の実践」（　）		「報告会の準備・練習」「全体報告会」（　）					32
特別活動（ホームルーム）	HR「2年生に進級して」 【生徒会活動】「各委員会活動」「学部交歓会」「生徒会総会」「奉仕活動」「生徒会役員選挙」	「社会人としてのマナーについて考えよう」 【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・避難訓練・太陽祭・修学旅行・障害者総合体育大会・特体連スポーツ大会	「言葉遣いについて確認しよう」	「1学期の反省と夏休みの生活」		「言葉遣いについて確認しよう」	「太陽祭を成功させよう」	「働くことの大切さを知ろう」	「2学期の反省と冬休みの生活」	「心の健康について考えよう」	「卒業生を送る会を成功させよう」「性のモラル」	「一年間の反省」	42
道徳	【通年】A　主として自分自身に関すること ◎		B　主として他の人との関わりに関すること ◎				C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　　**高等部通常C（2年）**　　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○健康の維持と体力の向上に努める生徒　○自ら考え生き生きと生活する生徒　○社会の一員として共に生きる生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」											
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数 日／時
行事等	入学式・始業式 学部交歓会	避難訓練(1) 障がい者総合体育大会	現場実習	終業式(1)		始業式(1) 特体連スポーツ大会 修学旅行（4日）	太陽祭(1日)	現場実習	終業式(1)	始業式(1) 生徒会役員改選 総合学習報告会	卒業生を送る会	卒業式(1日) 修了式(1)	
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「あいさつ・返事」「着替え・身だしなみ」「整理整頓」「係活動」「朝の会・帰りの会」「給食」「清掃」「学校生活のきまり」												118
作業学習 手工芸	オリエンテーション（ ） 「基本的を身に付けよう」（ ）	「分担して製作しよう」（ ）	前期現場実習（ ）	「作業技能検定大会に向けて」（ ）		「太陽祭に向けて製作しよう」（ ）		後期現場実習（ ）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（ ）		「注文品を作ろう」（ ）	「反省会」（ ）	389
作業学習 レザークラフト	オリエンテーション（ ） 「基本的を身に付けよう」（ ）	「分担して製作しよう」（ ）	前期現場実習（ ）	「作業技能検定大会に向けて」（ ）		「太陽祭に向けて製作しよう」（ ）		後期現場実習（ ）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（ ）		「新製品を作ろう」（ ）	「反省会」（ ）	
作業学習 木工	オリエンテーション（ ） 「基本的を身に付けよう」（ ）	「分担して製作しよう」（ ）	前期現場実習（ ）	「作業技能検定大会に向けて」（ ）		「太陽祭に向けて製作しよう」（ ）		後期現場実習（ ）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（ ）		「まとめの作品を作ろう」（ ）	「反省会」（ ）	
作業学習 陶芸	オリエンテーション（ ） 「基本的を身に付けよう」（ ）	「分担して製作しよう」（ ）	前期現場実習（ ）	「作業技能検定大会に向けて」（ ）		「太陽祭に向けて製作しよう」（ ）		後期現場実習（ ）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（ ）		「新製品を作ろう」（ ）	「反省会」（ ）	
作業学習 クリーン活動	オリエンテーション（ ） 「清掃や花壇の手入れの仕方を覚えよう」（ ）		前期現場実習（ ）	「作業技能検定大会に向けて」（ ）		「太陽祭実演発表をしよう」（ ） 「手順に沿って清掃や手入れをしよう」（ ）		後期現場実習（ ）	「いろいろな場所の清掃を覚えよう」(57) 注文清掃（30）			「反省会」（ ）	
作業学習 シール加工	オリエンテーション（ ） 「塩ビ管にバーコードシールを貼ろう」（ ）		前期現場実習（ ）	「受注作業」（ ）		「受注作業」（ ）	「スマイルマーケットで実演しよう」（ ）	後期現場実習（ ）	「受注作業」（ ）			「反省会」（ ）	
作業学習 リサイクル	オリエンテーション（ ） 「紙すきの工程を覚えよう」（ ）	「リサイクル製品を作ろう」（ ）	前期現場実習（ ）	「1学期の作品を仕上げよう」（ ）		「太陽祭に向けて製作しよう」（ ）		後期現場実習（ ）	「合同作品展に向けて製品を作ろう」（ ）		「ひまわり里親プロジェクト」（ ）	「反省会」（ ）	
生活単元学習	「2年生に進級して」（ ）	「日本各地の気候や産業」（ ） 校外学習（ ）校		「北海道の気候や産業」（ ） 調理実習①（ ）		「北海道の気候や産業」（ ）	「太陽祭を成功させよう」（ ）	「人体のつくりや働き」（ ） 調理実習②（ ）		「日本の歴史や政治の流れ」（ ）	調理実習③（ ）	「一年間を振り返って」（ ）	212
	【通年】「学級掲示を作ろう」「学期の始まり・振り返り」「夏休み・冬休みの思い出」												
国語	「文章を適切に理解しよう」（ ）	「正しい敬語の使い方」（ ）	「手紙を書こう」（ ）	「毛筆で書こう」（ ）		「文章を適切に理解しよう」（ ）		「国語辞典を使って調べよう」（ ）	「毛筆で書こう」（ ） 「年賀状を書こう」()	「本に親しもう」（ ）		「感想文を書こう」（ ）	67
	【通年】「適切な聞き方、話し方」「正確な読み方、書き方」「書字」												
数学	「数と計算」（ ）		「長さと重さ」（ ）	「表とグラフ」（ ）		「お金と計算」（ ）		「時間・時刻・暦」（ ）		「分数」（ ）		「1年間のまとめをしよう」（ ）	70
	【通年】「四則演算」「実務」※各単元において、実務的な内容を取り入れて指導する。												
保健体育	「集団行動」（ ）	「スポーツテスト」（ ）	「ティーボール」（ ）			「ダンス」（ ）	「バスケットボール」（ ）			「バドミントン」（ ）		「スポーツテスト」	109
	【通年】「体つくり運動」「スポーツテスト」「トレーニング」「福島ユナイテッドFC（サッカー）」「福島ファイヤーボンズ（バスケットボール）」												
外国語	「英語に触れよう」（ ）	「いろいろな食べ物」（ ）				「外国の文化」（ ）				「日本の文化」（ ）		「いろいろな国」（ ）	35
	【通年】												
情報	「パソコンに触ってみよう」（ ）	「困ったことにならないために対処方法を知ろう」（ ）				「キーボードを使わない方法でアンケートを入力しよう」（ ）		「ワープロソフトの使い方を知ろう」（ ）			「色々なものを調べてみよう」（ ）		35
	【通年】「パソコンを自由に使ってみよう」												
選択教科 音楽	「仲間になろう」（ ） 「歌う姿勢や歌い方を知ろう」（ ）	「音楽作りを楽しもう」（ ）				「とっておきの音楽祭で発表しよう」（ ）	「太陽祭で発表しよう」（ ）	「ドリームコンサートで発表しよう」（ ）		「ふれあいコンサートで発表しよう」（ ）	「自分たちが好きな音楽を発表しよう」（ ）	「1年間のまとめをしよう」（ ）	59
選択教科 美術	「春を描こう」（ ）		「青春の回り道を描こう」（ ）			「星の世界を描こう」（ ）	「秋の宝物を見つけよう」（ ）		「物語の世界を描こう」（ ）	「成蹊生との交流活動に参加しよう」（ ）	「古代文字を描こう」（ ）	「感謝の言葉を送ろう」（ ）	
選択教科 情報	「パソコンの基本操作を知ろう」（ ）	「情報モラルを知ろう」（ ） 「アンケートを入力しよう」（ ）				「ワープロソフトの使い方を知ろう」（ ）		「年賀状を作成しよう」（ ）	「表計算の使い方を知ろう」（ ）		「プレゼンテーションソフトの使い方を知ろう」（ ）		
選択教科 体育	「ティーボール」（ ）		「タグラグビー」（ ）			「ソフトボール」（ ）		「バスケットボール」（ ）		「選択（フットサル、卓球、ダンス）」（ ）			
総合的な学習の時間	「オリエンテーション」「テーマ設定」「班編成」「活動計画づくり」（ ）		「調べ学習、活動の実践」（ ）			「調べ学習、活動の実践」（ ）		「報告会の準備・練習」「全体報告会」（ ）					31
特別活動（ホームルーム）	HR「新しい学級づくり」	「健康な生活」	「協力と係活動」	「1学期の反省と夏休みの生活」		「衛生と季節に応じた服装」	「太陽祭を成功させよう」	「進路学習」	「2学期の反省と冬休みの生活」	「進路学習」	「卒業生を送る会を成功させよう」	「一年間の反省」	42
	【生徒会活動】「各委員会活動」「学部交歓会」「生徒会総会」「奉仕活動」「生徒会役員選挙」　【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・避難訓練・太陽祭・修学旅行・障害者総合体育大会・特体連スポーツ大会												
道徳	【通年】A　主として自分自身に関すること ◎			B　主として他の人との関わりに関すること ◎			C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**高等部重複A（2年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○健康の維持と体力の向上に努める生徒　○自ら考え生き生きと生活する生徒　○社会の一員として共に生きる生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	入学式・始業式 学部交歓会	避難訓練(1) 障がい者総合体育大会	現場実習	終業式(1)		始業式(1)	太陽祭(1日) 特体連スポーツ大会 修学旅行（4日）	現場実習	終業式(1)	始業式(1) 生徒会役員改選 総合学習報告会	卒業生を送る会	卒業式(1日) 修了式(1)	日／時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「あいさつ・返事」「着替え・身だしなみ」「整理整頓」「係活動」「朝の会・帰りの会」「給食」「清掃」「学校生活のきまり」												347
作業学習 基礎作業班	「リサイクル製品を作ろう」（　）		前期現場実習（ ）	「リサイクル製品を作ろう」（　）		「太陽祭にむけて頑張ろう」（　）		後期現場実習（ ）	「パックンを作ろう　～喜んでもらえる製品を作ろう～」（ ）			「反省会」（ ）	247
生活単元学習	「新しい学級作り」（　） 【通年】「体力の維持増進」「好きなことを増やそう」「制作活動（学級掲示、壁面装飾、作品作り」	「実習に向けて」（ ）	「前期現場実習」（ ）	「校外学習①」（ ）校		「校外学習」（ ）校 「太陽祭を成功させよう」（　）	「修学旅行に行こう」（ ）	「後期現場実習」（ ）	「冬休みの過ごし方」（　）	「合同作品展に向けて製作しよう」（ ）	「卒業生を送る会へ参加しよう」（　）	「卒業式へ参加しよう」（ ）	179
国語	「言葉に親しもう」・身近なものの名前・先生や友達の名前・歌詞・言葉遊び等 【通年】「文字を読もう・書こう」・具体物、写真、絵、文字等の対応・平仮名、片仮名の読み書き・筆記具の扱い等				「お話に親しもう」・絵本・紙芝居等 「書くことに親しもう」・文字や形を書く、なぞる、組み合わせる等					「いろいろな言葉」 ・動きの言葉・気持ちの言葉・二語文等			50
数学	「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等 【通年】「合わせよう」・形合わせ・絵合わせ・パズル等　「数えよう」・数詞、数字、具体物の対応・一対一対応・順序数・集合数等				「かたち」・形合わせ・弁別・分類・形の名前・方向・位置 「大きい・小さい」・有無・大小・多少・長短・重軽					「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等 「ものの分類」・色・形・目的・用途・機能			49
音楽	「一緒に音楽をしよう」（ ） 【通年】「ドレミの歌（リズム体操・身体表現）」「鑑賞　（好きな歌・季節の曲）」	「みんなで合わせて楽しく歌おう」（ ）		「夏の雰囲気を感じて」（ ） ・歌・楽器		「合奏してみんなで演奏しよう」（　） ・自分の好きな楽器に触れたり、鳴らしたりしながら合奏する				「冬の雰囲気を感じて」（ ） ・歌・楽器	「卒業式へむけて」（ ）		66
保健体育	「楽しく体を動かそう」（　） ・ラジオ体操・ダンス 【通年】「ウォーキング」「ランニング」「ラジオ体操」「ダンス」		「ニュースポーツをしよう」（　） ・ボッチャ、輪投げ、ボールリレー			「ダンスをしよう」（　） ・よさこいソーラン節		「ボール運動」（　）		「いろいろな体の動きを続けてやってみよう」（　） ・サーキット運動、正しい歩き方、列を作って歩く練習			68
総合的な学習の時間	「オリエンテーション」（ ）	「交流会の準備をしよう」（ ）		「交流会①」（ ） 「おれの手紙を書こう」（ ）		「交流会の準備をしよう」（ ） 「交流会②」（ ）	「おれの手紙を書こう」（ ）	「報告会の準備をしよう」（ ）		「報告会をしよう」（ ）			29
特別活動（ホームルーム）	HR 【生徒会活動】「各委員会活動」「学部交歓会」「生徒会総会」「奉仕活動」「生徒会役員選挙」　【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・避難訓練・太陽祭・修学旅行・障害者総合体育大会・特体連スポーツ大会	「新しい学級づくり」	「健康な生活」	「協力と係活動」	「1学期の反省と夏休みの生活」	「夏休みの反省と2学期の目標」	「太陽祭を成功させよう」	「衛生と季節に応じた服装」	「2学期の反省と冬休みの生活」	「冬休みの反省と3学期の目標」	「進路について」	「1年のまとめ」	41
道徳	【通年】	A　主として自分自身に関すること ◎		B　主として他の人との関わりに関すること ◎			C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

大笹生支援学校年間指導計画モデルver.2　**高等部重複B（2年）**　【「　」:単元・題材名　（　）:予定時数　校:校外学習】

学部目標	○健康の維持と体力の向上に努める生徒　○自ら考え生き生きと生活する生徒　○社会の一員として共に生きる生徒　＜育みたい資質・能力＞「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」												
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総時数
行事等	入学式・始業式 学部交歓会	避難訓練(1) 障がい者総合体育大会	現場実習	終業式(1)		始業式(1)	太陽祭(1日) 特体連スポーツ大会 修学旅行（4日）	現場実習	終業式(1)	始業式(1) 生徒会役員改選 総合学習報告会	卒業生を送る会	卒業式(1日) 修了式(1)	日／時
日常生活の指導	※以下の内容について、実際の生活の流れに沿って指導する。 【通年】「あいさつ・返事」「着替え・身だしなみ」「整理整頓」「係活動」「朝の会・帰りの会」「給食」「清掃」「学校生活のきまり」												347
作業学習 基礎作業班	「リサイクル製品を作ろう」（　）		前期現場実習（　）	「リサイクル製品を作ろう」（　）		「太陽祭にむけて頑張ろう」（　）		後期現場実習（　）	「パックンを作ろう　～喜んでもらえる製品を作ろう～」（　）			「反省会」（　）	247
生活単元学習	「新しい学級作り」（　） 【通年】「体力の維持増進」「好きなことを増やそう」「制作活動（学級掲示、壁面装飾、作品作り」	「実習に向けて」（　）	「前期現場実習」（　）	「校外学習」（　）校		「校外学習」（　）校 「太陽祭を成功させよう」（　）	「修学旅行に行こう」（　）	「後期現場実習」（　）	「冬休みの過ごし方」（　）	「合同作品展に向けて製作しよう」（　）	「卒業生を送る会へ参加しよう」（　）	「卒業式へ参加しよう」（　）	179
国語	「言葉に親しもう」・身近なものの名前・先生や友達の名前・歌詞・言葉遊び等 【通年】「文字を読もう・書こう」・具体物、写真、絵、文字等の対応・平仮名、片仮名の読み書き・筆記具の扱い等				「お話に親しもう」・絵本・紙芝居等 「書くことに親しもう」・文字や形を書く、なぞる、組み合わせる等					「いろいろな言葉」 ・動きの言葉・気持ちの言葉・二語文等			50
数学	「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等 【通年】「合わせよう」・形合わせ・絵合わせ・パズル等　「数えよう」・数詞、数字、具体物の対応・一対一対応・順序数・集合数等				「かたち」・形合わせ・弁別・分類・形の名前・方向・位置 「大きい・小さい」・有無・大小・多少・長短・重軽					「数に親しもう」・数を使ったゲームや活動等 「ものの分類」・色・形・目的・用途・機能			49
音楽	「一緒に音楽をしよう」（　） 【通年】「ドレミの歌（リズム体操・身体表現）」「鑑賞　（好きな歌・季節の曲）」	「みんなで合わせて楽しく歌おう」（　）		「夏の雰囲気を感じて」（　） ・歌・楽器		「合奏してみんなで演奏しよう」（　） ・自分の好きな楽器に触れたり、鳴らしたりしながら合奏する				「冬の雰囲気を感じて」（　） ・歌・楽器	「卒業式へむけて」（　）		66
保健体育	「楽しく体を動かそう」（　） ・ラジオ体操・ダンス 【通年】「ウォーキング」「ランニング」「ラジオ体操」「ダンス」		「ニュースポーツをしよう」（　） ・ボッチャ、輪投げ、ボールリレー			「ダンスをしよう」（　） ・よさこいソーラン節		「ボール運動」（　）		「いろいろな体の動きを続けてやってみよう」（　） ・サーキット運動、正しい歩き方、列を作って歩く練習			68
自立活動（時間の指導）	【からだの時間】「体の部位のリラクゼーション」「姿勢の保持、変換」「粗大運動」「歩行、歩行器、車いす等での移動」 【水治訓練】「リラクゼーション」「アライメントを整える」「呼吸のコントロール」「全身運動」												65
総合的な学習の時間	「オリエンテーション」（　）	「交流会の準備をしよう」（　）		「交流会①」（　） 「お礼の手紙を書こう」（　）		「交流会の準備をしよう」（　） 「交流会②」（　）	「お礼の手紙を書こう」（　）	「報告会の準備をしよう」（　）		「報告会をしよう」（　）			29
特別活動（ホームルーム）	HR「新しい学級づくり」 【生徒会活動】「各委員会活動」「学部交歓会」「生徒会総会」「奉仕活動」「生徒会役員選挙」　【学校行事】・入学式・始業式・終業式・卒業式・修了式・避難訓練・太陽祭・修学旅行・障害者総合体育大会・特体連スポーツ大会	「健康な生活」	「協力と係活動」	「1学期の反省と夏休みの生活」		「夏休みの反省と2学期の目標」	「太陽祭を成功させよう」	「衛生と季節に応じた服装」	「2学期の反省と冬休みの生活」	「冬休みの反省と3学期の目標」	「進路について」	「1年のまとめ」	41
道徳	【通年】A　主として自分自身に関すること ◎		B　主として他の人との関わりに関すること ◎				C　主として集団や社会との関わりに関すること ◎			D　主として自然や崇高な物との関わりに関すること ◎			
自立活動	※個別の指導計画において個別に指導内容を設定し、教育活動全体を通じて指導する。												

第５節

「学びの過程」を踏まえた授業実践

１「学びの過程」の視点

２「学びの過程」を踏まえた授業実践の取組

グループ研究

　学習指導案と研究協議の記録

第５節「学びの過程」を踏まえた授業実践

本節では、「どのように学ぶか」に焦点を当て、「学びの過程」の視点とそれを踏まえた授業実践についてまとめる。

１「学びの過程」の視点

（１）「学び」の質を高める

本研究においては、「学び」について「活動を通して、個人の内面の変化を生むこと」と定義し、内面の変化が生まれるまでのプロセスや流れを「学びの過程」であると定義している。

＜本研究における定義＞
「学び」…活動を通して、個人の内面の変化を生むこと
「学びの過程」…学びにおいて、個人の内面の変化を生むまでの道筋（プロセス）や流れ、そのつながり
＜引用＞平成 29 年度福島県立大笹生支援学校研究集録より

これは、本校の平成２８年度校内研究の成果と課題から、児童生徒の「学びの過程」に着目し、その質を高めるような授業づくり・授業改善を行っていくことが学びの質を高めると考え、定義したものである。

平成２８年１２月２１日中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」においても、次のような提言がなされ、児童生徒の「学びの過程」「学びの質」に視点を当てた授業改善の活性化が求められることが示された。

〇学びの成果として、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を身に付けていくためには、学びの過程において子供たちが、主体的に学ぶことの意味と自分の人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりしていることが重要である。また、単に知識を記憶する学びにとどまらず、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりも重要になる。
〇子供たちは、このように、主体的に、対話的に、深く学んでいくことによって、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解したり、未来を切り拓ひらくために必要な資質・能力を身に付けたり、生涯にわたって能動的に学び続けたりすることができる。また、それぞれの興味や関心を基に、自分の個性に応じた学びを実現していくことができる。
〇こうした学びの質に着目して、授業改善の取組を活性化しようというのが、今回の改訂が目指すところである。・・・（後略）
＜引用＞平成２８年１２月２１日中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」P37～38　下線部は筆者

上記のように資質・能力を育むためには、「学びの過程」において、主体的に、対話的に、深く学んでいくような「学びの質」に着目して授業改善の取組を進める必要がある。本研究では、本校のこれまでの取組を継続しながら、「学びの過程」を捉え、「学びの質」を高めることにアプローチする授業研究を進めることとした。

（２）主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

学習指導要領には、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」について次のように示された。

第４節　教育課程の実施と学習評価

１　主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

各教科等の指導に当たっては，次の事項に配慮するものとする。

(1) 第２節の３の (1) から (3) までに示すことが偏りなく実現されるよう，単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら，児童又は生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に，各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり，思考力，判断力，表現力等や学びに向かう力，人間性等を発揮させたりして，学習の対象となる物事を捉え思考することにより，各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことに留意し，児童又は生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること。

＜引用＞文部科学省「平成２９年４月告示幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領」P69

第２節の３の（１）から（３）までとは、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力三つの柱のことを指している。上記には、「主体的・対話的で深い学び」が、育成を目指す資質・能力を偏りなく実現するための視点であることが示されている。

解説では、「主体的・対話的で深い学び」は、次のような視点であると説明されている。

① 学ぶことに興味や関心をもち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。

② 子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

＜引用＞文部科学省「平成 30 年 3 月特別支援学校教育要領・学習指導要領解説（総則編）」P251-252

本研究においては、「学びの過程」を捉えて、その質を高めることを主眼に置いているが、「主体的・対話的で深い学び」は、その在り方をより具体的に方向付けるものであると考える。そのため、これまでの本校での取組を基盤としながらも、「主体的・対話的で深い学び」との関連を明確にしながら実践を通して深めていくことが重要であると考える。

２「学びの過程」を踏まえた授業実践の取組

（１）１年次（Ｈ２９）の取組

１年次は、これまでの校内研究による研究成果を基盤としながら、平成２９年度に実施した研究授業の協議を踏まえて「学びの過程」をモデル図として可視化した。

図１は、「学びの過程」と授業実践・授業改善の関係を整理したものである。「学び」の主体はあくまでも児童生徒（図では子供）であり、授業実践・授業改善の主語は教師であることから、二つを意図的に分けて整理している。児童生徒が、物事に対して「興味・関心、思い、問い、目的意識など」を持って取り組み、「考え」「行動する」、そしてその活動を「振り返り、受け止め、達成感や満足感を味わったり、自信をつけたりする」、そしてそれがさらなる「興味や思い、問い」につながる「経験の積み重ね」をする。教師は、その実現を果たしつつ資質・能力が確実に育成されるように「活動内容を設定」し、「活動の流れや展開」「状況設定」等を工夫し、状況に応じた「読み取りと働きかけ」をしていく。そしてその基盤となるのが「安心できる関係や環境」である。

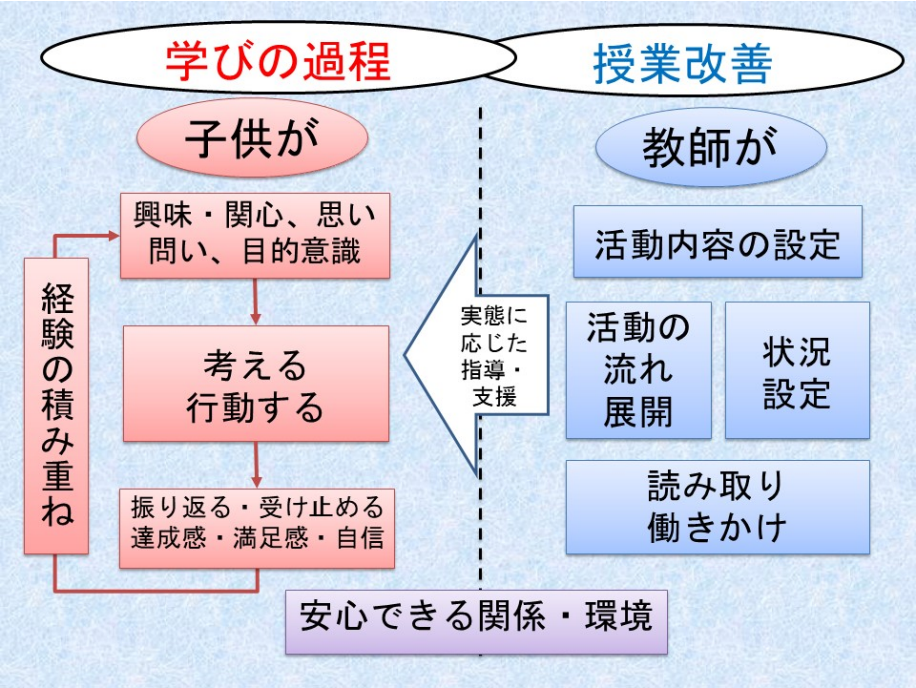


図１　学びの過程と授業改善のモデル図（Ｈ２９）

このような考えのもと、授業実践において、教師側の一方的な授業の提供に陥ることなく、児童生徒の「学びの過程」を踏まえつつ、実態に応じた指導・支援を工夫していくことを目指し、研究グループごとに具体的な授業実践と研究協議を進めてきた。１年次は特に、生活単元学習や作業学習、自立活動など、学校生活の中心となる学習に絞り、各教育課程グループで研究授業を行った。

１年次の課題としては、生活単元学習や作業学習以外の国語、算数、音楽、体育等の教科別の指導を中心に取り扱うことや、「主体的・対話的で深い学び」の視点から具体的な授業改善が図られるよう、研究協議の方法等を工夫することが挙げられた。

（２）２年次（Ｈ３０）の取組

上記の課題を受け、２年次の取組としては、①教科別の指導を中心とした授業実践と研究協議、②「主体的・対話的で深い学び」との関連の明確化を図ることの２点に取り組んだ。

①教科別の指導を中心とした授業実践と研究協議

１年次（Ｈ２９年度）と同様に、各教育課程の類型ごとの研究グループを編成し、授業づくりの検討を行う事前研究会、研究授業の実践、授業の評価と改善を行う事後研究会を進めた。原則として各グループ２事例ずつ取り組むようにした。実際の授業と研究協議については本節の後半に掲載した「学習指導案と研究協議」を参照する。

②「主体的・対話的で深い学び」との関連の明確化を図ること

ア)「主体的・対話的で深い学びを実現するための手立て」の設定

各研究グループの事前及び事後研究会において、「主体的・対話的で深い学びを実現するための手立て」を設定し、具体的な事例を通して検討するようにした。事前研究会では、授業づくりの際に「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれについて、具体的な手立てを検討するようにし、事後研究会においては、その具体的な手立ての効果について評価を行うようにした。

また、グループ研究のまとめにおいて、それぞれの授業実践の事例から「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けて大切だと考えるものを挙げるようにし、研修部で集約した。実際に集約した資料については本節の後半に掲載した「グループ研究のまとめ」を参照する。

イ）学びの過程と授業改善のモデル図の改訂

「主体的・対話的で深い学び」との関連の明確化を図るため、１年次（Ｈ２９年度）に作成した「学びの過程と授業改善のモデル図（Ｈ２９）」（図１）を基に、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれの位置付けを記した「学びの過程と授業改善のモデル図（Ｈ３０）」（図２）を作成した。

「主体的な学び」は、「学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」過程であることから、「興味・関心等」から「考え・行動する」、「振り返る・受け止める等」の一連のプロセスに位置付けた。

「対話的な学び」は、「子供同士の協働，教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」過程であることから、対話や協働による「興味・関心」や「問い」の広がり、「考え・行動」の広がり、「振り返り・受け止め等」の広がりがそれぞれ考えられることから、プロセスではなく、それぞれの場面に位置付けた。

「深い学び」は、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう」過程であることから、主体的・対話的な学びを経る中で、見方・考え方を働かせ、習得・活用・探究と拡充していくものであると考え、「経験の積み重ね」のプロセス

の中に位置付けた。

ここで示した「学びの過程」は、一連のプロセスが分かるように示しているが、一単位時間の授業のみを示すものではない。一連のプロセスを繰り返しながら、単元のまとまりを通して、「興味・関心」や「問い」を膨らませる場面があったり、じっくりと「考え・行動する」場面があったり、「振り返る・受け止める」場面があったりするものであると考える。さらに、既習事項が各教科間や学年間などにまたがって、長い期間をかけてつながったりする場合もあると考える。

以上のように、「主体的・対話的で深い学び」について可視化することは、実践する教師がおおよそのイメージを持ち、その実現のための手立てを工夫することに役立つのではないかと考える。

一方で、「主体的・対話的で深い学び」についての具体的なイメージと手立てについては、児童生徒の実態や授業内容によって変わることが考えられ、具体的な授業実践の積み重ねによる検証が必要であると考える。そのため、今後も授業実践と研究協議による具体的な授業改善の取組を丁寧に積み重ねていくことが課題であると考える。

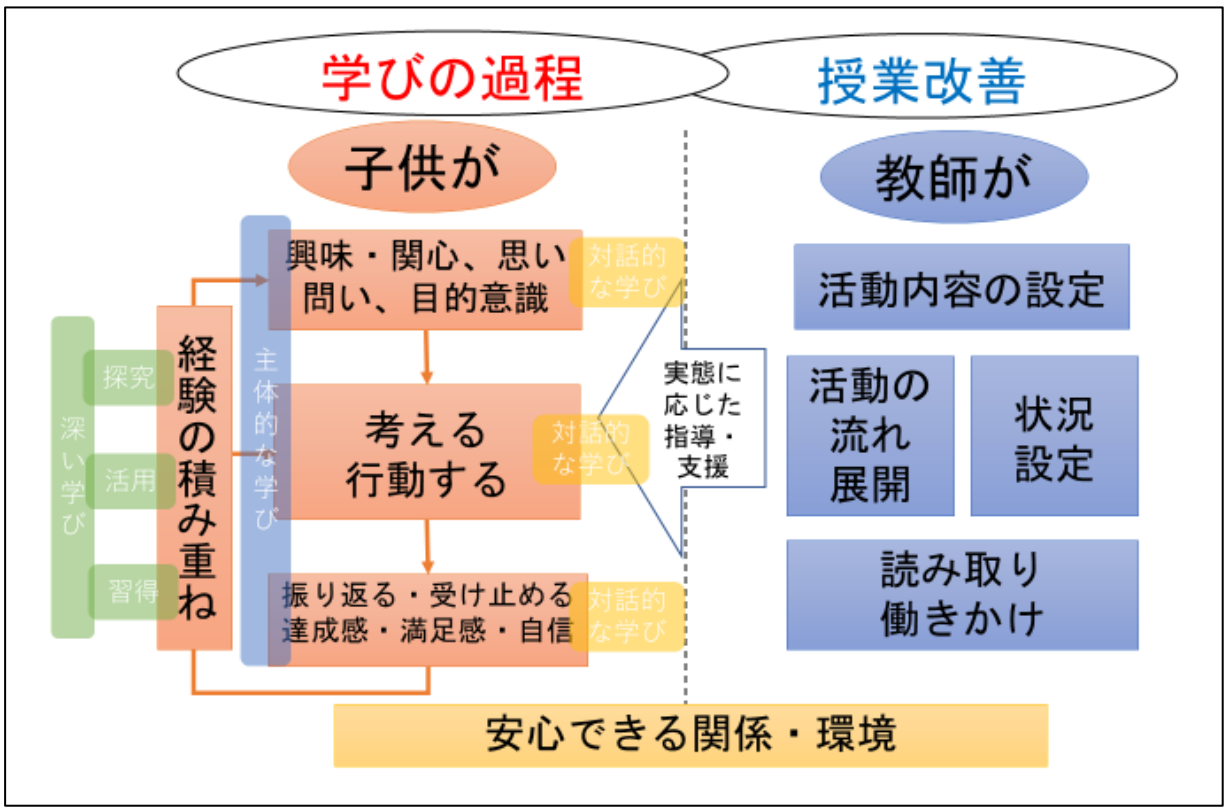


図２　学びの過程と授業改善のモデル図（Ｈ３０）

グループ研究
学習指導案と研究協議の記録

（全２５事例中サンプル４事例を掲載）

【小学部類型Ｉグループ】

小学部４年１組　国語科　学習指導案

日　時：平成３０年１１月１６日
指導者：八巻茉以

１　単元（題材）名　「様子思い浮かべよう～サラダでげんき～」

２　単元（題材）の概要とねらい＜教材観＞

本単元は、「サラダでげんき」を読み、内容を読み取ったりペープサート劇をしたりすることを通して、登場人物の行動の様子や場面の様子を想像することなど、読むことに関する資質・能力を育む単元である。「サラダでげんき」は、病気のお母さんを元気にするために、サラダを作ろうとする主人公りっちゃんの前に、動物たちが次々に登場し、サラダ作りに協力してくれるという話である。自分のお母さんが病気になったらどうするかと自分に置き換えて考えられることで、りっちゃんの行動に興味をもって教材文を読み進めることができると考える。教材文には動物が登場する様子、サラダに入れる材料、材料を入れる理由が書かれており、同じようなやりとりが繰り返し行われるため、話の展開を捉えやすい。動物の登場場面では、「のっそり」、「とびこんで」など動物によって登場の様子が異なっている。また、動物がサラダに入れる材料や材料を入れる理由には、それぞれの動物の特徴が表れている。それらのことを読み取っていくことで、場面の様子を想像する力を育むことができると考え、この単元を設定した。

＜学習指導要領における段階と内容＞
小学部国語科３段階【知識及び技能】
ア(ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。
小学部国語科３段階【思考力、判断力、表現力】Ｃ読むこと
ア　絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。
エ　登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。

３　単元の目標

（1）「サラダでげんき」に出てくる言葉の意味や働きに気付くことができる。
（2）「サラダでげんき」を読み、登場人物の行動や場面の様子を想像することができる。
（3）　登場人物になったつもりで、音読したりペープサート劇を演じたりすることができる。

４　単元の計画（総時数１４時間）

主な学習活動・内容	時数	指導のねらい
1　「サラダでげんき」の読み聞かせを聞く。 （1）りっちゃんがどんなことを考えていたのかを捉える。 （2）登場人物を答える。	1	○「サラダでげんき」の読み聞かせを聞き、挿絵を手掛かりに登場人物や登場する順番を知ることができる。
2　りっちゃんがお母さんのためにサラダを作ることにする場面を読み取る。 （1）りっちゃんがお母さんのためにしようとしたことを考える。 （2）りっちゃんが初めにサラダに入れた材料や材料を入れた時の様子を考える。 （3）サラダレシピを書く。	2	○サラダを作る場面に出てくる言葉の意味や働きに気付くことができる。 ○登場人物りっちゃんの行動や場面の様子を想像することができる。
3　動物が登場する場面を読み、誰が何を教えてくれたかを読み取る。 （1）登場した動物、材料、入れる理由を答える。 （2）ペープサートで確認する。 （3）サラダレシピを書く。	7	○場面に出てくる言葉の意味や働きに気付くことができる。 ○登場人物の行動や場面の様子を想像することができる。
4　サラダが出来上がった場面を読み取る。 （1）サラダを食べたあとのりっちゃんとお母さんの表情とサラダを作る前の表情と比較する。 （2）サラダを食べたりっちゃんとお母さんの表情を手掛かりに気持ちを想像する。	1	○サラダができあがった場面に出てくる言葉の意味や働きに気付くことができる。 ○登場時人物の行動や気持ちを想像することができる。
5　ペープサート劇に取り組む。 （1）役割ややりたい場面を相談して決める。 （2）登場人物の行動を想像しながらペープサート劇をする。 （3）ビデオを見て振り返り、よかったところを伝え合う。	3	○登場人物になったつもりで、音読したりペープサート劇を演じたりすることができる。

５　本時の目標（７／１４時間）

（1）場面に出てくる言葉の意味や働きに気付くことができる。
（2）登場人物の行動や場面の様子を想像することができる。

６　本時の学習過程

過程	学習活動・内容	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 10 分	1．始めのあいさつをする。 2．前時の学習を振り返る。 （1）登場した動物。 （2）サラダに入れた材料。 （3）サラダに入れる理由。 3．本時の学習内容を知る。 だれがどんなことを　おしえてくれたかをかんがえよう	○掲示してある前時の資料やサラダを確認しながら、前時までの学習を振り返ることができるようにする。 ○サラダは完成したのか、まだ誰かが登場するのかを問いかけることで話の展開に興味をもって読むことができるようにする。 ○本文「ぼく、ぼくですよ。」までを読むことで、今回も誰かが登場することを想像できるようにし、めあてを提示する。	掲示用教材文 めあてカード
展開 25 分	4．ありの登場場面について読み取る。 （1）ありの場面を最後まで読む。 （2）誰が出てきたのかを答える。 （3）ありが教えてくれた材料を答える。 （4）ありが砂糖をすすめた理由を答える。	○誰が登場したかを問いかける。本文のどこに書かれているかを確認し、四角で囲む。 ○挿絵にも注目させることで、ありが登場したことが理解できるようにする。 ○「ずらりと」の意味を捉えることができるようペープサートを提示し、たくさんのありが登場したことを理解できるようにする。 ○ありが教えてくれた材料は何かを問い掛ける。本文のどこに書かれているかを確認し、四角で囲む。実物の砂糖を提示することで材料をイメージできるようにする。 ○ありが砂糖を勧めた理由を考えるように発問し、考えることができるようにする。その際、児童の多様な発想を認めるようにする。 ○想像することに抵抗があったり、難しかったりするときには、「どうしてかというと」という言葉に着目させることで、その後に理由がくることを確認し、「いつもはたらきものになるから。」という砂糖を勧めた理由を読み取ること	ペープサート（あり） 砂糖

	（5）ありが教えてくれたことを聞いた後のりっちゃんの行動を想像する。 （6）砂糖をサラダに入れる。 5．ありの場面で読み取ったことをペープサートで確認する。	ができるようにする。 ○「はたらきもの」の意味を考えられるよう、ありがえさを運んでいる写真を提示したり、以前読み聞かせをした「ありときりぎりす」の話を思い出させたりする。 ○りっちゃんの行動を想像することが難しい時には、「じゃ、ちょっとだけ。」という台詞に着目させ、砂糖を入れたかを考えることができるようにする。 ○サラダに砂糖を入れるようにする。「ちょっとだけ。」という台詞を確認したり、選択肢を設けたりすることで、少しだけ砂糖を入れることができるようにする。 ○ペープサートを操作したい児童を募り、りっちゃん役とあり役に分かれてペープサートを操作するようにする。 ○登場人物の行動や場面の様子を想像しながら動かすことができていたところを称賛する。	ありの写真カード 絵本 サラダに入れる砂糖 ペープサート ホワイトボード
終末 10分	6 学習のまとめをする。 （1）だれがどんなことを教えてくれたかを答える。 （2）サラダレシピをまとめる。 6　次時の予告をする。 7　終わりのあいさつをする。	○めあてを振り返り、だれがどんなことをしてくれたかを尋ね、児童の言葉をまとめとする。 ○書くことに抵抗がある児童には、誰が出てきたか、何を教えてくれたかを質問し、答えたことを教師がレシピに書くようにする。 ○サラダは完成したのか、まだ動物が登場するのかを問いかけることで、次時の話の展開に興味をもつことができるようにする。	サラダレシピ

ペープサートで演じる場面

グループ名	小学部類型Ⅰグループ	記録日	平成３０年　１１月　１６日
対象学級	小学部４年１組	指導者	八巻茉以
単元（題材）名	国語科「様子を思い浮かべよう～サラダでげんき～」		

「育みたい資質・能力」についての協議

事前研「育みたい資質・能力」を学習指導要領より記入	事後研単元（題材）を通じて児童生徒の学びの様子を記入
小学部国語科３段階 【知識及び技能】 ア（ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付く。 【思考力、判断力、表現力等】 C読むこと ア　絵本や易しい読み物などを読み、挿絵と結び付けて登場人物の行動や場面の様子などを想像すること。 エ　登場人物になったつもりで、音読したり演じたりすること。	事後研までの学習評価 【知識・技能】 ・「のっそり」「とびこんで」などの言葉を動作化して表現することで、言葉の表している意味に気付くことができた。 【思考力・判断力・表現力】 ・挿絵を手掛かりとすることで、登場人物を理解することができたが、児童によっては動物が教えてくれた材料や理由を読み取ることが難しい様子が見られた。 ・主人公の行動を想像して、野菜を切ってサラダに入れたり、動物の登場の様子を想像してペープサートを動かしたりすることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・読むことに抵抗があったり、教師の発問や教材文の内容が理解できなかったりすることで、進んで学習に取り組むことができないことがあった。 ・ペープサートの操作は意欲的に取り組むことが多かった。

「主体的・対話的で深い学び」についての協議

事前研主体的・対話的で深い学びを引き出すための手立て	事後研教師の手立てを評価する（○成果●課題）
＜主体的な学び＞ ・教材文は一時間の授業で一場面ずつ読み進めるようにすることで、話の展開に関心をもてるようにする。 ・ペープサートを操作する活動を取り入れる。 ＜対話的な学び＞ ・考えたことを伝え合う場を設定し、児童の考えを他の児童にもつなげる。 ・分かりやすく発問することで、自分の考えを伝えることができるようにする。 ＜深い学び＞ ・ペープサートの活用や動作化によって、言葉の意味や働きの理解につなげる。 ・教材文を読み取ることができるよう、理解しにくい言葉を省いたり、理由が書かれている部分は「どうしてかいうと○○から。」と統一して示したりする。 ・児童の想像を深めることができるよう、具体的に発問したり、めあての提示の仕方を工夫したりする。	＜主体的な学び＞ ○一場面ずつ読み進めていくことで、サラダは完成したのか考えながら読み進めることができた。また、本時の授業では、本文の途中まで提示したことで誰が出てきたかを想像することができていた。 ●ペープサートの活動に関心をもっていたが、集中が続かない児童の姿が見られたため、視覚的教材の活用や活動内容の精選、活動の順番を考える必要があった。 ＜対話的な学び＞ ○友達の考えを聞くことで、考えが深まる場面が見られた。 ●発問の意味が分からない、友達の発言を待つことが難しいなどの姿が見られたため、発問や答えを視覚化したり、発問を精選したりするとよかった。 ＜深い学び＞ ○ペープサートを動かす活動は、言葉の意味を理解し表現する手段として有効だった。 ○発問の文言やめあての提示の仕方を具体的に考えた提示できたことで、児童が想像したり、疑問に感じて考えようとしたりする姿につながった。 ●児童が想像できていたのかを読み取ることが難しかったため、学びの姿を明確にする必要があった。

【中学部類型Ｉグループ】

中学部　保健体育科　学習指導案

日　時：平成３０年１０月２６日
指導者：菊田　源（T1）栗田律子（T2）
星　純恵（T3）矢吹典子（T4）
富村祥子（T5）三浦瑞姫（T6）
白土浩二（T7）

１　単元（題材）名　「ティーボール」

２　単元（題材）の概要とねらい＜教材観＞

ティーボールは、ベースボール型のゲームであり、攻守を規則的に交代し合い、一定の回数内で相手より多くの得点を取ることを競い合うスポーツである。攻撃と守備にはっきりと分かれており、プレーが連続せずに区切られることが多いため、自分の動きを整理してからプレーしたり、プレーの後すぐに「アウト」「セーフ」の結果を確認したりすることができる。攻撃では、止まっているボールを打つため、攻撃の機会を一人一人に保証することができ、人のいないところを狙って打つ、遠くへ打つ、バットをボールに当てるなど、どの生徒もボールをバットで打つという達成感を味わうことができる。守備では、ボールの飛ぶ方向へ移動して捕球したり、捕球したボールを正確に投げたりといった個人技能だけではなく、相手に応じて守備を工夫したり、仲間と声を掛け合ったり、役割に応じた動きをしたりするなど、判断力や友達と協力して行う力を高めていくことができる。生徒に応じて簡易ルールを設定していくことで、攻撃・守備において能力差が大きくても、一人一人がプレーを楽しむことができるのではないかと考える。

＜学習指導要領における段階と内容＞

中学部保健体育１段階【E 球技】

ア　球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な技能や動きを身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。

イ　球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。

ウ　球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、楽しく運動すること。

３　単元（題材）目標

（１）ティーボールの行い方やルールを知り、打つ、捕る、投げる動きを身に付け、簡単なゲームをすることができる。

（２）バットの持ち方や打ち方、打順、守備の仕方などを考えたり、相手に応じて守備位置を工夫したりすることができる。

（３）ルールを守り、友達と協力して楽しんで練習やゲームができる。

４　単元（題材）の計画（総時数１２時間）

主な学習活動・内容	時　数	指導のねらい
１．ティーボールを知る。 （１）バットやティーなどの用具を確認する。 （２）バッティング練習をする。	1	○ティーボールを知り、期待感をもつことができる。 ○学年ごとに分かれて、実際にボールを打ち、楽しさを味わう。
２．攻撃のルールを知る。 （１）バッティング練習をする。 （２）捕球の練習をする。 （３）アウトとセーフについて知る。	2 （本時）	○遠くまでボールを打つことができる。 ○転がったり飛んできたりするボールに対して、ボールの正面に移動して捕球することができる。 ○アウトとセーフの理解ができる。
３．基本動作を身に付ける。 （１）捕球と送球の練習をする。 （２）バッティング練習をする。 （３）簡易ゲームをする。	6	○転がったり、飛んできたりするボールの正面に移動してボールを捕球し、ファーストベースへ送球ができる。 ○守備の間を狙ったり、遠くへ飛ばしたりするために、立つ位置を変えてボールを打つことができる。 ○状況を確認して走塁ができる。 ○友達と楽しんで簡易ゲームができる。
４．作戦を立てて、三角ベースゲームをする。 （１）チームで練習をする。 （２）打順や守備位置を決める。 （３）三角ベースでゲームをする。	3	○チームで攻撃の打順や守備位置などを考えることができる。 ○作戦に基づいて、位置取りやボール、バットを操作することができる。 ○協力してゲームができる。

５　本時の目標（２／１２時間）

（１）バットの持ちかたや打ち方がわかり、遠くまでボールを打つことができる。

（２）転がったり飛んできたりするボールに対して、ボールの正面に入り捕球することができる。

（３）友達と協力して、楽しみながら練習に取り組むことができる。

６　本時の学習過程

過程	学習活動・内容	指導及び支援上の留意点	準備物等
導入 １５分	１．はじめのあいさつをする ２．本時の活動内容を知る。 ○本時の活動やねらいをホワイトボードの掲示で確認する。 ３．準備運動をする。 ４．運動身体つくりプログラムをする。	○活動について前時の内容を問いかけて振り返ることで本時の授業に対する意識を高める。 ○運動身体づくりプログラムを、生徒の実態に応じて行う。 ○動きの確認をした時に、理解できにくい時にはT1が示範を示す。 ○理解の難しい生徒や途中で止まってしまう生徒へは個別に対応する。（T2～T7）	ビブス 三角コーン

展開 ３０分	５．バッティング練習の説明を聞く。 ○練習時の約束を確認する。 ○バットの持ち方、打ち方の確認をする。 ○ボールの打ち方を確認する。 ６．バッティングの練習をする。 （１）２か所に分かれて練習をする。 （２）２か所に分かれて守備をする。	○興味・関心がもてるように、ICT 機器を用いて、クイズ形式で理解度を確認する。 ○生徒の理解度に応じて、個別や全体へ質問を投げかけたり、教えたりする。 ○打つポイントをよりわかりやすく理解できるように、映像を使って説明をする。 ○前にボールが飛ばないときには、バットを短くする、最後までボールを見るなどアドバイスをする。 ○前にボールが飛ぶまで打席に入っていることができる。 ○前に飛ばない場合は、ハーフスイングで打つように促す。 ○バッティング練習で生徒に、つまずきが多く見られる時には、再度、映像を確認して練習するようにする。 ○安全のため守備の生徒がセーフティーラインよりも前に出ないように促す。 ○バッターが打つタイミングで言葉掛けし、集中できるようにする。 ○守備は教師も一緒に入って、捕球したらホームへ投げるように促す。	テレビ タブレット ○×カード バット ボール ティー
終末 ５分	７．本時のまとめ ８．終わりのあいさつをする。 （１）終わりのあいさつをする。 （２）片付けをする。	○遠くまで打てた生徒や捕球できた生徒に、どのようにして打てたり、捕球できたりできたのかを問い掛け、参考にするとともに、次時の活動へ意欲や楽しみがもてるようにする。	

バッティング練習

グループ名	中学部通常グループ	**記録日**	平成３０年　１０月　２６日
対象学級	中学部１，２，３年	**指導者**	菊田　源　他６名
単元（題材）名	保健体育科「ティーボール」		

「育みたい資質・能力」についての協議

事前研「育みたい資質・能力」を学習指導要領より記入	事後研単元（題材）を通じての児童生徒の学び様子を記入
中学部保健体育１段階【E 球技】 【知識及び技能】 ア球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な技能や動きを身に付け、簡易化されたゲームを行うこと。 【思考力、判断力、表現力等】 イ球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること。 【学びに向かう力、人間性等】 ウ球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、楽しく運動すること。	事後研までの学習評価 【知識・技能】 ・基本的なボール操作では、前方にボールを打ったり強くボールを打ったりすることができている。ボールを持たない動きでは、転がってくるボールの正面に動くことはできる生徒はいるが、飛んでくるボールの落下点に動くことは難しい。 【思考力・判断力・表現力】 ・ボールを打つために、バットを平行にして打つことを理解して、バットの軌道を自分で確認してから打つことができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・技能の練習において、個々に見合った技能の習得を目指して、楽しみながら運動することができている生徒が多い。

「主体的・対話的で深い学び」についての協議

事前研主体的・対話的で深い学びを引き出すための手立て	事後研教師の手立てを評価する（○成果●課題）
＜主体的な学び＞ ○ティーボールが楽しいと感じて取り組むことができるように、バッティング練習を中心に授業を展開する。 ○バットの持ち方やバッティングの仕方がわかるように映像を用いてわかりやすく、ポイントを伝える。 ＜対話的な学び＞ ○映像を見て教師と対話をしながら、へその向きやボールを見るなどの、バッティングのポイント等について確認をする。 ○順番を待つ時間に生徒同士で打ち方を考えたり、工夫したりできるように、強い打球や遠くまで打つことができる生徒を、ポイントを絞って称賛する。 ＜深い学び＞ ○運動の楽しさや喜びを経験したり、友達とのかかわりや集団でのゲームを経験したりすることで、自ら継続して運動に取り組む意欲を高める。	＜主体的な学び＞ ○映像を使用しての説明があったため、１年生や理解しにくい生徒にはイメージがつきやすく、活動が理解しやすかった。 ●映像をどのように使うのか、考えていく必要あり。（比較、確認など） ○打ちたい、やりたいだけではなく、遠くへ飛ばしたいという思いもあり、打ち方を自分で考えている。 ●遠くへ打てる生徒だけではないため、生徒が主体的に取り組んでいけるために､T1 だけではなく生徒に応じた称賛の仕方を考えていく。 ＜対話的な学び＞ ○上手になりたいという意欲が高く、自ら教師へ質問するようになった。 ＜深い学び＞ ●グルーピングを考え、経験のある３年生と一緒に活動することで、生徒同士で学べることもあるのではないか。

【中学部類型Ⅱグループ】

中学部１年２組　国語科　学習指導案

日　時：平成３０年１０月１１日
指導者：佐川　裕美

１　単元（題材）名　「うごきをあらわすことば-かくにんしよう-」

２　単元（題材）の概要とねらい＜教材観＞

本題材は、「動きを表す言葉」を題材に、言葉の意味を確認し、日常生活で使える言葉を広げることを目的とした学習を行う。Ａは知っている言葉や話を聞くとそれに応じて体験したことを五十音表を指差して２～３語文で伝えることができるなどの語彙力がある。ただし、すべての言葉の意味を正確に理解できているかの確認が必要である。また、言葉を広げていくことは「自身の行動を振り返る力」の向上に繋がると考えられ、衝動的な行動をとってしまいがちである本生徒にとって必要なことであると考える。また、Ｂは言葉の意味が分からず会話が成立しなかったり、オウム返しになってしまったりする時がある。予定や活動に見通しを持てないと不安感を抱きやすく、心配事や気になることがあると２～３語文で教師に確認しようとする生徒である。言葉を広げていくことは本生徒の「心理的な安定」にも繋がることが考えられ、本生徒にとっても必要な題材であると考える。また本生徒達は、学校生活や社会生活の中で、簡単な指示を聞いて行動する力も必要となっている。本題材を通して「動きを表す言葉」を学び、言葉を広げていくことは、この点においても必要であると考える。

＜学習指導要領における段階と内容＞

小学部国語科２段階【知識及び技能】
　ア（イ）日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。
　　（ウ）身近な人との会話を通して、物の名前や動作など、いろいろな言葉の種類に触れること。
小学部国語科２段階【思考力、判断力、表現力等】
Ａ 聞くこと・話すこと
　ア 身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。
　ウ 体験したことなどについて、伝えたいことを考えること。
Ｃ 読むこと
　ア 教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。

３　単元（題材）の目標

（１）イラストを見て何をしている様子なのかが分かり、動作や言葉で答えることができる。
（２）動きを表す言葉（平仮名）を読んだり聞いたりして意味が分かり、動きや言葉で答えたり、イラストを選んで答えたりすることができる。

４　題材の計画（総時数１３時間）

主な学習活動・内容	時数	指導のねらい
１.「何をしているかな」 （１）イラストカードを見て、動きで表す。 （２）イラストの様子と動詞を正しく組み合わせる。 〈使う言葉の例〉 たつ、すわる、あるく、はしる、たべる、のむ、おこる、わらう、なく　など	本時 ６/１３	○イラストを見て何をしている様子なのかが分かり、動作や言葉など自分なりの方法で答えることができる。
２．「ことばと絵をあわせよう」 ○動詞の書かれた言葉カード（平仮名）を読んで、２～３枚のイラストカードの中から正しい組み合わせを選ぶ。		○動きを表す言葉（平仮名）を読んだり聞いたりして意味が分かり、動きや言葉で答えたり、イラストを選んで答えたりすることができる。
３．「プリントでかくにんしよう」 （１）学習内容を確認するプリントを各自進める。 （２）プリントの内容が合っているのかを教師と一緒に確認する。		○１と２で学習した「言葉」と「イラスト」正しくが結びついているのかどうかを再確認する。 ○プリントで答えた内容が当たっているのか自分で確認できる。

５　本時の目標（６／１３時間）

（１）イラストの表す動作の言葉が分かり、自分なりの方法で答えることができる。
（２）言葉カードとイラストカードを正しく組み合わせることができる。

６　本時の学習過程

過程	学習活動・内容	指導及び支援上の留意点	準備物等
導入 ５分	１．始めのあいさつをする。 ２．本時の活動内容を知る。	○国語の学習を始めることを伝える。 ○本時の学習内容をホワイトボードに提示する。	・ホワイトボード ・学習内容カード
展開① １５分	３．「何をしているかな」 （１）イラストカードを見て、動きで表す。 （２）イラストの様子と動詞を正しく組み合わせる。 ※時間と生徒の集中状況を見て、３～５問程度出題する。	○「分かった人？」や「答えたい人？」などと発問し、生徒からの自発的な答えを引き出すようにする。 ○答えていない方の生徒には、合っていたのかどうかを尋ね、一緒に判断する。 ○イラストに描かれた動作も引き出し、言葉の意味を正しく理解できるように促す。 ○正解した際は賞賛し、学習への意欲と集中力が続くようにする。	・イラストカード ・言葉カード

展開② １５分	４．「ことばと絵をあわせよう」 ○動詞の書かれた言葉カード（平仮名）を読んで、２～３枚のイラストカードの中から正しい組み合わせを選ぶ。 ※時間と生徒の集中状況を見て、３～５問程度出題する。	○Ｂは文字が読めずに答えられないことが予想できるので、そのときはＡの発言や教師のことばをヒントに考えるように促す。 ○「イラスト」「動作」「言葉」の３つを丁寧に確認して、正確に理解できるようにする。 ○正解した際は賞賛し、学習への意欲と集中力が続くようにする。	・イラストカード ・言葉カード
展開③ １０分	５．「プリントでかくにんしよう」 （１）学習内容を確認するプリントを各自進める。 （２）プリントの内容が合っているのかを教師と一緒に確認する。	○本時の学習を振り返るプリントを各自に配付し、答えるように促す。 ○イラストカードを裏返して答えを提示し、合っているかどうかを生徒自身で確認するように伝える。	・確認プリント ・イラストカード
終末 ５分	６．片付け ○学習プリントを各自のファイルに綴じる。 ７．終わりのあいさつをする。	○各自国語のファイルを持ってきて学習したプリントを綴じるように伝える。 ○国語の学習が終わることを伝える。	・国語ファイル

学習した言葉をプリントで確認

グループ名	中学部類型Ⅱグループ	**記録日**	平成３０年１０月２３日
対象学級	中学部１年３組	**指導者**	佐川　裕美
単元（題材）名	国語科「うごきをあらわすことば　～かくにんしよう～」		

「育みたい資質・能力」についての協議

事前研「育みたい資質・能力」を学習指導要領より記入	事後研単元（題材）を通じての児童生徒の学び様子を記入
小学部国語科２段階 【知識及び技能】 ア(イ)日常生活でよく使われている平仮名を読むこと。 (ウ)身近な人との会話を通して、いろいろな言葉の種類に触れること。 【思考力、判断力、表現力等】 Ａ聞くこと・話すこと ア　身近な人の話に慣れ、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりすること。 ウ　体験したことなどについて伝えたいことを考えること。 Ｃ読むこと ア　教師と一緒に絵本などを見て、登場するものや動作などを思い浮かべること。	事後研までの学習評価 【知識・技能】 ・平仮名の文字カードだけでは読めない言葉も、イラストを伴うことで読めたり読もうとしたりする姿が見られた。 ・一度取り上げた言葉を再度取り上げると、読み方も内容も覚えていて進んで答えようとすることができた。 【思考力・判断力・表現力】 ・休憩時間に絵本を読んでいると、授業で取り上げた言葉である「『わーっ』っとさけんだ」という文を見つけ、指をさして動作で表現しながら教師に伝えてきた。 ・取り上げた言葉に関連した自分の体験談を自分なりの言葉で伝えようとすることができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・教師の言葉を聞く態度が身につき、何について質問されているか正しく理解して、自分なりの手段で答えようとする姿が見られるようになってきた。

「主体的・対話的で深い学び」についての協議

事前研主体的・対話的で深い学びを引き出すための手立て	事後研教師の手立てを評価する（○成果●課題）
＜主体的な学び＞ ・提示された平仮名が読めないことがあるので、イラストと合わせて提示して平仮名の読み方が確認できるようにする。 ＜対話的な学び＞ ・平仮名の読み方が分からない時に、友達の答えを聞いて正解を確認するようにする。 ＜深い学び＞ ・生徒に身近なことばやその平仮名の読み書きの学習場面を設定し、学校生活で生かせるようにする。	＜主体的な学び＞ ○学習に興味を持って取り組み、イラストカードを提示すると、進んでその動作をまねたり、オノマトペを発したり、言葉で伝えたりする姿が見られるようになってきた。 ○イラストカードの裏にその答えを平仮名で記しておいたことで、自分から答えが合っているか確認しようとする姿が見られた。 ＜対話的な学び＞ ○イラストに描かれた動作を確認した後に平仮名カードを提示する学習を繰り返すことで、生徒によってはイラストと動作の言葉が繋がるようになってきた。 ○確認プリントを進める際、授業でやったことを自分で思い出して一人で答えたり、教師に平仮名の読み方を質問してそれをヒントに答えたり、友達がどう答えているか覗きながら答えたりと各自がそれぞれ課題に取り組む姿が見られた。 ＜深い学び＞ ●「言葉の意味を確認する」ことが本題材の中心であったので、今後学習した言葉を日常生活などで生かすような場面を設け、身につけた知識の理解を深め、定着させることが必要である。

【高等部類型ＩＣ①グループ】

高等部２年３組　数学科　学習指導案

日　時：平成３０年７月１２日
指導者：鈴木允恵（T1）
伊藤孝之（T2）

１　単元（題材）名　「表とグラフ」

２　単元（題材）の概要とねらい＜教材観＞

本単元は、データの特徴に着目し情報の整理や比較して考えることを通して、グラフに簡潔に表現したり適切に判断したりする力を養う。日常生活において様々な統計的な資料を目にする機会も多く、目にしたときにグラフの内容や生活の様子を的確に理解する力をつけることで、より社会の事象の見方や考え方を深め生活を豊かにしていくものと考える。生活単元学習や総合的な学習の時間において調べ学習を進める際にも、資料を取捨選択し、読み取る力が必要になってくる。そのために、表や棒グラフ、折れ線グラフで表す方法や読み取り方を理解し、目的に応じた整理の仕方を学ぶ。さらに、折れ線グラフ折れ線グラフには縦軸と横軸の二つのデータがあることに着目させ、それらの関係を表やグラフを用いて分かりやすく表したり、読み取ったりすることを学習する。そして福島市の気温と北海道の気温の表から折れ線グラフを書く活動を行い、二つのグラフの違いに気付くことができるようにしたい。10 月に北海道への修学旅行があり、心待ちにしている様子がうかがえることからも意欲的に学習に臨むことができるのではないかと期待する。

＜学習指導要領における段階と内容＞
高等部数学科１段階（３）【図形・数量関係】
図形を正しく作図したり、表やグラフを工夫して作ったりする。

３　単元（題材）の目標

（１）グラフの特徴をつかみ、目的に応じてどのグラフが適しているかを理解する。
（２）縦軸、横軸からデータを読み取ったり、グラフを書いたりすることができる。

４　単元（題材）の計画（総時数６時間）

主な学習活動・内容	時数	指導のねらい
１．グラフの特徴をつかもう。 （１）　表やグラフのよさに気付く。	1	○表、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフの特徴を考え、それぞれのよさについて考える。
２．折れ線グラフを読み取ろう。 （１）折れ線グラフを読み取り、生徒間で問題作りをして理解を深める。	2	○変わり方が大きいか小さいかを調べるにはグラフのどこに目をつければよいかを考える。 ○折れ線グラフの傾きの緩急の表す意味を理解する。
３．折れ線グラフに表そう （１）変化の様子を折れ線グラフで表そう。 波線による省略の仕方を知る。	2	○表のデータから縦軸、横軸に表す数値を読み取り、折れ線グラフに表すことができる。 ○分かりやすいグラフの書き方を考えて、変化の様子を読み取ることができる。
４．まとめ	1	○身の回りにある様々な折れ線グラフの例から変化の様子を読み取ることができる。

５　本時の目標（４／６時間）

（１）２つの気温のデータを折れ線グラフに表し、変化の様子を読み取ることができる。
（２）目盛りの取り方で傾きが変わり、変化の様子が分かりやすくなることを知ることができる。

６　本時の学習過程

過程	学習活動・内容	指導及び支援上の留意点	資料・準備
導入 ５分	１．はじめの挨拶をする。 ２．前時の学習を振り返り、本時の学習内容を知る。 変化の様子を 折れ線グラフに表そう。 ３．２つの表のデータを見比べる。 ・何のデータか考える。	○折れ線グラフを提示して、グラフの名前や何が分かるかを問い、そこから分かることの説明を誘導する。 ○表題を伏せた表を提示して何についてのデータかを考えることで、興味を引き出す。	・折れ線グラフ
展開 ２５分	４．表のデータからグラフに表す。 （１）折れ線グラフを作成する。 （２）２つの地域を１つのグラフに表す。 （３）グラフを見て比べる。 （４）目盛りの取り方で傾きが異なることを確認する。 ・目盛りの取り方が同じ場合 ・目盛りの取り方が異なる場合 （５）表と折れ線グラフを比較する。 ５．グラフから分かることを読み取る。 ○一番高い気温の月 ○一番低い気温の月 ○前月と比べて差が大きい月 ○前月と比べて差が小さい月 ○北海道と福島市の気温の違い	○グラフ用紙を配布して、表からグラフに表すことを伝える。 ○縦軸、横軸に表す値を確認する。 ○目盛りの取り方について何度でとればよいかを問いかける。 ○２つのデータを１つのグラフに表す場合は区別できるように福島市のデータを赤、北海道のデータを青で示すことを説明する。 ○全員が仕上がったことを確認し、２，３人指名してグラフをホワイトボードに掲示するようにする。 ○グラフに注目を促し、他の人と比較して傾きが異なる場合にはなぜそうなったのかを考えられるようにする。 ○全員が同じ場合には、予め用意したエクセルの表を提示して考えを深められるようにする。 ○折れ線の上がり下がりを大きくするためには、１度の変化を大きく表す工夫を考えるとよいことを必要に応じて助言する。 ○はじめに提示した表と折れ線グラフを比較してどちらが変化の様子が分かるかを改めて問い、理解を深める。 ○グラフから一番高い気温の月、一番低い気温の月、前月と比べて差が大きい月、差が小さい月などの質問を投げかける。 ○2 つのデータを比較して一番差が大きい月、小さい月等を読み取り、同じ月でも福島市と北海道では気温の差があることに気付くことができるようにする。	表 グラフ用紙 【生徒】 ・定規 ・赤青色鉛筆 ・パソコン
終末 ５分	６．本時の学習を振り返り、まとめをする。 ７．　おわりの挨拶をする。	○目盛りの取り方によって変化の様子がより分かりやすくなることを確認する。 ○次時は、さらに分かりやすくする工夫について学ぶことを知らせる。	

グループ名	高等部類型ＩＣ①グループ	記録日	平成３０年８月２７日
対象学級	高等部２年３組	指導者	鈴木允恵・伊藤孝之
単元（題材）名	数学科「表とグラフ」		

「育みたい資質・能力」についての協議

事前研「育みたい資質・能力」を学習指導要領より記入	事後研単元（題材）を通じての児童生徒の学び様子を記入
高等部数学科１段階（３） 図形を正しく作図したり、表やグラフを工夫して作ったりする。 「表やグラフを工夫して作ったりする。」とは、中学部で棒グラフや折れ線グラフに表す指導を行っていることを踏まえ、この段階では、目的に合わせて幾つかのデータを、表やグラフなどにどう表すと分かりやすいかを判断し、折れ線グラフや棒グラフなどを作って、生活の中で活用することである。	事後研記入欄（子どもの姿を記入） 変化の様子を捉えるのは折れ線グラフであることを学び、読み取りを行ってきた。1 番高いところ、低いところは容易に答えることができたが、2 つを比較して差の大きいところ、小さいところは“差”の捉え方の見取りが弱く、考えるための手立てが十分に持てなかった。 表のデータから値を読み取り、各々グラフに表すことができた。縦軸の目盛の取り方に悩む様子が見られ 5 名中 4 名が 1 度刻みで取るが 1 名は 2 度刻みで取った。同じデータからなぜグラフに表すと傾きが異なったのかを考える時間を設け、自分の考えを発表することができた。この違いの比較が生徒の学びにつながったと感じる。 以前学習した分数を用いて、「（2度でとったグラフは 1 度でとったグラフの）2 分の 1 になった。」と答える生徒もいた。まとめ時に表とグラフを見比べてどちらが分かりやすいかを問う場面が必要であった。今後、日常生活の中で見られるグラフの読み取りや生活に還元していくための力の育成など発展させて考える機会を設けていきたい。

「主体的・対話的で深い学び」についての協議

事前研主体的・対話的で深い学びを引き出すための手立て	事後研教師の手立てを評価する（○成果●課題）
＜主体的な学び＞ ○修学旅行で行く北海道の気温と自分たちが住む福島の気温を取り上げ、グラフに表す。比較して旅行時の服装を考えるなどの学校生活や家庭生活を題材にして、身近にイメージしやすいデータや数値を取り入れる。 ○主となる活動が十分にできるように時間を確保する。	事後研記入欄 ＜主体的な学び＞ ○2 つの表の表題を伏せて提示した際には表に注目し興味深く考える姿が見られた。7 月の気温の差に着目し一方が北海道であり、一方が福島であるとの発言があった。教師の問いに対して積極的に応じる姿が見られた。グラフの読み取りはパワーポイントで問題形式にしたことで、意欲的な取り組みが見られた。 ●主となるグラフを書く活動に時間を確保したが、考えたり読み取ったりすることも踏まえた時間配分に留意すべきであった。
＜対話的な学び＞ ○自分のグラフと他の生徒が作成したグラフや発表を比較して考え方や表し方の違いを知る。同じデータでも「なぜ違うのか」に迫り、考えを述べたり意見を交わしたりする。	＜対話的な学び＞ ○友だちが作成した 2 つの異なるグラフを比較することを通して「なぜ傾きが違うのか。」を考え発言することができた。発言が控えめな生徒に対しては指名して促した。
＜深い学び＞ ○グラフを書く活動を行い、分かることの読み取りや線の傾きに着目し変化が分かりやすくなることに気付くようにする。目盛の取り方を考える活動を通して、それを基に変化の様子が分かりやすいグラフを作成することができるようにする。 ○日常生活の中で数値やデータを読み取ったりグラフに表したりして活用する力を育てる。 ○読み取る際には全体で共有できるようにパソコン等を使用する。	●比較をして気付きを促すための働きかけが十分に取れなかった。生徒同士で意見を交換する場を設けるとよかった。 ＜深い学び＞ ○グラフの読み取りは、自分のグラフを用いて考え、パソコンに提示したグラフで再度確認するようにした。その際に縦軸、横軸に線を引き、点の位置を確認できるようにしたことで理解が深まったように感じる。 ●展開の始めで北海道と福島の比較を提示したが、生徒に考えさせて最後に出すことで深い学びにもつながったのではないか。パワーポイントはまとめや導入には効果的だが、生徒の気付きを促すためには表を使用し実際に操作して理解を促すことが大切ではないか。

目盛りの取り方を考えてグラフを作成している様子

第６節　研究のまとめ

１　グループ研究のまとめ

２　２年次の成果と課題

第６節　研究のまとめ

本節では、本年度の研究を振り返り、各グループによる研究の振り返りをまとめるとともに、２年次を総括した成果と課題についてまとめる。

１　グループ研究のまとめ

本年度は、教育課程類型別の研究グループ（１３グループ）を編成し、「『主体的・対話的で深い学び』を実現するための手立て」と「年間指導計画モデルの検討・改善」に取り組んできた。それぞれの研究グループで振り返った内容を下記の表にまとめた。

（１）「『主体的・対話的で深い学び』を実現するための手立て」についての振り返り

Q．実践を振り返り「主体的・対話的で深い学び」を実現するための手立てで今後大切にしたいことは何ですか？
＜主体的な学び＞ ・「そうだったのか」「なぜだろう」といった、子どもがハッとする場面や、子どもが達成感を感じられる場面を、教師がいかに作っていくかということが大切である。 ・自分で情報を選びとって主体的に活動するために、視覚表示が有効である。一方で、実態に合わせてそれらを減らしていくことで、児童が学ぶ機会をあえて作っていくことも大切である。 ・気持ちの安定を図りつつ、自信がもてるように７割くらいはできることを提示する。 ・興味・関心があるものを取り入れること。ただし、興味の幅が狭い児童にとってどう学習を広げていくかが課題。 ・周囲の子どもたちの主体的な姿を見せるなどして、人への関心を活動や教材への関心に広げる。 ・学習の順番を児童が決めることで、児童自身が頑張ることや目標をもち、学習に取り組むことができる。 ・子ども同士の学び合いを大切にし、教師は子どもの言葉をひろい、介入しすぎないようにする。 ・どのような力を身に付けさせるかを明確にし、教材を工夫しながら、体験的・操作的活動を授業に取り入れることで主体的な学びにつながっていった。 ・生徒自身が学習・解決の方法が分かれば、自分で学習を進めることができる。この経験を積み重ねることで、自分で課題を考え解決することができる。 ・表出が微細な児童生徒なので、本人の持っている今ある動きを意味づけすることが、「自分でできることを育む」ことにつながる。 ・感覚機能や認知力の向上、快・不快等の気持ちを表出する力を高めるために、様々な活動を提示して取り組んでいくことで、経験を増やし興味関心の幅を広げていく。

＜対話的な学び＞

・１対１の個別指導だけでなく、集団の中で友達や教師がやっていることを見聞きする等、やりとりからの気づきを大切にしたい。
・人との対話、教材との対話。
・複数の児童を同時に見る際、同じ課題でも児童によって処理の仕方が異なるため、それぞれに対してどんな言葉でのアプローチをすればよいか考える。
・児童と教師だけでなく子ども同士の関わりや芽生えた関心を大切にする。
・できるようになって「嬉しい」という表出（教師とのタッチなど）を大事にしたり、教師が共感したり、「できた」思いの共有をしたりすることが大切であり、さらに深い学びにつながる。
・「タイミングを図って言葉かけをする」、「学習活動に迎えるようになるまで待つ」など、子どもの表情を読み取りながら、意思の確認をして課題を進めることを大切にしている。
・学習の中で、教師との信頼関係を元に自己選択・自己決定する場面を作る。（意思の尊重）
・子どもが周囲の情報を読み取れるように、平仮名等、情報を理解することができる手立てを広げていけるようにする。
・生徒が自分の興味・関心のあることや伝えたいことを教師が受け止めようとする姿勢や意識。
・コミュニケーションのスキルが生徒によって異なるため、どんなツールを使うのが有効なのか実態把握を通して教師が生徒の姿をどのように看取っていくのかということ。
・生徒たちの対話をメインにした授業を行ったが、今まで話し合いの経験が少なく、どのように進めたらいいのかが分からなかった。指導をするにあたり、話し合いをするまでの手立てや、細かく段階を踏んで進めていくことが大切だと感じた。
・思考・判断するための十分な時間の確保や場の設定の工夫。
・活動に取り組めたときに称賛したり、本人の感じた気持ちを推測して言い表したりするなど、動きや気持ちの変化を受け止めて細やかに対応する。

＜深い学び＞

・児童自身が、学んだこと（知識）を他教科や生活の中で活用できる場面が意識できることで深い学びにつながるのではないか。
・年間の単元において、活用できる場面について教師が見通しをもっておくことも大事である。
・深い学びの手立てとして生活の中で体験したことを学習に生かすこと。
・積み重ねが発展的、系統的指導につながる。
・国語、算数で学習したものが、今生かせていると子どもが気付けること。
・授業の前半に学んだことを活用する場面を、授業の後半に設定した。
・興味のあることから学習が深まり、般化し、概念形成ができてきている姿が見られた。
・学びの系統性（例　数学で学んだことを生単で活用する）を意識して、授業を進めることが大切である。また、基本的なことを繰り返すことで、さらに発展した学習ができ、生徒もやりたいという欲求もでてき、深い学びにつながっていく。

・年間計画一覧をもとにその系統性や横断的な学びを教師が意識して指導にあたると、学んだことが般化でき深い学びにつながると考えられる。
・生徒たちによって「深い学び」のとらえ方が異なり、学ぶ必要性が分からなければ深くはならない。
・学習の中で生徒が自己と向き合い「考えている」状態となる。それ事態が深い学びに繋がるといえる。
・学習と生活が結びつき、生活の豊かさや相手とのやりとりの深まりに繋がっていく学び。
・本人がどう感じてどう考えるのか、本人の変容を大切にする。

（２）「年間指導計画モデルの検討・改善」についての振り返り

Q．年計モデルを検討し、どのような点を改善しましたか？（各教科の工夫点等）

・通年ではなく月や学期で単元の区切りをつけたことで、内容のバランスがよくなった。
・他学年とのすり合わせを行ったりしたことで、系統性（縦のつながり）や発展性（縦・横のつながり）ができた。
・生単において、今まであまり入っていなかった社会の内容（校外学習など）や生活科（ゲストティーチャーの活用など）を入れることができた。単元においては、どの教科を合わせているのかを明記してあるとよい。
・教育課程の重点事項を検討した後に年間モデルの検討ができたことで、その学年で大切にしたいことが明確になった。
・段階で分けると、児童の実態差が大きく計画が立てにくいため、
　国語…「読む」「聞く・話す」「書く」
　算数…「かたち」「数」「測定（量・時計の学習も含む）」という分け方でモデルを検討した。
・国語では通年の単元として「読み聞かせ」を設定し、言葉やイメージ、想像力等の力を養うことができるようにした。
・国語・算数を学期ごとに区切ったが、実際の学習状況（実態差、個別学習等）を考えると、区切るのは難しい。
・縦と横のつながりを大事にして作成していく。
・生活単元学習、作業学習、国語、数学、保健体育については、今年度活用した年間指導計画一覧表をもとにして重複障害がい学級の生徒の障がいの状態や発達の段階に応じつつ行事との関連等も図れるように改善した。
・音楽については通年の活動内容を、（２ヶ月を目安に区切った）題材で季節・行事に照らし合わせて楽曲を選定・実施するように改善した。
・教育課程を見直すことで精度を高めた。
・なぜその単元を、その時期に行うのかを再考した。
・学級だけでなく、学年・類型の中で必要な条件や課題を持ち寄り、学年の発展的学習や他教科領域の系統的学習内容との横断的な計画の摺り合わせがよりできるように努めたい。
・カリキュラムをマネジメントするときの視点を明確に持ち、そのシステム（時期、メンバー、視点、評価・調整等）を踏まえながら検討し、年計モデルとして意味のあるものにしていきたい。
・自立活動の部分の表記の仕方を、わかりやすいように項目を起こした。（小・中・高）
・自立活動の各区分も相互に関係しあっており、それを意識しつつ月ごとに学習内容を設定した。生徒の実態、体調、授業の回数等、総合的に考えながら学習内容を変更し対応した。

２　２年次（平成３０年度）の成果と課題

本年度の取組の成果と課題は下記の通りである。

（１）「育みたい資質・能力」の明確化

＜成　果＞

○　教職員アンケート「育みたい資質・能力に関するアンケート」を実施し、教員一人一人が教育目標をどのように捉え、本校の児童生徒に対してどのような力を育みたいと考えているか調査することができた。

○　学習指導要領解説等を基に「学校教育目標の構造案」を再検討し、改善を図ることができた。併せて「大笹生支援学校で育みたい資質・能力（試案）」「小学部で育みたい資質・能力（試案）」のモデル図を作成することができた。

＜課　題＞

●　本年度の課題としていた「育みたい資質・能力を各学部で手続きの検討」については、アンケートの集約や「小学部で育みたい資質・能力（試案）」によって、手続きの方向性は見えてきたものの、より妥当性のある手続きや中学部、高等部についての整理などの検討が必要である。

●「授業とのつながり」については、学習指導案に資質・能力を明記して組み立てるなどを行ったが、具体的な目標設定や評価方法など、授業づくりの一連の流れをより明確にしていく必要がある。

（２）「年間指導計画モデル」の作成

＜成　果＞

○　昨年度作成した「年間指導計画モデル ver. １」を基に、各研究グループで検討・改善の協議を行い、「年間指導計画モデル ver. ２」を作成することができた。

○「年間指導計画モデル ver. ２」は、教科別の指導を中心に整理し、学習指導要領解説等を参考に本校実践に基づく内容を網羅的に整理することができた。

＜課　題＞

●「年間指導計画モデル」は、一年間の単元（題材）の時期や配列を検討することには役立つが、単元名や内容の一部しか掲載できず、その単元でどのような資質・能力を扱うのかは見えにくい。今後は、「育みたい資質・能力」に基づいてどのような単元（題材）が必要で、どの時期に、どのくらい取り扱うのかを明確にして、「年間指導計画モデル」を検討する必要がある。

●「年間指導計画モデル」は、あくまでも標準例であるため、実際の年間指導計画の作成に当たっては、学級の実態に応じた組み替えが必要である。各学級のより詳細な年間指導計画をどのように組み立てるのか、個別の指導計画とどのように関連付けて実施されるのか、実際の年間指導計画の作成と今後の活用方法についての検討が必要である。

（３）「学びの過程」を踏まえた授業実践

＜成　果＞

○「学びの過程と授業改善のモデル図」において、「主体的・対話的で深い学び」の視点との関連を明らかにして整理することができた。モデル図を使って可視化しながら、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれについての概念理解に役立てることができた。

○　教育課程の類型別の全１３グループでそれぞれ授業研究を深めることができた。今年度は特に、教科別の指導を中心とした授業研究を行い、教科別の授業づくりや授業改善について深めることができた。研究協議では、「育みたい資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」について協議し、実践を通した学び合いができた。

○　学習指導案に「学習指導要領における段階と内容」を明記するようにしたことで、学習指導要領解説等を活用し、各教科等の資質・能力の根拠に基づいた指導内容を設定することができた。併せて、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」それぞれについて、事例に応じた手立てについて検討することができた。

＜課　題＞

●「育みたい資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」については、具体的な実践とつなげて考えていくと「難しい。」という感想が聞かれることが多くあった。抽象的な理念を具体的な授業として具現化することは簡単ではない。学習指導要領や解説に示された基準を基に、地道な実践と協議を積み重ね、概念理解と実践力を深めていくことが重要であると考える。

●　授業事例を見てみると、指導内容がシンプルなものから、多くの指導内容が設定されているもの、目標設定の仕方や学習評価の視点など、授業者によって様々であった。本研究において統一した手続きを示していなかったことが一因であると考える。次年度は目標設定や授業評価の在り方など、一連の手続きを明確にしていく必要がある。

●　児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を見取り、「育みたい資質・能力」が身に付いたかどうかを捉えるためには、質の高い授業観察が必要であると考える。研究グループにおいて、視点を明確にした研究授業の参観ができるような工夫が必要である。

第２章
大笹生支援学校の学校づくり

第１節
カリキュラム・マネジメント

１　カリキュラム・マネジメントとは

２　本年度の取組の概要

カリキュラム・マネジメント

１　カリキュラム・マネジメントとは

平成２８年１２月２１日中央教育審議会において、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が示され、よりよい学校教育を創るという目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指した学習指導要領の改訂の方向性が示された。その中で、各学校において教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す「カリキュラム・マネジメント」の実現を目指すことが求められた。

これを受け、平成２９年４月告示の「特別支援学校幼稚部教育要領・小学部・中学部学習指導要領」においては、「カリキュラム・マネジメント」について次のように示している。

第１章総則第２節の４

４　各学校においては，児童又は生徒や学校，地域の実態を適切に把握し，教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと，教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと，教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して，教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。その際，児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え，第３節の３の（3）のイに示す個別の指導計画の実施状況の評価と改善を，教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること。　下線部は筆者による

カリキュラム・マネジメントは、学校教育に関わる様々な取組を、教育課程を中心に据えながら組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくことあり、次の三つの側面で整理されている。

①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

さらに、特別支援学校学習指導要領では、個別の指導計画の観点から次の点を含めた四つの側面で整理されている。

④個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと

これらについて、各学校は「校長の方針の下に、校務分掌に基づき教職員が適切に役割を分担しつつ、相互に連携しながら、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行う（特別支援学校学習指導要領第１章第６節の１）」ことが求められている。

２　本年度の取組の概要

（１）学習指導要領に関わるこれまで取組

本校は、校長の指導の下、平成２８年度より有志での勉強会を皮切りに、新しい学習指導要領の理念に基づき、教務部と研修部が連携しながらカリキュラム・マネジメントを進めるための体制整備を進めてきた。（図１）

	【平成28年度】	【平成29年度】	【平成30年度】
〈文部科学省〉	〈H28. 8月〉教育課程部会「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ（素案）」 〈H28. 12月〉中教審答申	〈H29. 4月〉新学習指導要領告示（小・中学部） 〈H30. 3月〉新学習指導要領解説（小・中学部）	小学部（先行実施） 中学部（先行実施）
〈大笹生支援学校〉	〈H28．8月～〉有志による勉強会 〈H29. 2月〉年間指導計画一覧の作成（教務部） 〈H29. 2月〉新たな主題研究の立案（研修部）	〈H29. 4月～〉年間指導計画一覧の作成・活用（教務部） 〈H29. 10月～〉年間指導計画モデルの作成（研修部） 〈H29. 4月～〉OJL（教科・領域会）の推進（研修部） 〈H29. 10月～〉教育課程の編成（資質・能力）（教務部）	〈H30. 4月〉カリキュラム・マネジメント推進全体計画（教務部） 〈H30. 4月〉個別の指導計画新様式の提示（教務部） 〈H30. 7月〉教育課程と年間指導計画の接続（教務部） 〈H30. 10月～〉教育課程の編成（年間授業時数等）（教務部） 〈H30. 12月〉育てたい資質・能力の検討（教務部・研修部）

図１　大笹生支援学校における学習指導要領に関する取組の経過

（２）カリキュラム・マネジメントモデルの作成と共有化

カリキュラム・マネジメントを推進するにあたって、全体構造を整理し、全教職員で共有し連携するために「大笹生支援学校カリキュラム・マネジメントモデル」を作成した。田村知子ら（２０１６）「カリキュラム・マネジメントモデル」を参考に、本校で一部改変して作成した。（図２）

カリキュラム・マネジメントモデルを各職員室に掲示したり、カリキュラム・マネジメントに関する説明会等で活用したりして共有化を図った。

（３）平成３０年度カリキュラム・マネジメント推進全体計画の作成

カリキュラム・マネジメントモデルを基に、本年度の取組について「平成３０年度カリキュラム・マネジメント推進全体計画（以下全体計画）」を作成し、組織的・計画的に進めることとした。

＜主な内容＞　※①～④はカリキュラム・マネジメントの四つの側面との関連を示した

①教科等横断的な視点での教育内容の組み立て

・「育みたい資質・能力」の明確化

・「年間指導計画一覧」の作成と活用

②教育課程の実施状況の評価・改善（④個別の指導計画の実施状況の評価・改善）

・個別の指導計画の新様式による実施と評価

・次年度の教育課程編成に関わる基本的な考え方とスケジュール
③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保と改善
・教科・領域会による学習会の推進

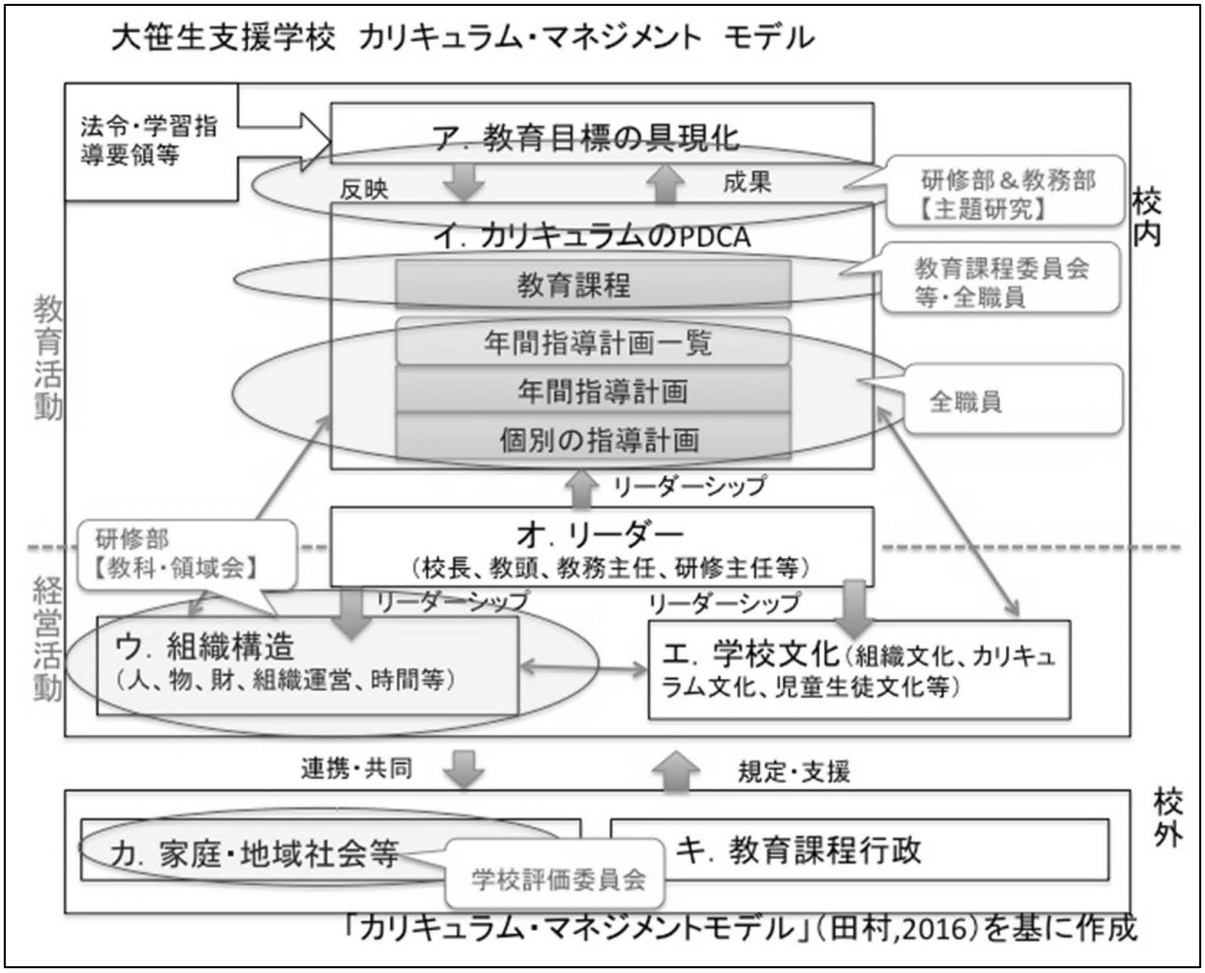


図２　「大笹生支援学校カリキュラム・マネジメントモデル」

田村知子・村川雅弘・吉冨芳正・西岡加名恵編著「カリキュラムマネジメントハンドブック（ぎょうせい、２０１６年）」を参考に、本校で一部改変

（４）「育みたい資質・能力」の明確化に向けたアンケートの実施

全体計画の①「教科等横断的な視点での組み立て」について、学校として「育みたい資質・能力」を明確にすることが、教科横断的視点につながると考え、校内研究と連携して教職員アンケートを実施した。学部目標に掲げる児童生徒像を基準として、本校職員が目の前の児童生徒にどのような思いを持って資質・能力を育みたいと考えているのか明らかにすることができた。本校教員が詳細については、本研究集録の第１章第３節を参照する。

（５）「年間指導計画一覧」の作成と活用

全体計画の①「教科等横断的な視点での組み立て」について、一年間の指導の中で教科等横断的なつながりを持って指導を進める部分を意識できるように、各学級の「年間指導計画一覧」を作成し、意識してつなげている部分を線でつなぎ明記するようにした。各学級で意識してい

る部分に違いがあるものの、本取組を通して指導内容をつなぐ意識を持つことができたのではないかと考える。（図３）

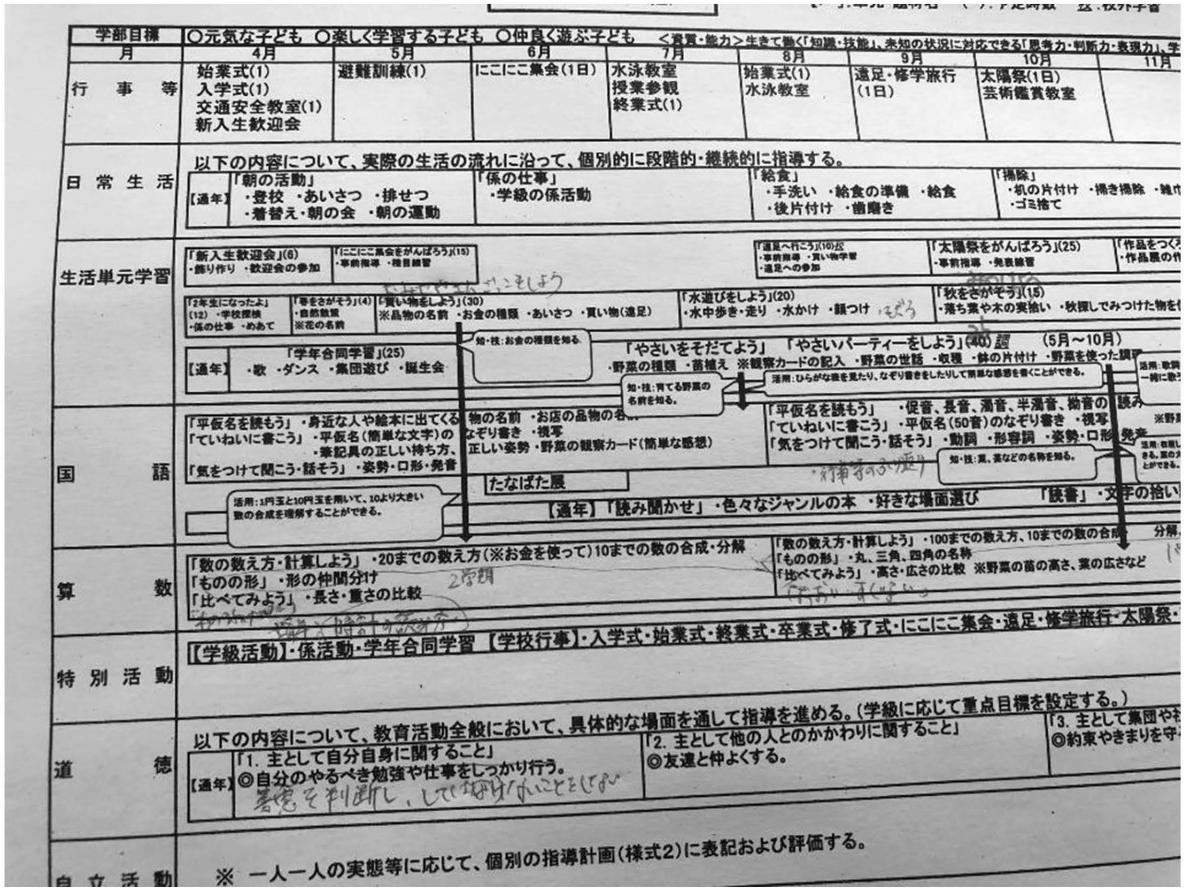


図３　年間指導計画一覧の作成と活用

（６）個別の指導計画の新様式による実施と評価

全体計画の②「教育課程の実施状況の評価と改善」及び④「個別の指導計画の実施状況の評価と改善」について、実施状況の評価を明確にし、教育課程の改善につなげるために、個別の指導計画の新様式に改訂し、実施した。

個別の指導計画の様式１は、個々の自立活動の指導内容について作成手続きを含めて明確にし、実施と評価につなげられるように改訂した。特別支援学校学習指導要領解説の自立活動編に示された「流れ図」を基に、指導内容の決定までの手続きが分かるように作成した。（図４）

個別の指導計画の様式２は、各教科の段階と手立てや配慮事項を明確し、実施と評価につなげられるようにした。各年間指導計画に基づき、児童生徒それぞれの実態に応じた目標設定ができるよう、特別支援学校学習指導要領の各教科に示された段階と内容との関連が分かるようにした。また、児童生徒個々の実態に応じた手立てや配慮事項が分かるように、各教科等の指導においてそれぞれ手立てや配慮事項を明確にした。（図５）

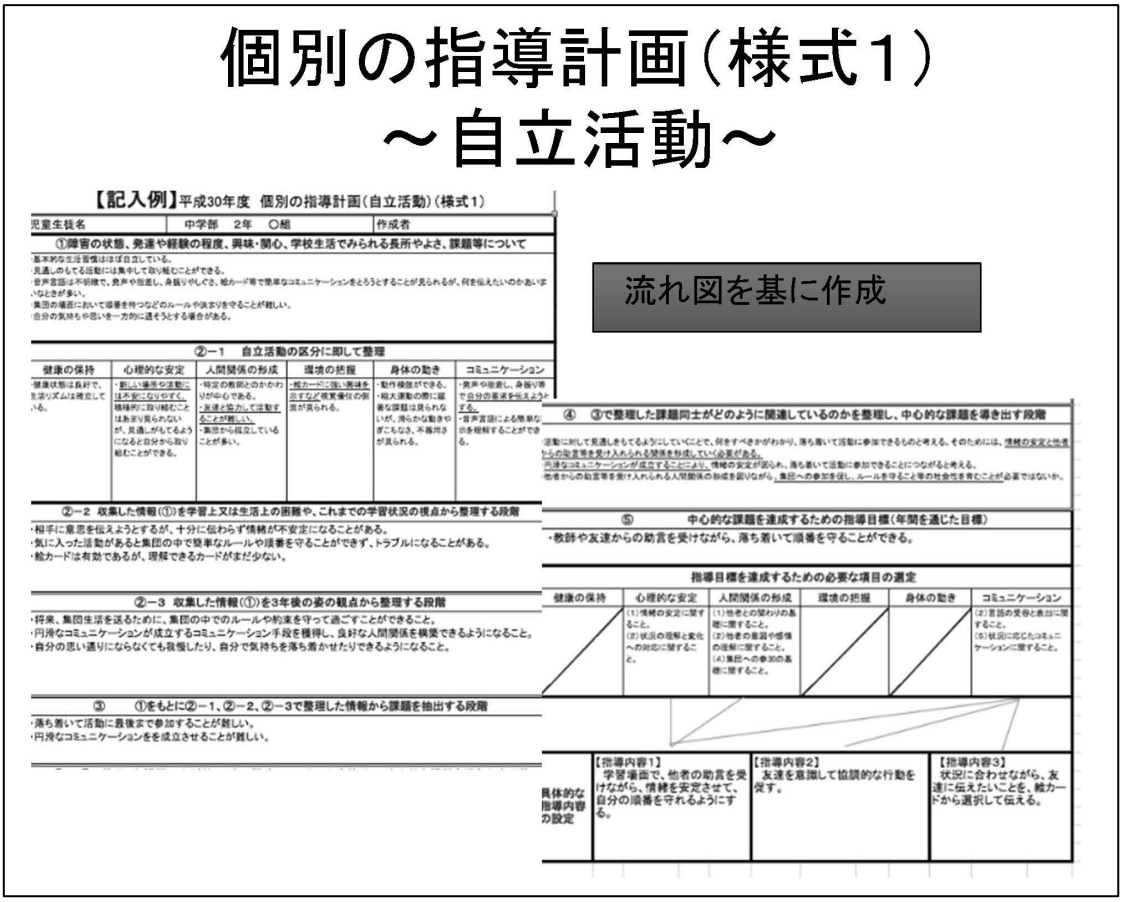


図４　個別の指導計画（様式１）～自立活動～

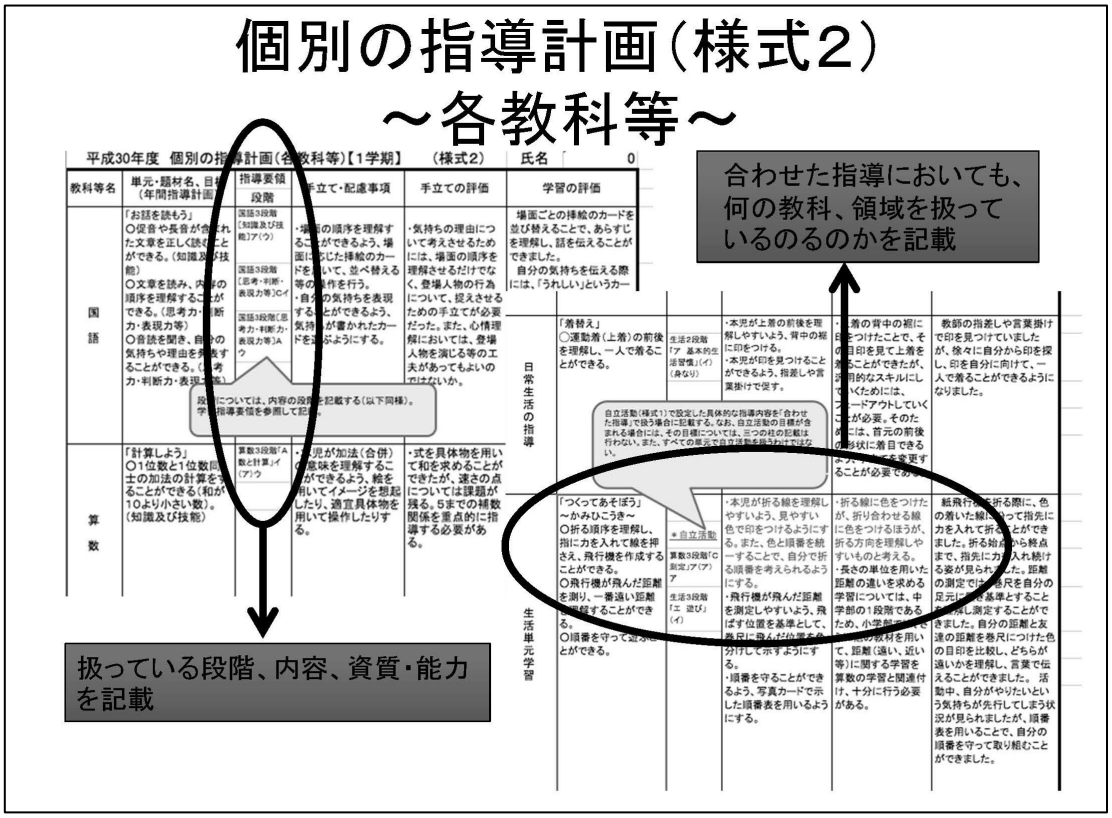


図５　個別の指導計画（様式２）～各教科等～

（７）次年度の教育課程編成に関わる基本的な考え方とスケジュール

次年度の教育課程編成に向けて、基本的な考え方やスケジュールを共有し、実施と評価・改善に向けた取組を次のように実施した。

ア）新しい学習指導要領に基づく教育課程の評価・改善に関する全体会（平成３０年７月）

カリキュラム・マネジメントについての基本的な考え方と次年度の教育課程編成に関わる本年度のスケジュールに関して、全職員に周知を行った。

イ）学年主任を含めた教育課程委員会（平成３０年９月）

学年主任を中心に次年度の教育課程編成に向けた改善の方向性について協議を行った。

ウ）全教員を対象とした次年度の教育課程編成向けた説明会（平成３０年９月）

全教員対象の説明会を実施した。本年度実施した単元・題材（各教科）において、児童生徒の達成状況を基に、年間指導計画の目標、各学部の教育課程の実施上の方針について改善する方向性について示した。各教員からの質問や意見が出しやすいように２グループに分けて実施した。

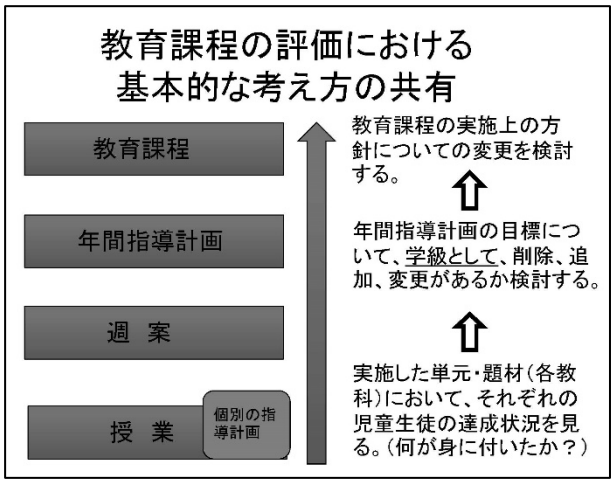


図６　教育課程の評価における基本的な考え方の共有

エ）各学部学年会・各学部類型会による教育課程の評価・改善作業（平成３０年１０月）

上記の説明会を受け、各学部学年会・各学部類型会において教育課程の評価・改善作業を実施した。

（８）教科・領域会の推進

全体計画の③「教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保と改善」について、研修部現職教育で取り組んでいる教科・領域チームにおける学習会（教科・領域会）と連携し、学

校全体に関わる教科・領域に関する課題や改善事項について把握し、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制の確保と改善に生かすこととした。特に、教科・領域に関する研修体制や実務等の運営管理体制、教材の整理や共有化に関する課題等が挙げられている。実際の取組に関しては、本研究集録第２章第３節を参照する。

（９）カリキュラム・マネジメントの評価

本年度のカリキュラム・マネジメントに関する取組について、各教員に評価アンケートを実施し集約した。概要については、下記を参照する

評価結果（教育課程 :カリキュラムのPDCA)

NO	質問項目	モデルでの位置づけ	ひじょうにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
1	私は、教育目標や重点目標について、その意味を具体的に説明できる	ア	4%	74%	22%	0%
4	私は、教育課程を踏まえて年間指導計画作成を作成している。	イ-①	18%	76%	6%	0%
5	私は、年間指導計画一覧を活用し、教科等横断的な視点で授業を構想、実践している。	イ-①	17%	73%	10%	0%
7	私は、年間指導計画を、児童・生徒の実態に応じて、柔軟に変更しながら実施している。	イ-①	36%	62%	2%	0%
10	私は、次年度に向けた教育課程の編成スケジュールについて理解してる。	イ-③	6%	53%	41%	0%

評価結果（学校文化）

NO	質問項目	モデルでの位置づけ	ひじょうにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
19	私は、自己の知識や技能、実践内容を同僚と相互に提供しあうようにしている。	エ、イ-②	20%	78%	2%	0%
20	私は、同僚の実践から積極的に学ぼうとしている。	エ、イ-②	45%	55%	0%	0%
22	私は、学習指導要領の改訂など、教育政策の動向に関心をよせ積極的に学ぼうとしている。	エ、キ	15%	72%	13%	0%
23	私たち教職員の間には、それぞれの個性や仕事ぶりを認め合う信頼関係がある。	エ	22%	67%	11%	0%
24	本校では、挑戦が奨励され、挑戦の結果失敗しても個人が責められない安心感がある。	エ	10%	63%	22%	5%
28	私は、同僚と共に、学級や学年を超えて、児童生徒の成長を伝えあい、喜びを共有している。	エ	44%	51%	4%	1%

評価結果（組織構造）

NO	質問項目	モデルでの位置づけ	ひじょうにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
14	私は、教育目標の達成に向け、校務分掌の業務を行っている。	ウ	18%	74%	8%	0%

評価結果（組織構造）

NO	各　部	ひじょうにあてはまる	だいたいあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
①	教務部	19%	76%	5%	0%
②	情報教育部	20%	60%	20%	0%
③	研修部	13%	81%	6%	0%
④	生徒指導部	21%	71%	7%	0%
⑤	保健部	22%	78%	0%	0%
⑥	進路指導部	18%	73%	9%	0%
⑦	教育支援部	50%	50%	0%	0%
⑧	渉外部	9%	64%	27%	0%

評価結果より

【教育課程：カリキュラムのPDCA（授業との接続）】

→教育課程から年間指導計画、個別の指導計画までのつながりについては、概ね理解されている。

三つの柱を踏まえ、「知識及び技能の習得と活用」についての授業が実施されていた（週案より）。

【学校文化】

→OJLによる研修推進等により、学び合う意識が醸成されている。

＊一方で、「安心してチャレンジできる」「教員間で喜びを共有できる」ような仕掛けも必要。

【組織構造】

→各部においては、教育目標達成に向けた業務遂行の意識が高い。しかし、具体的にそれが何か説明できるか？？

第２節

地域支援センターささっこ

１　地域の子供・保護者を支えるための学校・関係機関等との連携

２　福島県「未来へつなぐ子育て・教育充実事業『切れ目のない支援体制整備事業』」

３　本年度の取組の概要

地域支援センターささっこ

１　地域の子供・保護者を支えるための学校・関係機関等との連携

本校の学校経営運営ビジョンで示された「インクルーシブな学校」の理念（図１）に基づき、地域の子供・保護者を支えるための学校・関係機関との連携を推進するための本校の取組が「地域支援センターささっこ」の取組である。本節では、「地域支援センターささっこ」の設立の背景と本年度の取組の概要についてまとめる。

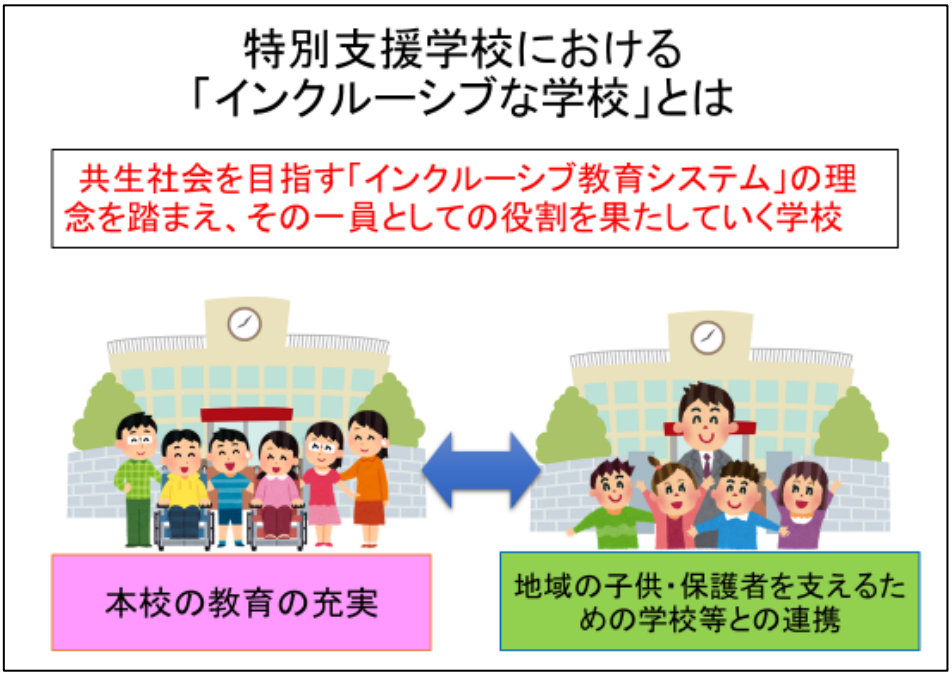


図１　特別支援学校におけるインクルーシブな学校のイメージ

２　福島県「未来へつなぐ子育て・教育充実事業『切れ目のない支援体制整備事業』」

第６次福島県総合教育計画平成３０年度アクションプランの新規事業に「未来へつなぐ子育て・教育充実事業『小事業：切れ目のない支援体制整備充実事業』」が示された。本事業は、「特別な支援を必要とする子どもたちの就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制構築のため、小・中学校等や関係機関との連携を図りながら養育や教育に関する相談支援体制の充実を図る」ものであり、「全ての特別支援学校に『地域支援センター（相談窓口）』を設置し、『教育支援アドバイザー』等による相談体制の充実や関係機関との連携強化を図る」ものである。（第６次福島県総合教育計画平成３０年度アクションプラン　平成３０年３月より）

本事業に基づき、本校における教育相談等の特別支援教育のセンター的機能の充実を図る取組が「地域支援センターささっこ」の取組である。本校は、平成１４年度より親子教室「ささっこ教室」の開催や地域からの相談対応など、地域の中で支援の取組を進めてきた。これまで

の取組を踏まえつつ、本校教育支援部と教育支援アドバイザーを中心にさらに事業の充実を目指し、様々な取組を進めてきた。

本校の玄関前に「地域支援センターささっこ」の看板を設置

３　本年度の取組の概要

（１）来校相談・校内教育相談の充実（サロン化構想）

「ささっこ教育相談」として、地域の幼稚園、保育園、小・中学校、高等学校に通う障がいのある又は発達に心配のある乳幼児や児童生徒及び、保護者、教職員に対して養育、教育について相談や助言、情報提供を行っている。主に特別支援コーディネーターが中心となり、教育支援アドバイザーも相談支援を行う。相談者の不安や悩みを聞き、共感しながら、安心して話せる相談になるよう心掛けている。長期で継続している相談利用のケースもある。

校内教育相談は、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、本人や保護者、教員の悩みや相談に早期に対応し、課題解決に向けた支援を行っている。各学部の特別支援教育コーディネーターを相談窓口とし、児童生徒、保護者、教員それぞれのニーズを把握しながら、必要に応じてケース会議も実施している。教育支援アドバイザーも児童生徒、保護者や生徒の支援を行っている。教職員に対しては、指導の悩み、支援の工夫、教材の準備などを話し合う場の提供を行っている。

地域の保護者、子供、教職員が安心して相談できる空間として、また、様々な人たちが交流する場として、地域交流の「サロン」となりえる場をコンセプトに地域支援センターの環境整備に努めてきた。

保護者、子供、教職員が安心して相談できる空間を目指して

教育支援アドバイザーの相談

児童生徒の相談や交流の場

本校教職員の学部間交流の取組

各種打ち合わせでの利用（ＰＴＡ役員会等）

（２）教育支援計画の充実・活用

個別の教育支援計画を「未来を創る支援マップ」として、様式を含めた整備を行った。よりよい合理的配慮の提供に向け、個別の教育支援計画の記載内容や記入例など、合理的配慮について教職員の共通理解を図った。また、保護者への合理的配慮に関する情報提供を「教育支援部だより」を通して行った。

個別の教育支援計画（平成３０年度～平成３２年度）

作成年月日		作成者	
ふりがな 氏名		ふりがな 保護者名	子ども との続柄
住　所		電話番号	
生年月日		手帳	

未来を創る支援マップ

〈家庭生活〉
○家族構成：
☆本人が家庭生活で困っていること等

〈教育〉福島県立大笹生支援学校
Tel 024-558-8710
Ｈ３０年度担任　：
Ｈ３１年度担任　：
Ｈ３２年度担任　：
医療的ケア：無　・　有
【合理的配慮】（保護者からの申し出があった際に記入する）

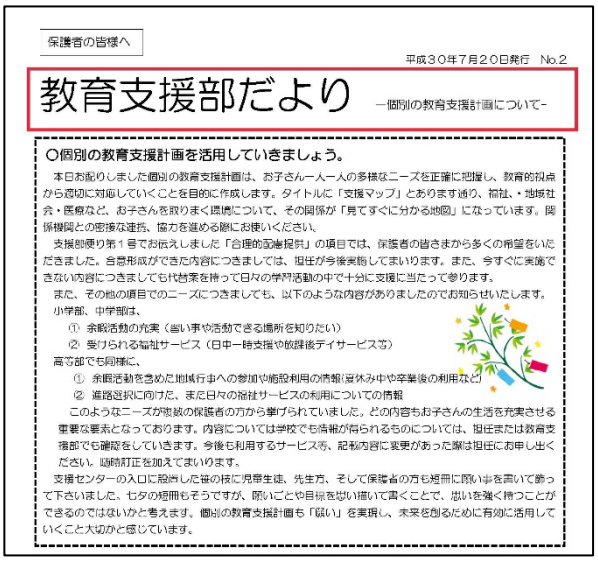
〈余暇・地域生活〉
○現在参加・利用している余暇・地域生活（参加・利用する上で困っていることがあれば併せて記入）
☆今後参加・利用したい余暇・地域生活（それを阻んでいる要因があれば併せて記入）

本人

〈福祉〉
○現在利用している福祉サービス（利用する上で困っていることがあれば併せて記入）
☆今後利用したい福祉サービス（それを阻んでいる要因があれば併せて記入）

〈医療〉
○現在利用している医療機関（利用する上で困っていることがあれば併せて記入）

個別の教育支援計画の様式


保護者の皆様へ

平成３０年７月２０日発行　No.2

教育支援部だより　―個別の教育支援計画について―

○個別の教育支援計画を活用していきましょう。

本日お配りしました個別の教育支援計画は、お子さん一人一人の多様なニーズを正確に把握し、教育的視点から適切に対応していくことを目的に作成します。タイトルに「支援マップ」とあります通り、福祉・地域社会・医療など、お子さんを取りまく環境について、その関係が「見てすぐに分かる地図」になっています。関係機関との密接な連携、協力を進める際にお使いください。

支援部便り第１号でお伝えしました「合理的配慮提供」の項目では、保護者の皆さまから多くの希望をいただきました。合意形成ができた内容につきましては、担任が今後実施してまいります。また、今すぐに実施できない内容につきましても代替案を持って日々の学習活動の中で十分に支援に当たって参ります。

また、その他の項目でのニーズにつきましても、以下のような内容がありましたのでお知らせいたします。

小学部、中学部は、

① 余暇活動の充実（習い事や活動できる場所を知りたい）

② 受けられる福祉サービス（日中一時支援や放課後デイサービス等）

高等部でも同様に、

① 余暇活動を含めた地域行事への参加や施設利用の情報（夏休み中や卒業後の利用など）

② 進路選択に向けた、また日々の福祉サービスの利用についての情報

このようなニーズが複数の保護者の方から挙げられていました。どの内容もお子さんの生活を充実させる重要な要素となっております。内容については学校でも情報が得られるものについては、担任または教育支援部でも確認をしていきます。今後も利用するサービス等、記載内容に変更があった際は担任にお申し出ください。臨時訂正を加えてまいります。

支援センターの入口に設置した笹の枝に児童生徒、先生方、そして保護者の方も短冊に願い事を書いて飾って下さいました。七夕の短冊もそうですが、願いごとや目標を思い描いて書くことで、思いを強く持つことができるのではないかと考えます。個別の教育支援計画も「願い」を実現し、未来を創るために有効に活用していくこと大切かと感じています。

教育支援部だより

（３）交流及び共同学習の充実

小・中・高等学校の同年代の児童生徒との交流及び共同学習を通して、お互いの多様性を認め合い、互いに学び合う活動を進めている。

福島県立二本松工業高等学校生徒との交流及び共同学習では、本校の児童生徒と年間を通して複数回、個別に活動に取り組み、工業高校の生徒が学科の専門性を生かして、本校の児童生徒の特性や嗜好に合わせた教材をスイッチ教材の作成、提供を行った。

（４）地域交流・地域貢献の推進

「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、学校と地域をつなぐ活動を進めている。学校と地域のつながりは、児童生徒が地域で共に学び、共に生きるために不可欠であるとともに、地域の特別支援教育の充実に結び付くと考えている。そのため、地域の方々との活動の機会を多く設けるとともに「サロン」を交流の場として活用してもらう取組を進めている。

地域の学習センターと連携し、ゲストティーチャーの活用した授業づくりの取組を進めた。高等部の保健体育科のダンスの授業において、学習センターからよさこいダンスサークルの方々を紹介していただき、快くゲストティーチャーを受けていただいた。地域支援センターにおいて、ゲストティーチャーと本校職員との打ち合わせの場を作り、生徒の実態についての説明や授業構想について話し合った。当日は、ゲストティーチャーによるよさこいダンスの指導を通して、生徒の真剣に学ぶ姿が見られたり、笑顔で関わり合う姿が見られたりした。

（５）学校間連携の充実

地域の特別支援教育の充実に向け、幼稚園、保育園等、小・中学校、高等学校、特別支援学校との連携を進めている。よりよい指導・支援に関する情報交換を中心に、授業づくりや保護者支援についても共にアイディアを出し合いながら進めた。依頼を受けて行った研修の支援から連携を深めるケースもあった。

研修支援として、今年度は二本松での特別支援学級交流会のボッチャ大会の講師や、本宮方部でコーディネーターと支援員との連携についてのなどの研修協力行った。また、福島市の保育ネットワーク会議、においても研修協力を行った。

学校等の相談支援として、本年度はこれまで延べ１９件実施した。ケースに応じて経過を観察しながら継続して行っている。

本校会場として各種の研修会や学習会が実施された場合の情報交換の場としてサロンを活用した。併せて実施された、「切れ目のない相談支援整備事業第２回相談支援ケース会議【県北地区】と「スクールソーシャルワーカー域内連絡会【県北】」においては、会議内において事例をもとに真剣な協議が進められたが、会議間の休憩場所してサロンを提供し、職種の異なる参加者同士の活発な会話と交流が促進された。

チームケース会議休憩時間の様子

来校者との相談の様子

第３節

ＯＪＬ（On the Job Learning）の取組

１　ＯＪＬ（On the Job Learning）とは

２　本校のＯＪＬで目指す姿

３　平成２９・３０年度の取組の概要

ＯＪＬ（On the Job Learning）の取組

１　ＯＪＬ（On the Job Learning）とは

（１）ＯＪＬの定義

ＯＪＬとは、「On　The　Job　Learning」の略で、「ＯＪＴ」の Training（トレーニング）を Learning（ラーニング）に変えたものであり、「職場における共感に基づく自律的相互学習を通じて職場風土を改革し、個人と組織の成長を促す学習プロセス」である。これは、青森公立大学教授遠藤哲哉氏と（財）ふくしま自治研修センター元客員教授小野寺哲夫氏が定義した概念である。両氏は、（財）ふくしま自治研修センターにおけるＯＪＴ（On the Job Training）及び「学習する組織（ピーター・センゲ）」の実証的研究を通して、自律的相互学習による組織戦略を重視した研修プログラムを開発し、そのコンセプトとしてＯＪＬの概念を提唱している。

〈OJL（On the Job Learning）とは〉
職場における共感に基づく自律的相互学習を通じて職場風土を改善し、個人個人と組織の成長を促すプロセス
【遠藤哲哉・小野寺哲夫.2007】

遠藤・小野寺（2007）は、今日のような急激に社会が変化する時代においては、下記①～④の理由から、従来の上司や先輩が部下や後輩に教育訓練をするＯＪＴのスタイルには限界があり、「共感に基づく自律的な相互学習をベースに組織風土を変革し、変化に対応し、変化を起こせる人材づくり」、「一人一人が自主的で主体的な仕事の取り組みや環境構築を行っていくこと」が重要であると述べている。

①社会の急激な変化と情報ネットワーク化の進展により、情報や技術は急激に陳腐化する。常に情報収集と自己学習が必要。
②情報ネットワーク化の進展に伴って、いつでも情報にアクセスできる機会が多くなり、主体的に情報を入手することが可能。部下の意見も参考に共に創っていくスタイルが有益。
③個別指導と同時に、チームや職場全体の価値観や取り組み姿勢、雰囲気が個々人のやる気や態度に影響を及ぼす。共有する価値観や文化、風土を変え、気づきを与えることが重要。
④成人教育では、個人が試行錯誤しながら自律的に学習するタイプの学習の方がモチベーションを高め、成果を挙げる。

（参考）遠藤哲哉・小野寺哲夫（2007）自治体経営における学習する組織～福島県内の自治体データを用いた組織戦略と組織心理学的観点との統合～. 青森公立大学経営経済学研究第13巻第1号

（２）「学習する組織」の５要素及びプラスアルファ５要素

遠藤・小野寺（2007）は、ピーター・センゲの提唱した「学習する組織」にプラスアルファ５要素を加えた１０要素による研修プロセスを提案している。（表１）

表１　ふくしまパラダイム「学習する組織の１０要素モデル」（小野寺・遠藤, 2007）

＜引用＞平成 30 年度大笹生支援学校外部専門家研修「ＯＪＬ研修会」小野寺哲夫氏の資料より

ピーター・センゲのオリジナル５要素	
Ⅰ．自己マスタリー	１人１人が自ら自律的に学び続け、常に自己成長、自己実現へ向かって継続的な改善や努力をすること。
Ⅱ．メンタルモデルの克服	心の深層にある固定観念や先入観に気づき、常にそれらに挑戦し続け、決して防衛的になったりしないように心がけること。
Ⅲ．ビジョンの共有	１人１人のビジョン（思い）を結びつけ、対話を通して共有ビジョンにまで高めて、それを共有し、全員がビジョンに対して自覚を持って参加すること。
Ⅳ．チーム学習	組織学習の基本単位がチームである。チーム単位で学習し合ったり、コミュニケーションを通して自然に情報の共有ができたり、学び合うこと。
Ⅴ．システム思考	すべて物事はシステムとしてすべて繋がっているという〈ものの見方〉。したがって、システム内の１つの要素（それはあなたかもしれない）が変化すれば、その影響は相互的に関連したシステム全体に波及するということ。
プラスアルファ５要素（遠藤・小野寺 2007）	
Ⅵ．ポジティブシンキング	物事をポジティブに前向きに考えること。人や物事に潜むプラスの側面を見出す。
Ⅶ．遊び心・ユーモア・笑い	仕事の中に遊び心・ユーモア・笑いを取り入れること
Ⅷ．ソーシャル・キャピタル（社会関係資本：Social Capital）	人々の協調行動を促進することにより、その社会の効率を高める働きをする社会制度であり、具体的には「信頼」「互酬性の規範」「社会的ネットワーク」などのこと。
Ⅸ．エンパワーメント	権限委譲したり、相手を信頼して意志決定などを任せて、責任意識の自覚ややる気を引き出す働きかけ。
Ⅹ．ＯＪＬコーチング	学習する組織を作るため、および職場の潜在能力を最大限に引き出すために行われる全ての働きかけ。対人的なレベルでは、傾聴と質問を通した可能性を引き出す会話を通してなされる。

（３）本校における導入の経緯

福島県特別支援教育センターでは、このＯＪＬの概念を基に、平成２８・２９年度の教育研究「特別支援学校教員の協働による専門性の向上・継承と校内組織の活性化～学び合う学校組織（0JL）への取組～」に取り組んでいる。本校は研究協力校として、実践研究に協力する中で、ＯＪＬの理念の重要さに気付くとともに、自律的相互学習による組織風土の改善こそが、これからの学校づくりを進めて行く上で重要になると考え、校内研修計画の現職教育の方針に取り入れて実践を進めてきた。

２　本校のＯＪＬで目指す姿

（１）本校の校内研修計画

本校校内研修の大きな柱を校内研究と現職教育の２つの柱とし、授業力と組織力を相互に高めることをねらいとして校内研修を進めた。（図１）

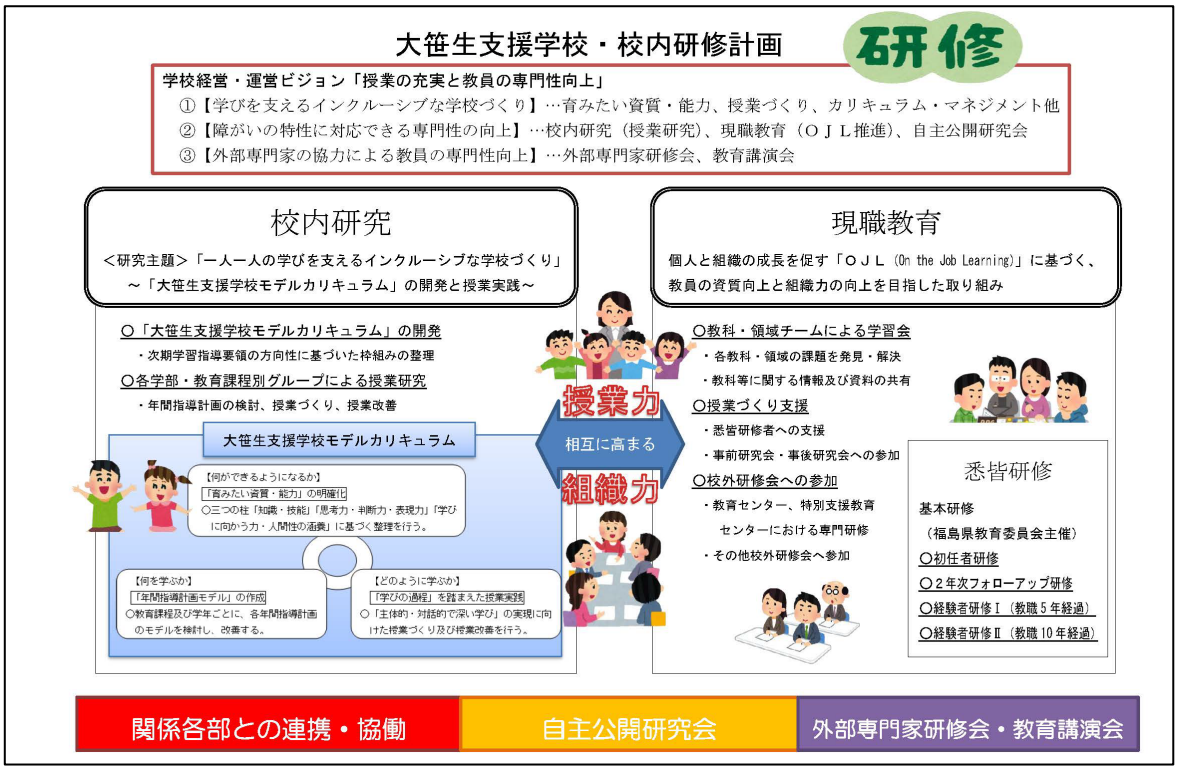


図１　大笹生支援学校・校内研修計画

（２）ＯＪＬで目指す姿（ビジョン）

ＯＪＬを推進するに当たり、本校では図２のようなビジョンを示し、教科・領域チームによる組織の活性化を図る取り組みを進めることとした。授業づくりや授業力に関わる研修が各個人にとって最も成果を感じる内容であり、個々のニーズに基づく専門的な学習やその専門性を生かした学び合う組織を構築できるのではないかと考えた。

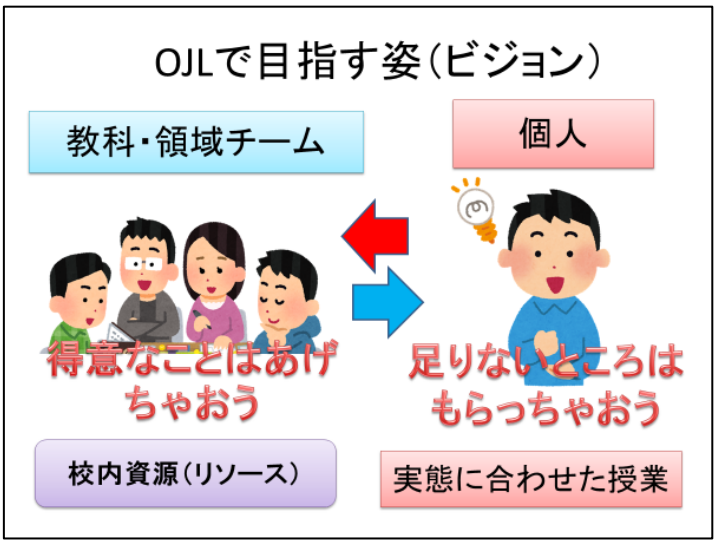


図２　大笹生支援学校のＯＪＬで目指す姿（ビジョン）

３　平成２９・３０年度の取組の概要

（１）教科・領域チームによる学習会

教科・領域チームによる学習会は、小中高の縦割りの組織編成とした。初めにそれぞれのチームで本校の課題について洗い出す作業を行った。チームで共有した課題に基づいて、課題解決の取組や必要な研修についての自主的な学習会を実施した。実施した概要は下記の表の通りである。

	教科・領域チーム	主な実施内容
1	生活科 （日常生活の指導）	・予定表、掲示物等の教室環境の写真をデータ化した。 ・基本的な生活習慣で、困っていること、必要なことなどのアンケートを実施し、結果を全職員に配付した。
2	生活科 （生活単元学習）	・実施している単元や教材など授業事例を紹介し合った。 ・事例集を作成し、全職員が閲覧できるようにした。
3	国語科	・国語の授業づくり支援に参加した。 ・言葉の発達について、児童の事例を共に学び合った。
4	算数・数学科	・算数数学の授業づくり支援に参加した。・自作教材の紹介。 ・教材室の教材を調べ、算数科で使えるものをデータ化。全職員が閲覧できるようにした。
5	音楽科	・楽器の定期点検と使い方についての改善策を検討した。 ・音楽の評価の在り方についての話し合いを行った。 ・各学部の年間指導計画を共有し、内容の共通理解を図った。
6	図画工作・美術科	・作品制作に向けての事例を各学部から出し合い、用具や指導法等についての協議を行った。 ・作品集のデータをフォルダに入れる。
7	体育・保健体育科	・保健体育の授業づくり支援に参加した。 ・学習指導要領を参考に教育課程について話し合いをした。
8	社会科・理科 （生活単元学習・作業学習）	・社会・理科の目標や内容についての情報共有。 ・中学部・高等部における教科別の指導メリット、各教科等を合わせた指導のメリットについての協議を行った。
9	職業科 （作業学習）	・高等部の特別支援学校学習指導要領解説を読み合わせ、職業科の意義、目標、内容について学び合った。 ・現状の職業科の課題点を協議し、必要な授業内容を検討した。
10	家庭科 （生活単元学習）	・家庭科の授業づくり支援に参加した。 ・小・中・特別支援学校の学習指導要領解説を比較したり、調理について調べ、協議した。

11	道徳科 （特別の教科道徳）	・道徳教育と道徳科の関連等、資料や研修動画、地区別研修会の報告等、基本的な情報整理と協議を行った。 ・道徳教育全体計画を見直し、改善案を提案し、配付した。
12	総合的な学習の時間	・新しい学習指導要領についての内容を確認した。 ・中学部、高等部それぞれの実施計画と取組の経過について情報交換と協議を行った。
13	特別活動	・特別活動について、新しい学習指導要領の内容確認を行った。 ・本校の各行事や交流及び共同学習について、目的や時期等について協議を行った。
14	自立活動１ （肢体不自由）	・チーム内にいた動作法に詳しい先生に校内講師を依頼し、動作法についての実技研修を実施した。
15	自立活動２ （自閉症・情緒障がい）	・自閉症教育実践マスターブックを基に特性に応じた教育について確認したり、教材や資料について紹介し合ったりした。 ・グループごとに児童生徒の事例について話し合った。

教材教具の整理・共有化

自立活動の指導に生かす実技研修

（２）教科・領域チームによる授業づくり支援

２年次フォローアップ研修教員や経験者研修Ⅰ（５年目経過）、経験者研修Ⅱ（１０年目経過）の教員の研究授業を対象に授業づくり支援を実施した。主に研究授業の事前研究会や事後研究会に教科・領域チームのメンバー数名が参加し、意見交換をしながら、互いに学び合うものである。２年間で、生活単元学習や国語、算数数学、保健体育、家庭科等の授業づくりで実施した。

（３）若手教員のアシストミーティング

若手教員の授業づくりや児童生徒の見取りについての疑問に対し、同僚や先輩教員が意見を出し合い、課題解決の一助にする取組である。形式的な授業研究ではなく、座談会のような雰囲気で取り組めるようにした。アシストミーティング後に児童生徒について話題を出しやすくなるなど、教員間の関係作りにも良い影響が見られた。

アシストミーティングの様子

（４）ＯＪＬに関する研修会

前述した元ふくしま自治研修センター客員教授（現立正大学非常勤講師）の小野寺哲夫氏を招き、ＯＪＬの理念や基礎知識についてワークショップ形式を交えながら研修会を行った。ＯＪＬの理念の共有につながり、組織文化や風土を改善することの重要性を学ぶ機会となった。

小野寺哲夫氏によるＯＪＬ研修会の様子

第４節　公開研究会

１　公開研究会の趣旨とテーマ
２　授業公開
３　ポスター発表
４　研究協議分科会
５　教育講演会

公開研究会

１　公開研究会の趣旨とテーマ

本年度、本校では初めてとなる公開研究会を実施した。これまでの本校における取組の発信に加え、「インクルーシブな学校」の理念に基づき、本校の児童生徒を含め地域の子供たちのために、地域の教育を支える教員と本校の教員が多様な立場を尊重しつつ学び合い、連携・協働のきっかけとなる場を提供することを目指した。

こうした願いの基、テーマを「みんなが学ぶ・みんなと学ぶ地域の支援学校を目指して」と題した。副主題には、本校の校内研究のテーマとの関連が深い、「新しい学習指導要領と授業づくり」と題した。本研修集録に掲載されている本校の学校づくりの取組について、地域に開き、共に学び合いながら地域の教育力の向上に貢献することが本校の使命であると考える。

＜平成 30 年度公開研究会テーマ＞
みんなが学ぶ・みんなと学ぶ地域の支援学校を目指して
～新しい学習指導要領と授業づくり～

２　授業公開

授業公開では、２校時目、３校時目を全公開とし、全ての学級の授業を公開した。本校の取組が分かるように、年間指導計画一覧（本研究集録第１章第４節、第２章第１節）と簡易な指導案を掲示した。参加者はそれぞれに関心のある授業を見学したり、様々な学部の教育環境や取組を見学したりした。事後アンケートでは、「全ての授業を公開していただいたので、自分の関心のある授業を見ることができた。」「いろいろな学部の様子を見学できたのがよかった。」など、好評をいただいた。

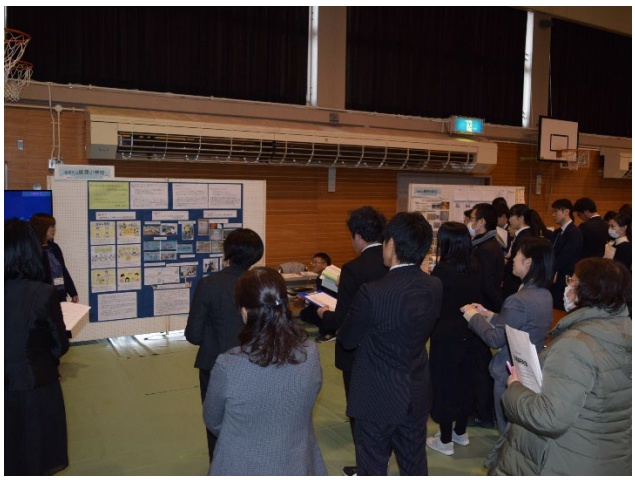
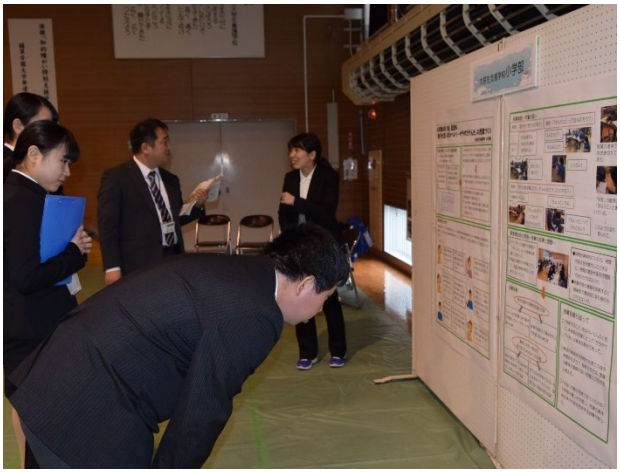
授業公開の様子

３　ポスター発表

ポスター発表では、地域の小学校特別支援学級や通級による指導をリードする先生方に協力をいただき、各校での実践的な取組を３事例発表していただいた。発表に加え、実際の教材を多数展示していただき、参加者と情報交換するなど、活発な交流が見られた。地域の特別支援教育に携わる参加者はもちろん、本校の教職員にとっても貴重な学びの場となった。本校教員のアンケートからは、「特別支援学級の取組についてあまり知らなかったので、学ぶことができてとてもよかった。」などの感想が多数見られ、大変好評だった。

併せて本校の取組についても６事例について発表し、地域の教員や学生などと活発な意見交換を行うことができた。

№.	発表内容	発表者
1	小学校・通級による指導 「通級指導教室（けやき教室）の概要」	福島市立平野小学校 教諭　岩谷亜希子　氏 教諭　赤間ゆかり　氏
2	小学校・特別支援学級（知的障がい学級） 「見通しを持ち、主体的に学習・生活できる子どもの育成を目指して～視覚支援を中心とした手立ての工夫を通して～」	福島市立鎌田小学校 教諭　須田　悦子　氏
3	小学校・特別支援学級（自閉症情緒学級） 「共に学ぶ児童の育成をめざした支援学級からの発信～『知って』『見て』『いっしょに』大作戦～」	国見町立国見小学校 教諭　齋藤　道子　氏
4	特別支援学校・校内研究 「一人一人の学びを支えるインクルーシブな学校づくり～大笹生支援学校モデルカリキュラムの開発と授業実践～」	大笹生支援学校 教諭　鴫原　一寿 （研修部）
5	特別支援学校・現職教育 「個人と組織の成長を促す『OJL（On the Job Learning)』に基づく、教員の資質向上と組織力の向上を目指した取組」	大笹生支援学校 教諭　相沢すみ子 （研修部）
6	特別支援学校・地域支援センター 「地域支援センターささっこの取り組み」	大笹生支援学校 教諭　大竹　和美 （教育支援部）
7	特別支援学校・小学部授業づくり 「小学部４年１組国語科の授業づくり」	大笹生支援学校 教諭　八巻　茉以 （小学部）
8	特別支援学校・中学部授業づくり 「中学部１年２組国語科の授業づくり」	大笹生支援学校 教諭　佐川　裕美 （中学部）
9	特別支援学校・高等部授業づくり 「高等部作業学習の授業づくり～レザー加工班･クリーン活動班～」	大笹生支援学校 教諭　江田　綾 （高等部）

ポスター発表の様子

4　研究協議分科会

研究協議分科会は、教務部、研修部、教育支援部の取組について話題提供をし、参加者と意見交換を行った。新しい学習指導要領や地域支援センターなどの先進的な取組について協議することができた。研究協議分科会の内容は、本研究集録に掲載されている内容である。また、分科会②については、福島県特別支援教育センター教育研究「知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科の指導」の研究協力の一環として実施した。

No.	協議内容	担当者
1	分科会① 「新しい学習指導要領に基づくカリキュラム・マネジメント」	大笹生支援学校・教務部 話題提供者　教諭　佐藤　智 司会進行　　教諭　石井　忠一
2	分科会② 「知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校における各教科の指導」	大笹生支援学校・研修部 話題提供者　教諭　小暮　創史 司会進行　　教諭　中村里永子
3	分科会③ 「地域支援センターささっこの取組」	大笹生支援学校・教育支援部 話題提供者　教諭　大竹　和美 司会進行　　教諭　菅　玲子

研究協議分科会の様子

５　教育講演会

教育講演会では、新しい学習指導要領で示されたこれから求められる「主体的・対話的で深い学び」の在り方について、植草学園大学発達教育学部准教授の菊地一文氏より、御講演いただいた。菊地氏からは、「主体的・対話的で深い学び」が求められる背景として、「社会に開かれた教育課程」の理念、育成を目指す資質・能力、カリキュラム・マネジメント等、幅広く解説していただいた。また、キャリア発達の視点から、キャリア教育や地域共同活動の重要性について多数の事例を交えて取組の方向性について御示唆いただいた。

なお、本教育講演会は、福島県の「特別支援学校教科指導充実事業（H30）」の一環として実施した。

＜演題＞知的障がい特別支援学校における主体的・対話的で深い学び
＜講師＞植草学園大学発達教育学部　准教授　菊地 一文　氏

教育講演会の様子（菊地一文氏）

編集後記

本研究集録は、平成３０年度の大笹生支援学校の取組をまとめたものです。第１章は、３年次計画で取り組んでいる校内研究「一人一人の学びを支えるインクルーシブな学校づくり」の２年次の取組をまとめました。なぜ、何のための研究か、取組への思いが分かるように編集しました。

第２章は、研究主題と関連のある様々な本校での取り組みをまとめました。主に教務部、研修部、教育支援部などの取組について紹介しています。本校は、学校全体でビジョンを共有し、その実現に向けて連携・協働していくことを大切にしてきましたので、そのつながりを感じていただければと思います。

本校は、教職員１５０名を超え特別支援学校としては大きな規模の組織です。一人一人がビジョンを共有し、連携・協働していくことは簡単ではありません。本校においても、まだまだ課題は多くありますが、対話を図り、衝突を乗り越えながら、少しずつ理念やビジョンの共有が図られ、学校の雰囲気が変わってきていることを感じます。

学習指導要領が新しくなり、私たちの指導観や組織観も時代に合わせて見直していく必要があります。本集録を通して、自分たちの取組をまとめ、自分たちの歩みを改めて見つめ直す機会としたいと考えております。関係の皆様方から、忌憚ないご意見をいただくとともに、共に学び合い特別支援教育の充実と発展に向けて歩みを進めていければと思います。

本校の研究にご協力いただきました、滝坂信一様、菊地一文様、小野寺哲夫様、岡澤慎一様に改めて感謝申し上げます。併せて本校の研究への助成をいただきました（財）日本教育公務員弘済会福島支部様に感謝申し上げます。

平成３１年３月２５日　　福島県立大笹生支援学校研修部

児童生徒一人一人の自立と社会参加を目指し、
たくましい生活力と心豊かな人間の育成を図る

福島県立大笹生支援学校

〒９６０－０２５１　福島県福島市大笹生字俎板山１８２番地の２
電話：024－558－8710　FAX：024－556－0416
E-MAIL　ohzasou-sh@fcs.ed.jp